

第二章 調査結果の概要

～単純集計結果を中心に～

第二章 調査結果の概要～単純集計結果を中心に～

この章では、調査データのうち、主として単純集計データを通して把握することができる調査結果の概要を明らかにします。市民が人権・同和問題について、どう認識し、どう考えているか、その概要を把握します。

第1節 人権・同和問題に関する学習経験

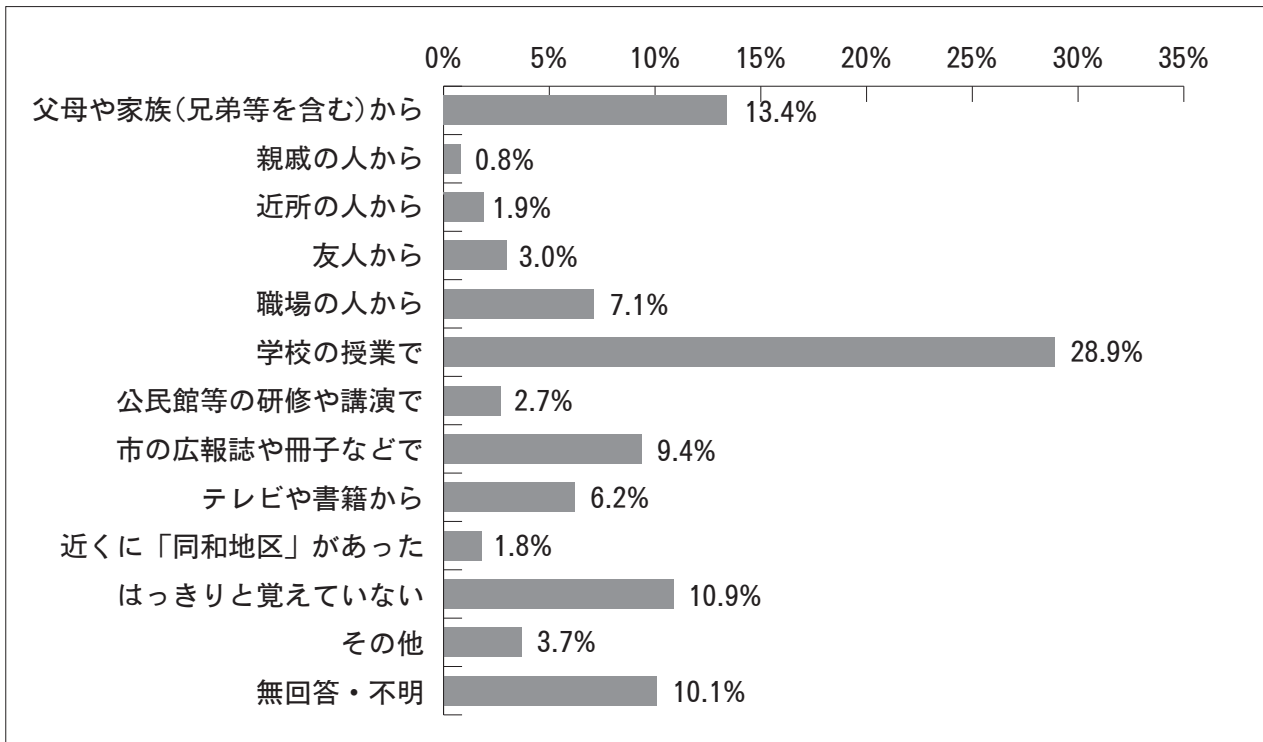
この節は、市民が人権・同和問題に関して、どんな契機で、どんな内容の学習を経験したと受け止めているか、学習経験の受け止めに関する実態を把握しようとする部分です。家庭や地域社会においてはもちろん、学校や社会教育施設などにおける人権・同和教育や啓発活動をどの程度経験しているのか、その実態を探ります。

1 同和問題を知った契機

問17 あなたが、同和問題をはじめて知ったきっかけは、何からですか。(○は1つだけ)

表—6

		回答者数	父母や家族 (兄弟等を含む) から	親戚の人 から	近所の人 から	友人から	職場の人 から	学校の 授業で	公民館等 の研修や 講演で	市の広報 誌や冊子 などで	テレビや 書籍から	近くに「同 和地区」 があった	はっきり と覚えて いない	その他	無回答・ 不明
市全体		1,580 100.0%	212 13.4%	13 0.8%	30 1.9%	47 3.0%	112 7.1%	457 28.9%	43 2.7%	148 9.4%	98 6.2%	29 1.8%	172 10.9%	59 3.7%	160 10.1%
性別	男性	648 100.0%	87 13.4%	5 0.8%	7 1.1%	18 2.8%	71 11.0%	163 25.2%	21 3.2%	47 7.3%	46 7.1%	15 2.3%	88 13.6%	24 3.7%	56 8.6%
	女性	932 100.0%	125 13.4%	8 0.9%	23 2.5%	29 3.1%	41 4.4%	294 31.5%	22 2.4%	101 10.8%	52 5.6%	14 1.5%	84 9.0%	35 3.8%	104 11.2%
年齢別	20歳代	161 100.0%	7 4.3%	2 1.2%	0 0.0%	2 1.2%	3 1.9%	93 57.8%	0 0.0%	2 1.2%	2 1.2%	0 0.0%	30 18.6%	16 9.9%	4 2.5%
	30歳代	262 100.0%	26 9.9%	1 0.4%	0 0.0%	3 1.1%	9 3.4%	149 56.9%	1 0.4%	11 4.2%	5 1.9%	2 0.8%	24 9.2%	9 3.4%	22 8.4%
	40歳代	229 100.0%	21 9.2%	1 0.4%	0 0.0%	4 1.7%	13 5.7%	119 52.0%	8 3.5%	7 3.1%	8 3.5%	2 0.9%	24 10.5%	5 2.2%	17 7.4%
	50歳代	315 100.0%	55 17.5%	2 0.6%	6 1.9%	13 4.1%	31 9.8%	60 19.0%	6 1.9%	34 10.8%	24 7.6%	3 1.0%	30 9.5%	13 4.1%	38 12.1%
	60歳代	321 100.0%	62 19.3%	4 1.2%	8 2.5%	10 3.1%	33 10.3%	26 8.1%	11 3.4%	49 15.3%	28 8.7%	8 2.5%	25 7.8%	11 3.4%	46 14.3%
	70歳以上	292 100.0%	41 14.0%	3 1.0%	16 5.5%	15 5.1%	23 7.9%	10 3.4%	17 5.8%	45 15.4%	31 10.6%	14 4.8%	39 13.4%	5 1.7%	33 11.3%



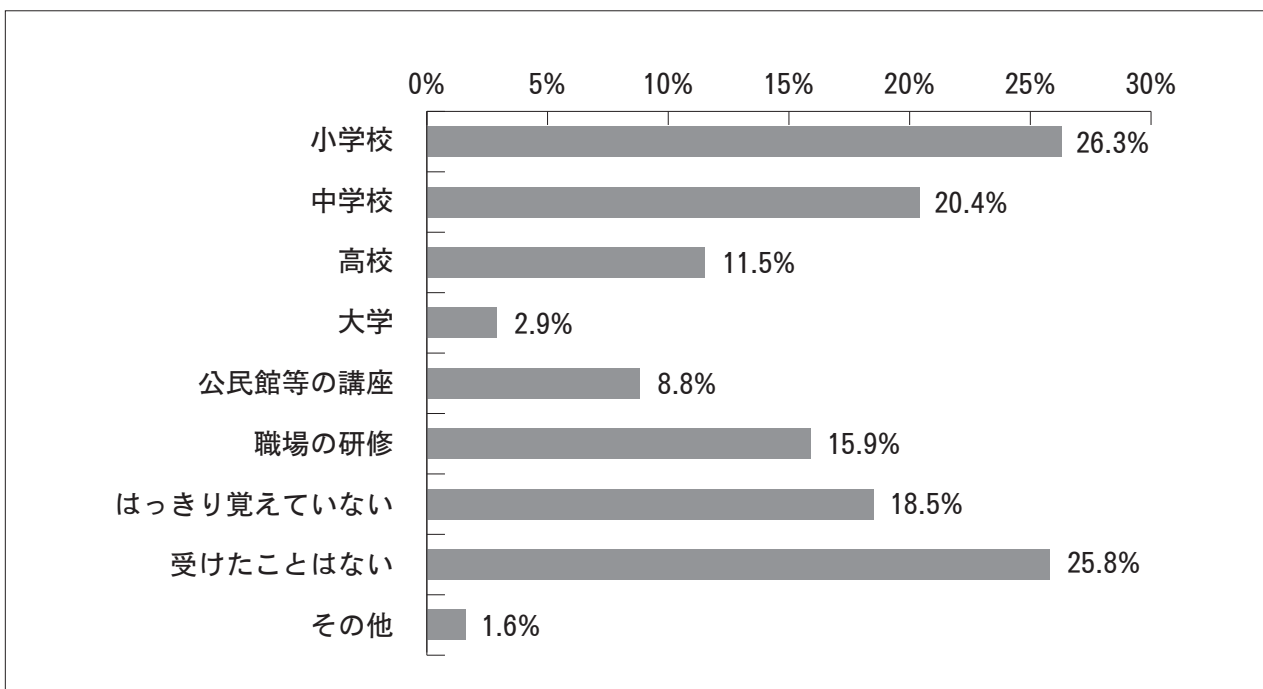
全体としては、「無回答・不明」や「はっきりと覚えていない」という回答が合わせて21%ありますが、比率の上で特に高いのが「学校の授業で」知ったという回答で、28.9%になっています。家族や市の広報誌から知ったという回答も10%前後という比較的高い比率になっています。特徴的なのは、授業を契機として知った人が20歳代～40歳代の若い年齢層に多いのに対して、家族や広報誌を問題認識の契機とした人は50歳代以上の高い年齢層に多いことです。家族内コミュニケーション、学校における教育、市の広報などの啓発機能とその重要性の一端を示す数値が示されていると考えることができます。

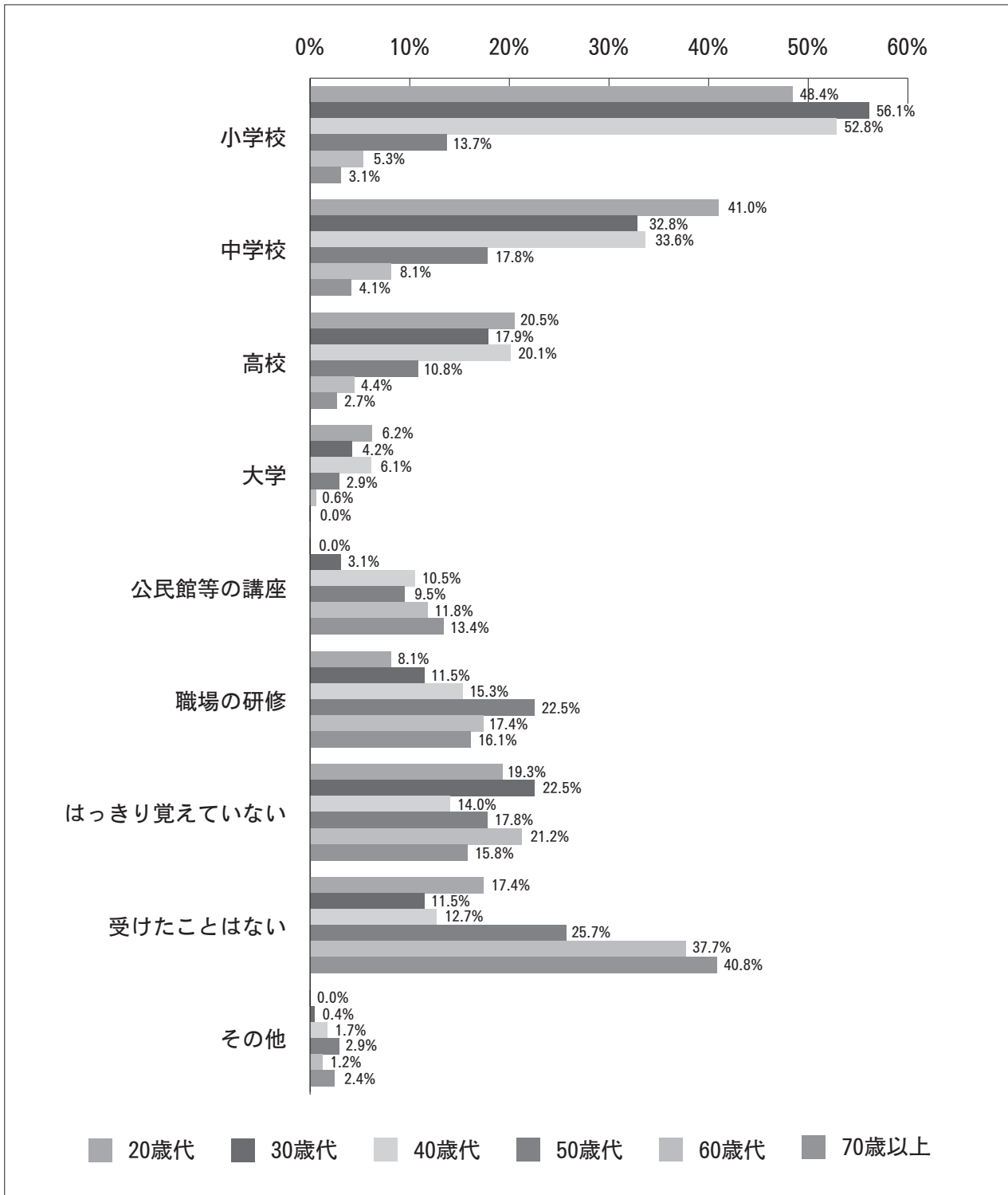
2 同和問題の学習経験

問24 あなたは、これまで、学校・職場・地域などで、同和問題についての学習を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

表-7

		回答者数	小学校	中学校	高校	大学	の公民館等講座	職場の研修	はっきり覚えていない	受けたことはない	その他
市全体		1,580 100.0%	415 26.3%	323 20.4%	182 11.5%	46 2.9%	139 8.8%	252 15.9%	292 18.5%	408 25.8%	25 1.6%
性別	男性	648 100.0%	144 22.2%	125 19.3%	74 11.4%	17 2.6%	52 8.0%	152 23.5%	112 17.3%	166 25.6%	5 0.8%
	女性	932 100.0%	271 29.1%	198 21.2%	108 11.6%	29 3.1%	87 9.3%	100 10.7%	180 19.3%	242 26.0%	20 2.1%
年齢別	20歳代	161 100.0%	78 48.4%	66 41.0%	33 20.5%	10 6.2%	0 0.0%	13 8.1%	31 19.3%	28 17.4%	0 0.0%
	30歳代	262 100.0%	147 56.1%	86 32.8%	47 17.9%	11 4.2%	8 3.1%	30 11.5%	59 22.5%	30 11.5%	1 0.4%
	40歳代	229 100.0%	121 52.8%	77 33.6%	46 20.1%	14 6.1%	24 10.5%	35 15.3%	32 14.0%	29 12.7%	4 1.7%
	50歳代	315 100.0%	43 13.7%	56 17.8%	34 10.8%	9 2.9%	30 9.5%	71 22.5%	56 17.8%	81 25.7%	9 2.9%
	60歳代	321 100.0%	17 5.3%	26 8.1%	14 4.4%	2 0.6%	38 11.8%	56 17.4%	68 21.2%	121 37.7%	4 1.2%
	70歳以上	292 100.0%	9 3.1%	12 4.1%	8 2.7%	0 0.0%	39 13.4%	47 16.1%	46 15.8%	119 40.8%	7 2.4%





同和問題を知った契機として学校の授業が最も多数の人に指摘されましたが、では、同和問題の学習経験について、学校はどんな役割を果たしてきたと言えるでしょうか。

同和問題に対する学習経験がないとする人が25.8%となっています。これは50歳代以上の年齢層に多いことがわかりますが、同時に20歳代にも17.4%います。30歳代～40歳代と比べ、20歳代に学習経験がないとする回答が高いのはなぜでしょう。同和問題の学習を小学校～大学までの学校で経験したと回答する人の合計は、20歳代と30歳代・40歳代の間に大きな差はありません。差が見られるのは、「公民館等の講座」と「職場の研修」という項目の選択率です。

ところで、学校で同和問題についての学習を受けたとする回答に絞って見ますと、小学校、中学校、高等学校、大学の順に高いことがわかりますが、小学校と中学校間に大きな差がありません。大分市には市外、大分県外からも人の流入がありますから、大分市の学校教育だけがここに反映されていることにはなりません。しかし、同和問題解決に向けて、少なくとも40歳代以下の若年層の場合、全国的にどの学校でも同和教育を受けたと考えられます。とすれば、問題を知った契機を「小学校」の授業であると答える人が圧倒的に高くなるはずですが、そうならないとすれば、それは、小学生の時の同和問題に関する学習内容が本人の脳裡に余り鮮明に残っていないか、学校の授業で知ったことは確かだが、鮮明に記憶しているのは中学校（あるいは高等学校）の授業であったという事情によるものではないかということになります。

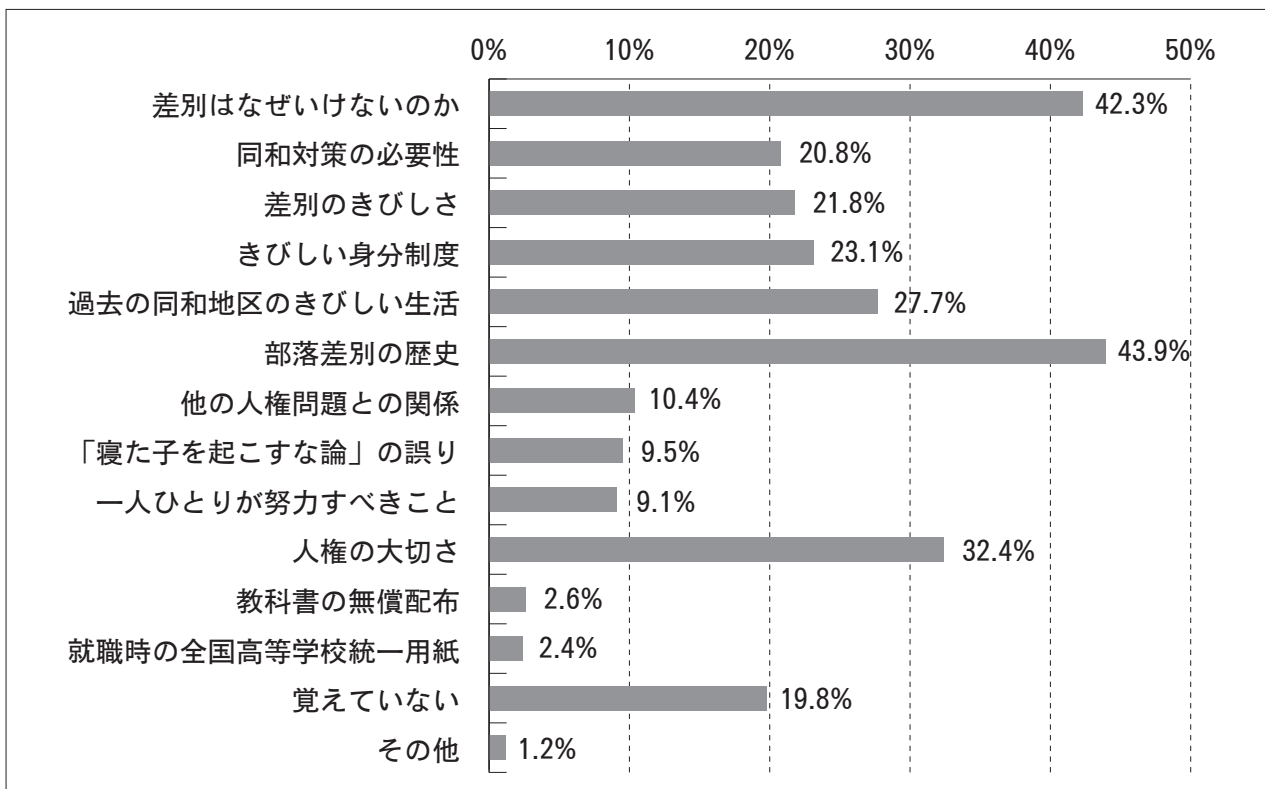
3 同和問題の学習内容

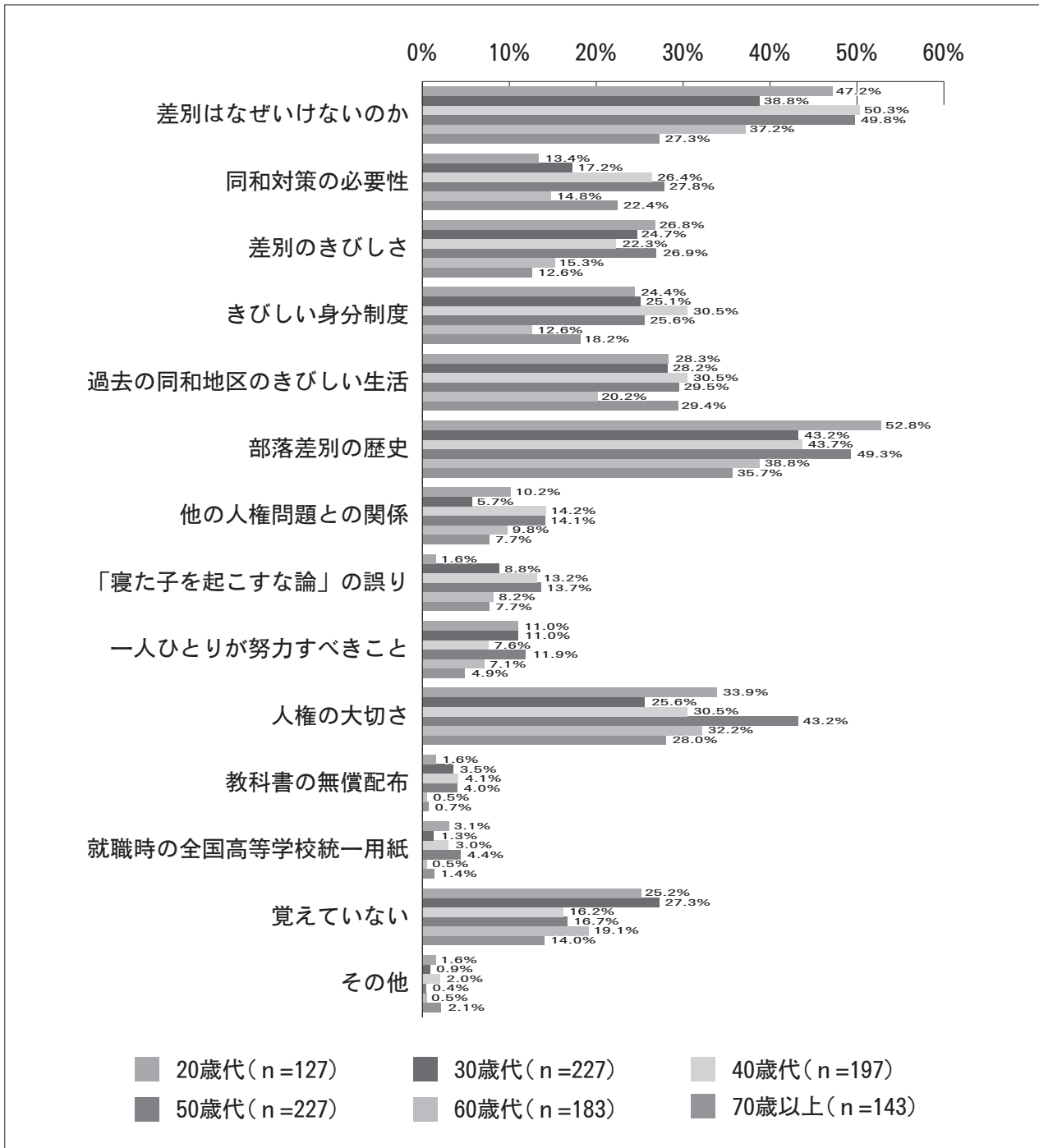
問25 それはどのような内容だったのでしょうか。 (〇はいくつでも)

(問24: 同和問題の学習経験)

表—8

	回答者数	のい かけ ない	差別 はな ぜい けな いの か	の同 和対 策の 必要 性	き差 びし さの	身き びし 度い	し地 区の きび しい 生活	過去 の同 和地 区の 生活	の部 落差 別	他の 人権 問題 との 関係	論「 寝た 子を 起こ すな 論」 の誤 り	一人 ひと りが 努力 すべ きこ と	大人 切権 さの	無教 科書 の無 償配 布の	統国 一高 等学 校統 一用 紙	就職 時の 全国 高等 学校	い覚 えな いて	そ の 他
市全体	1,104	467	230	241	255	306	485	115	105	101	358	29	26	219	13			
	100.0%	42.3%	20.8%	21.8%	23.1%	27.7%	43.9%	10.4%	9.5%	9.1%	32.4%	2.6%	2.4%	19.8%	1.2%			
性別	男性	453	198	121	99	111	122	211	54	52	47	154	13	17	81	3		
	女性	651	269	109	142	144	184	274	61	53	54	204	16	9	138	10		
	100.0%	41.3%	16.7%	21.8%	22.1%	28.3%	42.1%	9.4%	8.1%	8.3%	31.3%	2.5%	1.4%	21.2%	1.5%			
年齢別	20歳代	127	60	17	34	31	36	67	13	2	14	43	2	4	32	2		
		100.0%	47.2%	13.4%	26.8%	24.4%	28.3%	52.8%	10.2%	1.6%	11.0%	33.9%	1.6%	3.1%	25.2%	1.6%		
	30歳代	227	88	39	56	57	64	98	13	20	25	58	8	3	62	2		
		100.0%	38.8%	17.2%	24.7%	25.1%	28.2%	43.2%	5.7%	8.8%	11.0%	25.6%	3.5%	1.3%	27.3%	0.9%		
	40歳代	197	99	52	44	60	60	86	28	26	15	60	8	6	32	4		
		100.0%	50.3%	26.4%	22.3%	30.5%	30.5%	43.7%	14.2%	13.2%	7.6%	30.5%	4.1%	3.0%	16.2%	2.0%		
50歳代	227	113	63	61	58	67	112	32	31	27	98	9	10	38	1			
	100.0%	49.8%	27.8%	26.9%	25.6%	29.5%	49.3%	14.1%	13.7%	11.9%	43.2%	4.0%	4.4%	16.7%	0.4%			
60歳代	183	68	27	28	23	37	71	18	15	13	59	1	1	35	1			
	100.0%	37.2%	14.8%	15.3%	12.6%	20.2%	38.8%	9.8%	8.2%	7.1%	32.2%	0.5%	0.5%	19.1%	0.5%			
70歳以上	143	39	32	18	26	42	51	11	11	7	40	1	2	20	3			
	100.0%	27.3%	22.4%	12.6%	18.2%	29.4%	35.7%	7.7%	7.7%	4.9%	28.0%	0.7%	1.4%	14.0%	2.1%			





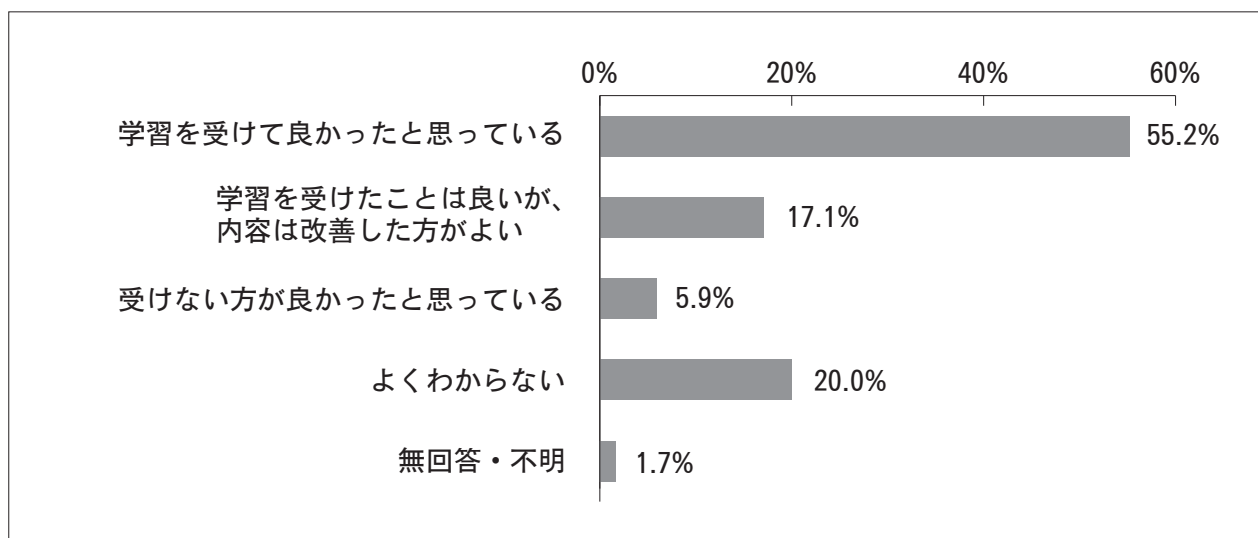
学習した内容を高い順に示せば、「部落差別の歴史」「差別はなぜいけないのか」「人権の大切さ」などが30%以上となっています。次に高い内容を順に示せば、「過去の同和地区のきびしい生活」「きびしい身分制度」「差別のきびしさ」「同和対策の必要性」が20%を超えています。「『寝た子を起こすな』論の誤り」「教科書の無償配布」「就職時の全国高等学校統一用紙」については学習したことを思い出す人が10%に満たないことがわかります。特に20歳代で数値の低いのが目立ちます。

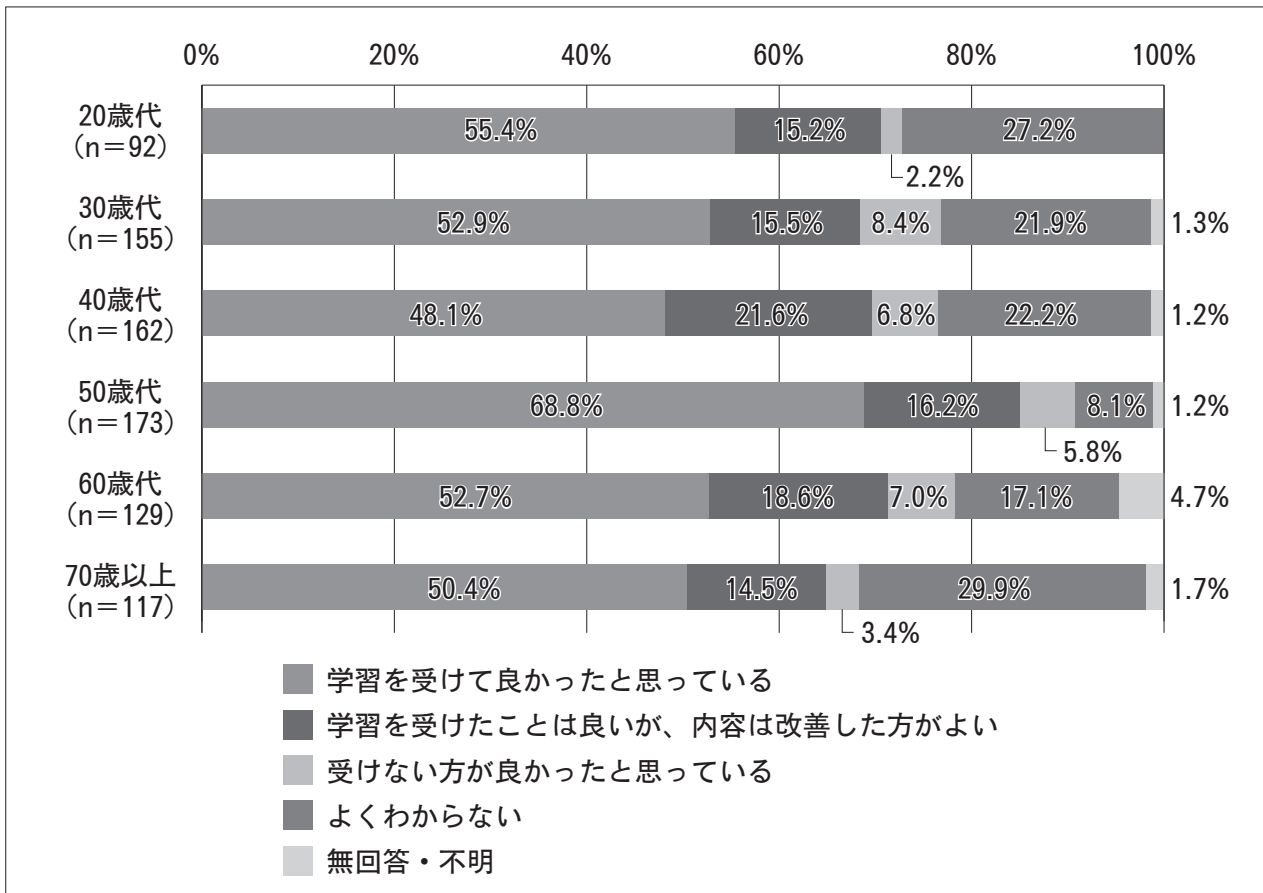
4 同和問題の学習に対する評価

問26 こうした学習を受けたことについて、今どう感じていますか。(○は1つだけ)
(問25：同和問題の学習内容)

表－9

		回 答 者 数	学 習 を 受 け て 良 か っ た と 思 っ て い る	学 習 を 受 け た こ と は 良 い が、 内 容 は 改 善 し た 方 が よ い	受 け な い 方 が 良 か っ た と 思 っ て い る	よ く わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		828 100.0%	457 55.2%	142 17.1%	49 5.9%	166 20.0%	14 1.7%
性 別	男 性	345 100.0%	184 53.3%	73 21.2%	21 6.1%	61 17.7%	6 1.7%
	女 性	483 100.0%	273 56.5%	69 14.3%	28 5.8%	105 21.7%	8 1.7%
年 齢 別	20 歳 代	92 100.0%	51 55.4%	14 15.2%	2 2.2%	25 27.2%	0 0.0%
	30 歳 代	155 100.0%	82 52.9%	24 15.5%	13 8.4%	34 21.9%	2 1.3%
	40 歳 代	162 100.0%	78 48.1%	35 21.6%	11 6.8%	36 22.2%	2 1.2%
	50 歳 代	173 100.0%	119 68.8%	28 16.2%	10 5.8%	14 8.1%	2 1.2%
	60 歳 代	129 100.0%	68 52.7%	24 18.6%	9 7.0%	22 17.1%	6 4.7%
	70歳以上	117 100.0%	59 50.4%	17 14.5%	4 3.4%	35 29.9%	2 1.7%





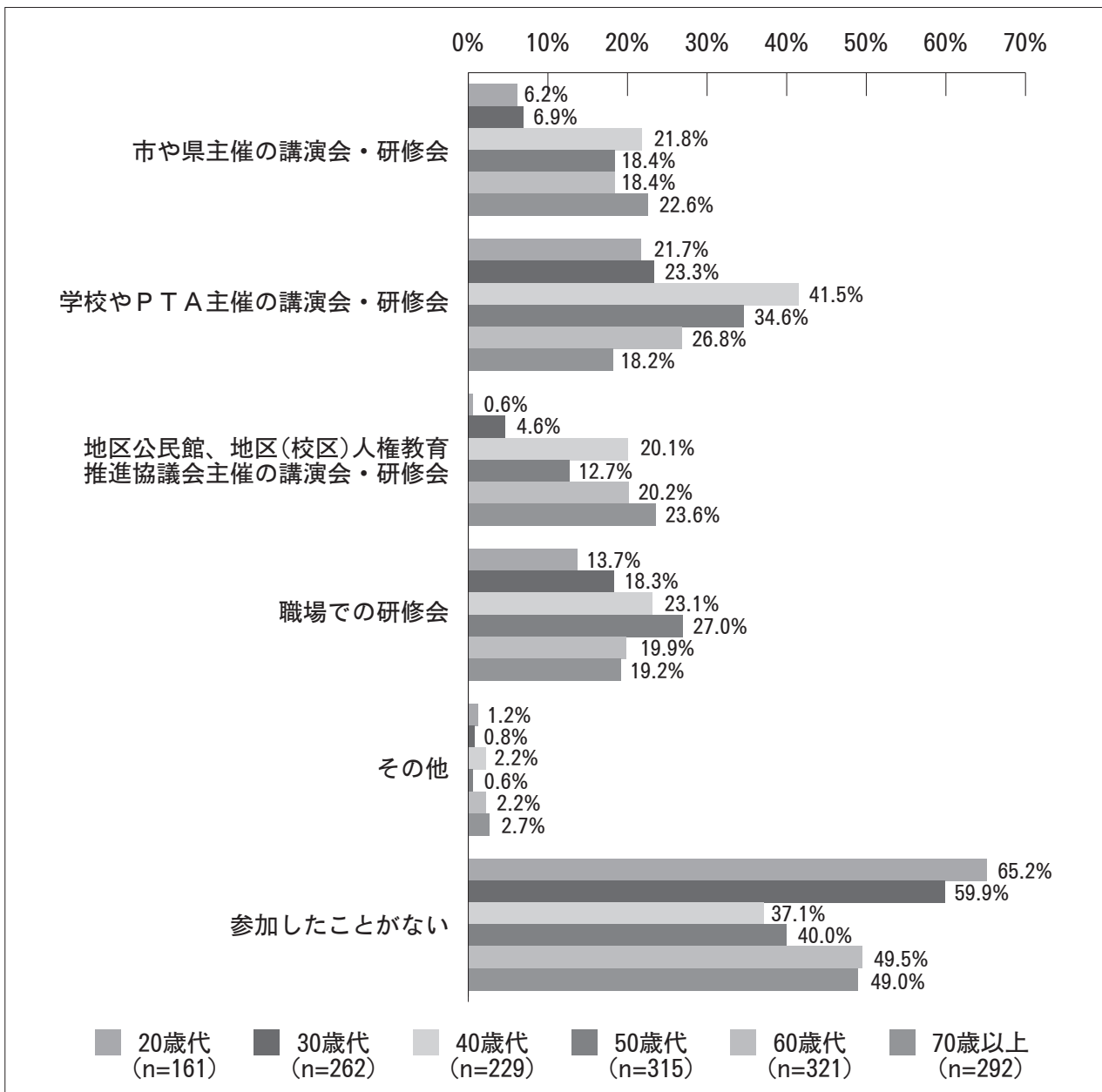
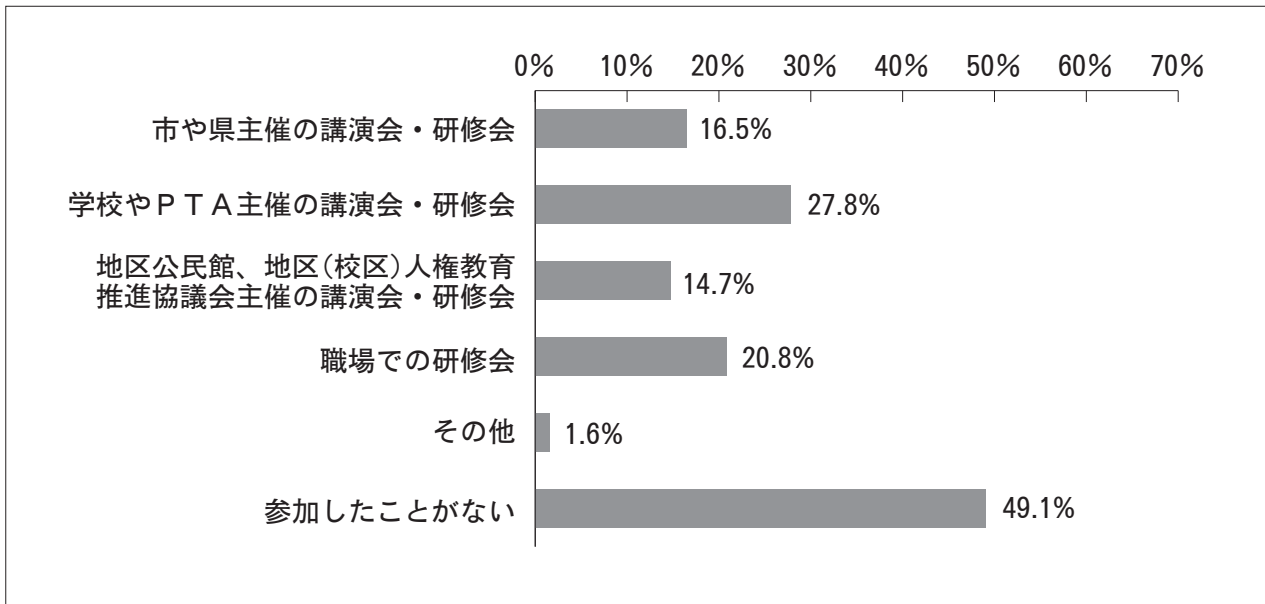
「受けない方が良かったと思っている」は5.9%で、55.2%が「学習を受けて良かったと思っている」と評価しています。ただ、「良かったが内容は改善した方がよい」と思う人が17%強おり、さらに、「よくわからない」と答えた人が20%いることは、今後の人権・同和教育の進め方について検討が必要なことを示唆する数値と考えられます。

5 社会教育における人権問題の学習経験

問13 あなたは、次にあげる人権問題に関する講演会や研修会に参加したことがありますか。
(○はいくつでも)

表—10

		回 答 者 数	市 や 県 主 催 の 講 演 会 ・ 研 修 会	学 校 や P T A 主 催 の 講 演 会 ・ 研 修 会	地 区 公 民 館 、 地 区 (校 区) 人 権 教 育 推 進 協 議 会 主 催 の 講 演 会 ・ 研 修 会	職 場 で の 研 修 会	そ の 他	参 加 し た こ と が な い
市 全 体		1,580 100.0%	261 16.5%	439 27.8%	233 14.7%	328 20.8%	26 1.6%	775 49.1%
性 別	男 性	648 100.0%	120 18.5%	94 14.5%	88 13.6%	178 27.5%	13 2.0%	338 52.2%
	女 性	932 100.0%	141 15.1%	345 37.0%	145 15.6%	150 16.1%	13 1.4%	437 46.9%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	10 6.2%	35 21.7%	1 0.6%	22 13.7%	2 1.2%	105 65.2%
	30 歳 代	262 100.0%	18 6.9%	61 23.3%	12 4.6%	48 18.3%	2 0.8%	157 59.9%
	40 歳 代	229 100.0%	50 21.8%	95 41.5%	46 20.1%	53 23.1%	5 2.2%	85 37.1%
	50 歳 代	315 100.0%	58 18.4%	109 34.6%	40 12.7%	85 27.0%	2 0.6%	126 40.0%
	60 歳 代	321 100.0%	59 18.4%	86 26.8%	65 20.2%	64 19.9%	7 2.2%	159 49.5%
	70歳以上	292 100.0%	66 22.6%	53 18.2%	69 23.6%	56 19.2%	8 2.7%	143 49.0%



学校で学習した経験に比べ、社会教育関係機関などでの人権問題の学習は、市民の約半数しか経験していないことがわかります。

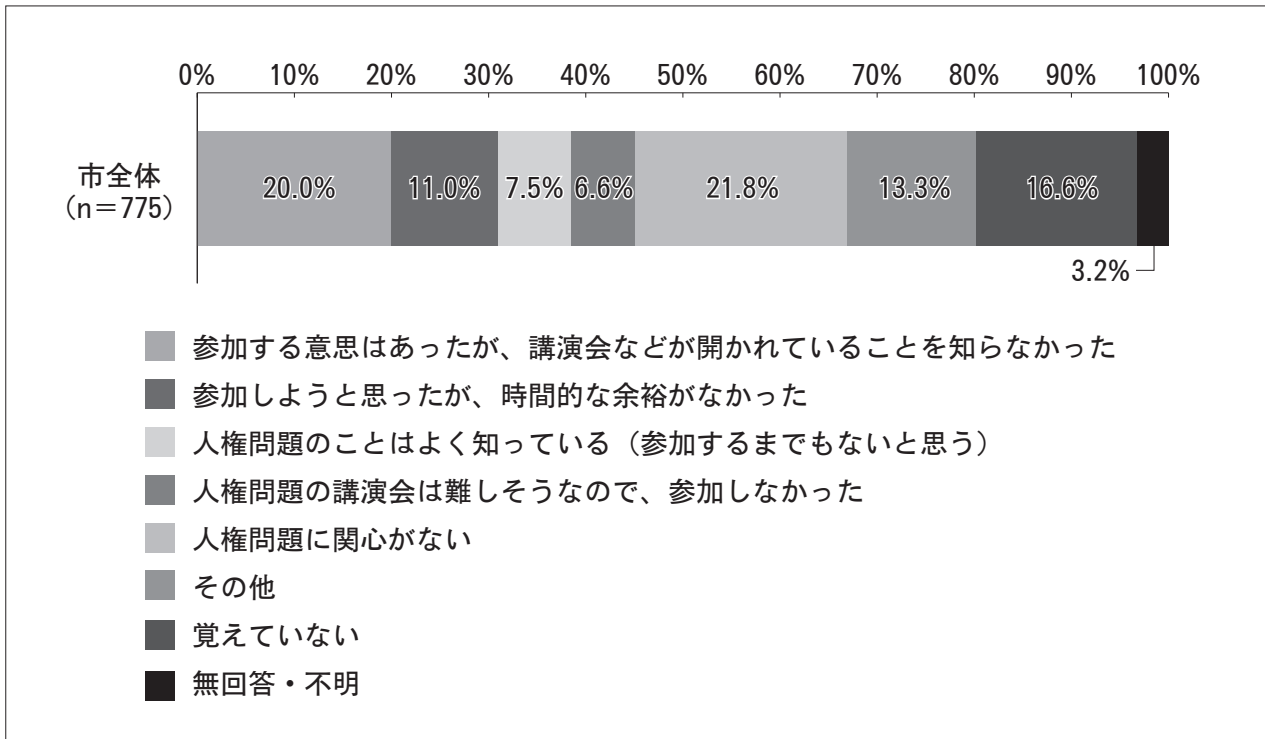
しかし、PTA研修、職場研修、行政主催の講演会、地区公民館などで行われる講演会などの学習も、参加経験のある人にとっては一定の効果を上げていることもわかります。性別で見た場合、男性は「職場での研修会」で、女性は「学校やPTA主催の講演会・研修会」で学習したとする傾向が浮き彫りにされます。

年齢別に見た場合、40歳代の学習経験が他の年代より多いこと、20歳代、30歳代に、学習経験がないという回答が多いこと、50歳代には「職場での研修会」で人権問題について学習したと回答する人が多いことなどが特徴として浮き彫りにされます。

問13で「参加したことがない」と答えた方（49.1%）にお尋ねします。（○は1つだけ）

表一11

		回 答 者 数	参加する意 思はあつた が、講演会 などが開か れていない ことを知ら なかった	参加する意 思はあつた が、時間的 な余裕がな かった	参加しよう と思つた が、時間的 な余裕がな かった	知っている （参加する までもない と思う）	人権問題の ことはよく 知っている （参加する までもない と思う）	人権問題の 講演会は難 しそうな ので、参加 しなかつた	人権問題の 講演会に関 心がない	そ の 他	覚 え て い な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		775 100.0%	155 20.0%	85 11.0%	58 7.5%	51 6.6%	169 21.8%	103 13.3%	129 16.6%	25 3.2%		
性 別	男 性	338 100.0%	64 18.9%	36 10.7%	27 8.0%	18 5.3%	90 26.6%	43 12.7%	50 14.8%	10 3.0%		
	女 性	437 100.0%	91 20.8%	49 11.2%	31 7.1%	33 7.6%	79 18.1%	60 13.7%	79 18.1%	15 3.4%		
年 齢 別	20 歳 代	105 100.0%	19 18.1%	7 6.7%	2 1.9%	11 10.5%	26 24.8%	20 19.0%	18 17.1%	2 1.9%		
	30 歳 代	157 100.0%	32 20.4%	21 13.4%	8 5.1%	7 4.5%	31 19.7%	28 17.8%	27 17.2%	3 1.9%		
	40 歳 代	85 100.0%	15 17.6%	8 9.4%	7 8.2%	5 5.9%	18 21.2%	9 10.6%	20 23.5%	3 3.5%		
	50 歳 代	126 100.0%	26 20.6%	12 9.5%	13 10.3%	9 7.1%	30 23.8%	10 7.9%	22 17.5%	4 3.2%		
	60 歳 代	159 100.0%	39 24.5%	20 12.6%	12 7.5%	11 6.9%	31 19.5%	24 15.1%	15 9.4%	7 4.4%		
	70歳以上	143 100.0%	24 16.8%	17 11.9%	16 11.2%	8 5.6%	33 23.1%	12 8.4%	27 18.9%	6 4.2%		



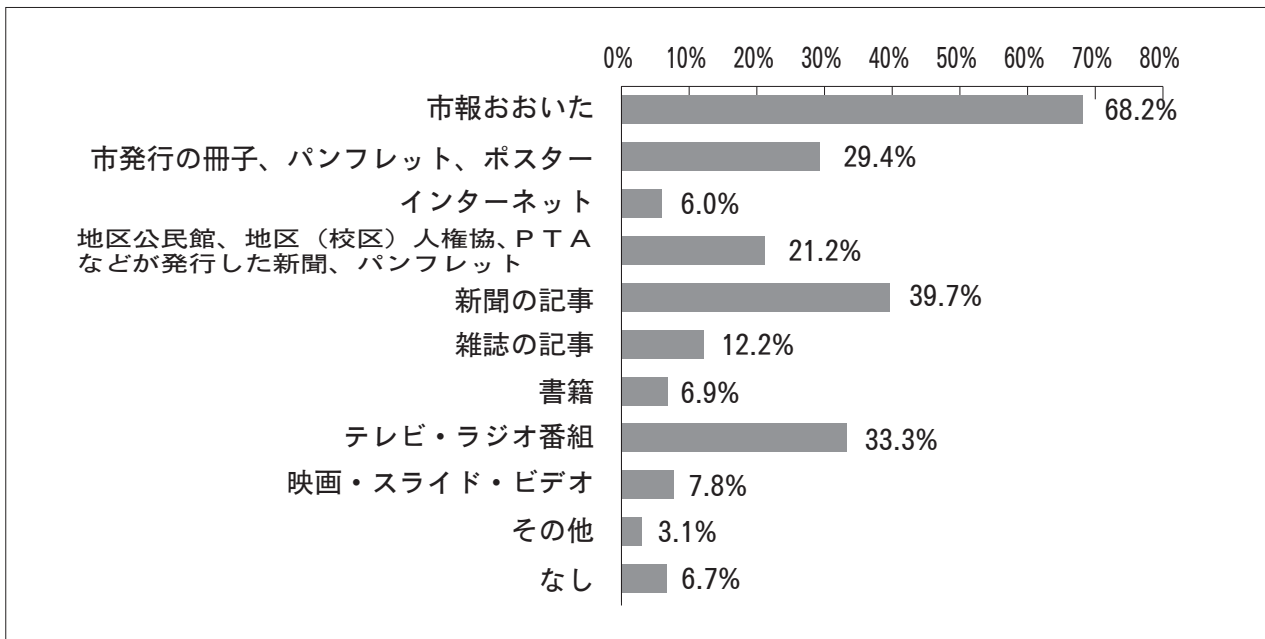
参加しない理由には、学習情報がない・時間がないなどの理由があります。「人権問題に関心がない」とする回答が21.8%あることに注意する必要があります。計算上、市民の約10%が人権問題への「無関心層」になっている可能性を示唆する数値です。

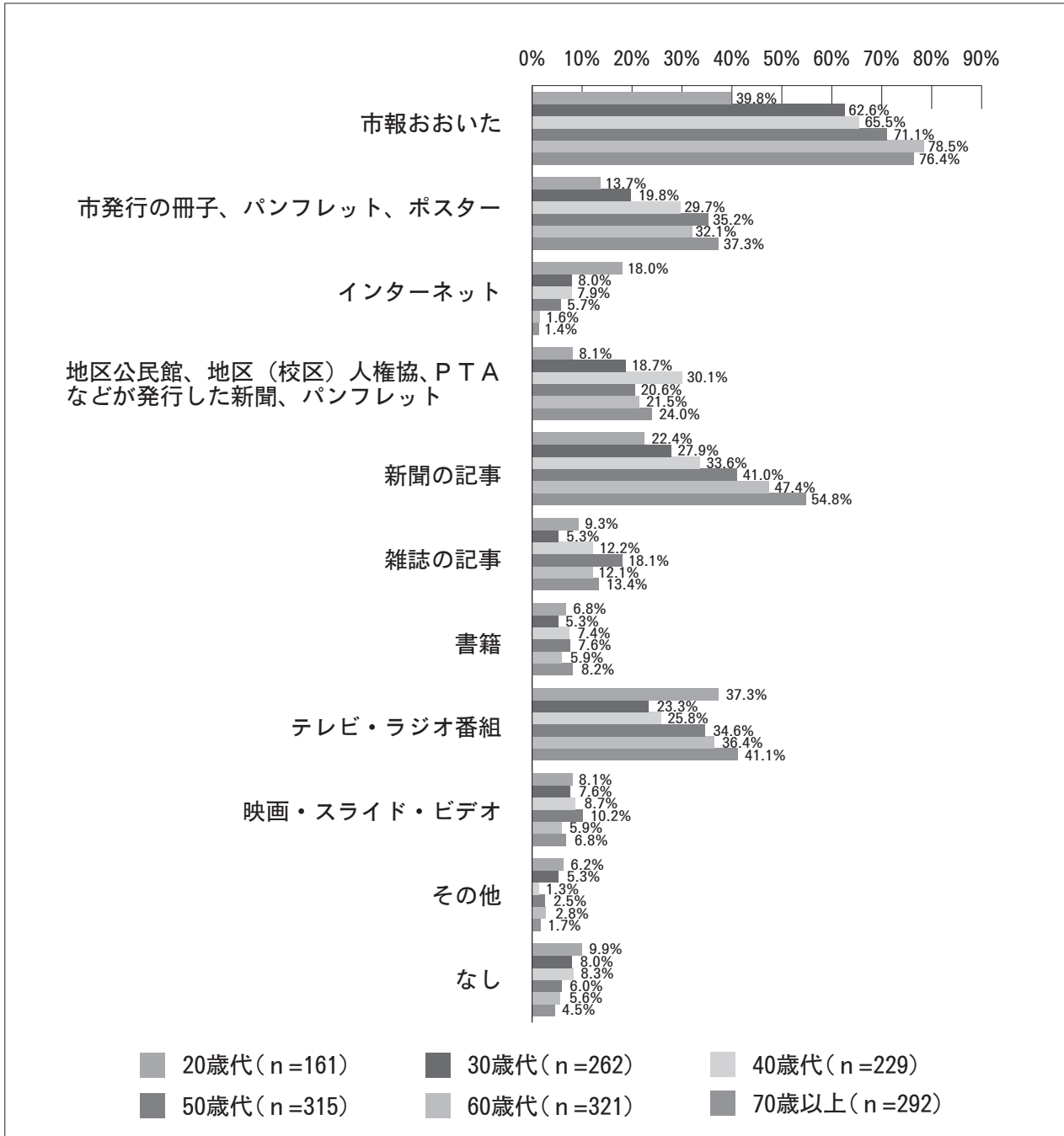
6 社会教育における人権問題の学習情報

問14 人権問題について、次の項目の中で、最近あなたが読んだり、見たりしたものは何ですか。(〇はいくつでも)

表-12

	回 答 者 数	市 報 お お い た	市 発 行 の 冊 子 、 パ ン フ レ ッ ト 、 ポ ス タ ー	イ ン タ ー ネ ッ ト	地 区 公 民 館 、 地 区 (校 区) 人 権 協 、 P T A な ど が 発 行 し た 新 聞 、 パ ン フ レ ッ ト	新 聞 の 記 事	雑 誌 の 記 事	書 籍	テ レ ビ ・ ラ ジ オ 番 組	映 画 ・ ス ラ イ ド ・ ビ デ オ	そ の 他	な し	
市 全 体	1,580 100.0%	1,077 68.2%	465 29.4%	95 6.0%	335 21.2%	627 39.7%	192 12.2%	109 6.9%	526 33.3%	124 7.8%	49 3.1%	106 6.7%	
性 別	男 性	648 100.0%	389 60.0%	177 27.3%	58 9.0%	112 17.3%	291 44.9%	86 13.3%	54 8.3%	226 34.9%	44 6.8%	21 3.2%	48 7.4%
	女 性	932 100.0%	688 73.8%	288 30.9%	37 4.0%	223 23.9%	336 36.1%	106 11.4%	55 5.9%	300 32.2%	80 8.6%	28 3.0%	58 6.2%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	64 39.8%	22 13.7%	29 18.0%	13 8.1%	36 22.4%	15 9.3%	11 6.8%	60 37.3%	13 8.1%	10 6.2%	16 9.9%
	30 歳 代	262 100.0%	164 62.6%	52 19.8%	21 8.0%	49 18.7%	73 27.9%	14 5.3%	14 5.3%	61 23.3%	20 7.6%	14 5.3%	21 8.0%
	40 歳 代	229 100.0%	150 65.5%	68 29.7%	18 7.9%	69 30.1%	77 33.6%	28 12.2%	17 7.4%	59 25.8%	20 8.7%	3 1.3%	19 8.3%
	50 歳 代	315 100.0%	224 71.1%	111 35.2%	18 5.7%	65 20.6%	129 41.0%	57 18.1%	24 7.6%	109 34.6%	32 10.2%	8 2.5%	19 6.0%
	60 歳 代	321 100.0%	252 78.5%	103 32.1%	5 1.6%	69 21.5%	152 47.4%	39 12.1%	19 5.9%	117 36.4%	19 5.9%	9 2.8%	18 5.6%
	70歳以上	292 100.0%	223 76.4%	109 37.3%	4 1.4%	70 24.0%	160 54.8%	39 13.4%	24 8.2%	120 41.1%	20 6.8%	5 1.7%	13 4.5%





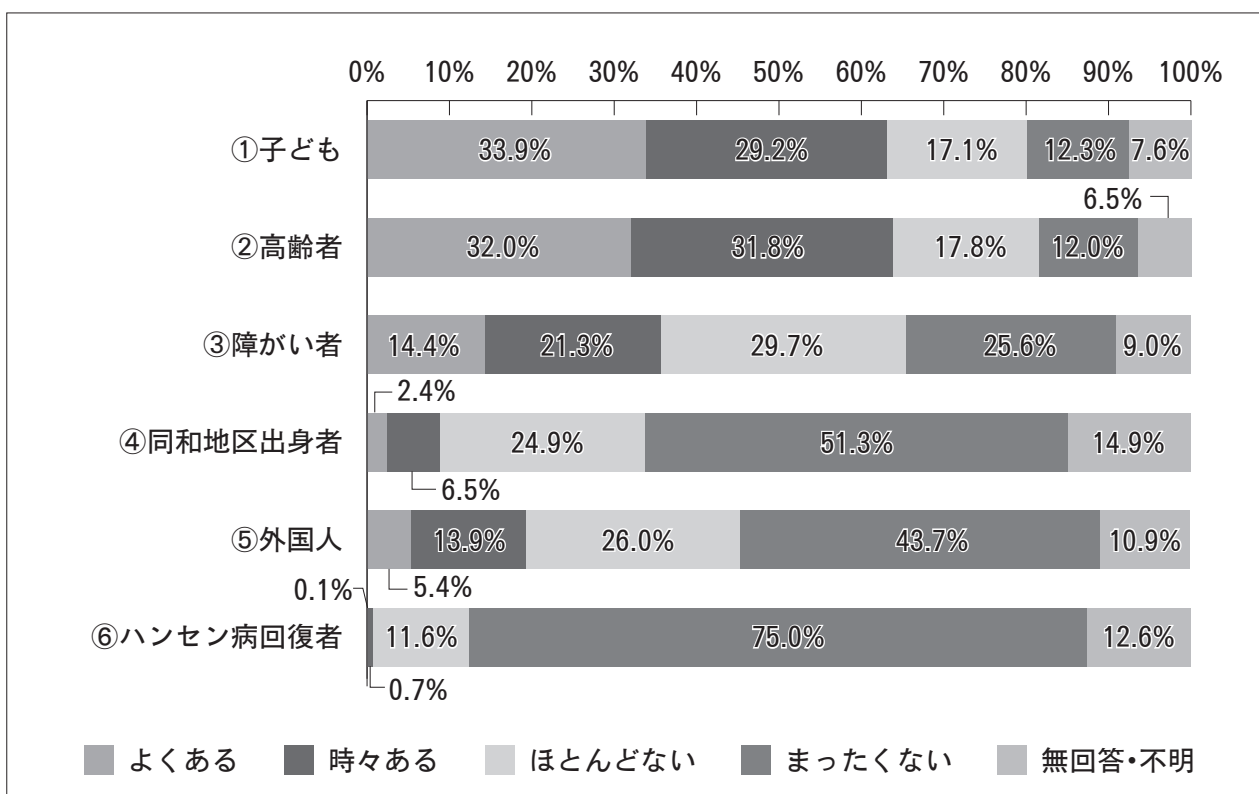
何らの情報源にも接触しなかったと回答したのは6.7%で、大半の市民は何らかの情報源に接触していることがわかります。特に多いのは「市報おおいた」で、68.2%となっています。続いて、順に「新聞の記事」「テレビ・ラジオ番組」「市発行の冊子、パンフレット、ポスター」「地区公民館、地区（校区）人権協、PTAなどが発行した新聞、パンフレット」が20%~40%程度の回答率になります。他の情報源は全体に低い比率ですが、年代別に特徴的なのは、20歳代の「インターネット」への接触18%、50歳代の「雑誌の記事」への接触18.1%などです。また、「書籍」を人権問題への情報源として答えた比率が最も高かったのが70歳以上です。

7 社会教育における人権問題の学習契機

問15 あなたは、これまでの生活の中で、次の①～⑥の方とふれあうこと（一緒に働いたり、活動したり、交流会に参加したりすること）がありますか。（○は1つだけ）

表-13

	回答者数	よくある	時々ある	ほとんどない	まったくない	無回答・不明
①子ども	1,580 100.0%	535 33.9%	461 29.2%	270 17.1%	194 12.3%	120 7.6%
②高齢者	1,580 100.0%	505 32.0%	502 31.8%	281 17.8%	190 12.0%	102 6.5%
③障がい者	1,580 100.0%	228 14.4%	336 21.3%	469 29.7%	405 25.6%	142 9.0%
④同和地区出身者	1,580 100.0%	38 2.4%	102 6.5%	393 24.9%	811 51.3%	236 14.9%
⑤外国人	1,580 100.0%	86 5.4%	220 13.9%	411 26.0%	691 43.7%	172 10.9%
⑥ハンセン病回復者	1,580 100.0%	2 0.1%	11 0.7%	183 11.6%	1185 75.0%	199 12.6%



人権・同和問題の学習契機の一つとして、差別・偏見などを受けやすい立場にある人達とのふれあいをあげることができると思われます。

「子ども」と「高齢者」は、60%を超える人がふれあったことがあると答えています。経験的に見て、多くの人が当然のこととして受け止めると思われます。これに対して、「障がい者」とのふれあいを経験した人は35.7%になります。「外国人」とのふれあいになると19.3%に低下し、「同和地区出身者」ではさらに8.9%、「ハンセン病回復者」になると0.8%です。

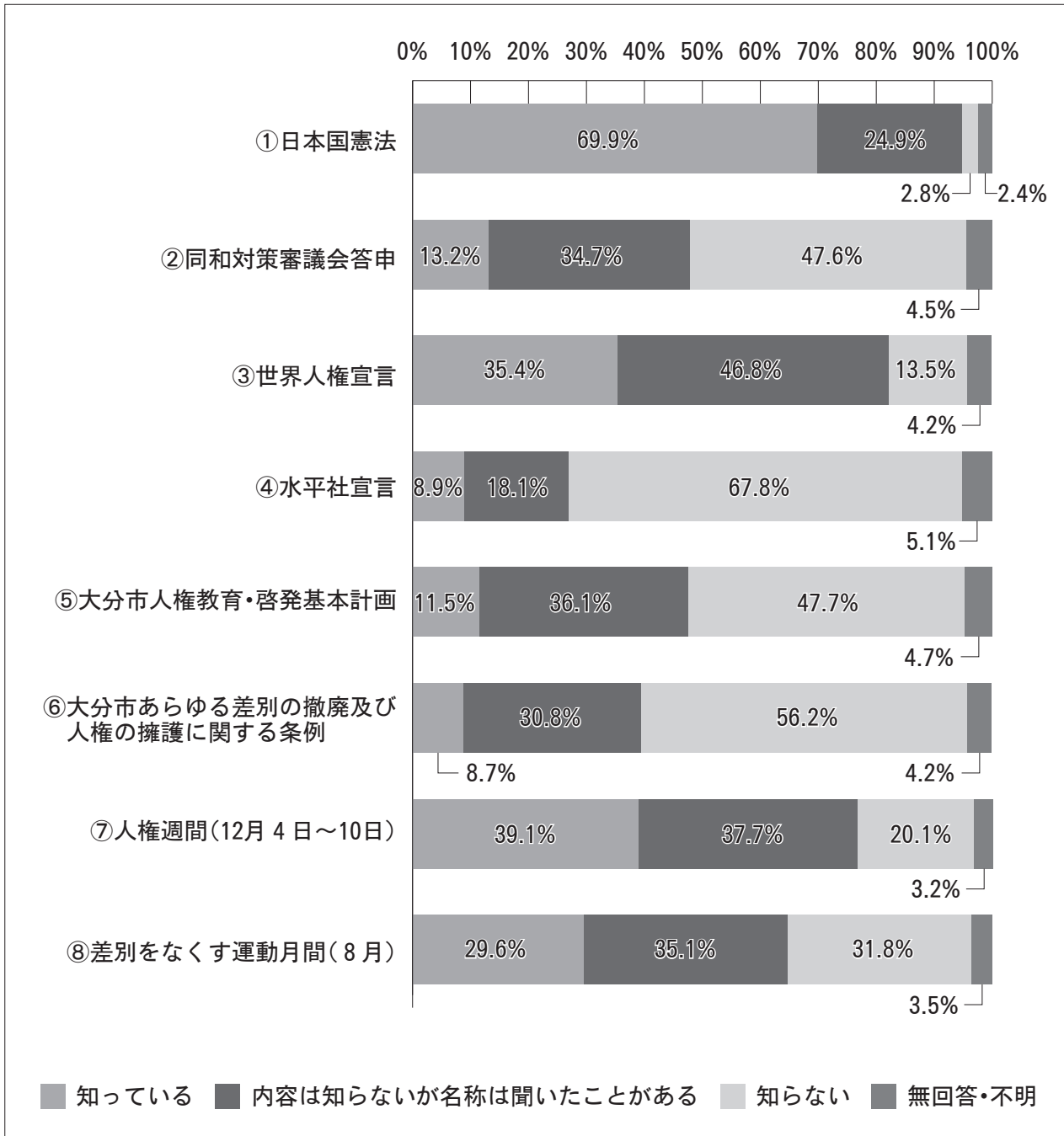
第2節 人権・同和問題に関する学習成果

本節では、前の節でとりあげた啓発・教育・学習などの諸活動が、人権・同和問題に関してどの程度認識を深めたかを探ります。

問5 あなたは、次の人権に関する宣言や条例等についてどの程度ご存じですか。次にあげる①～⑧のすべてについてお答えください。(○は1つだけ)

表-14

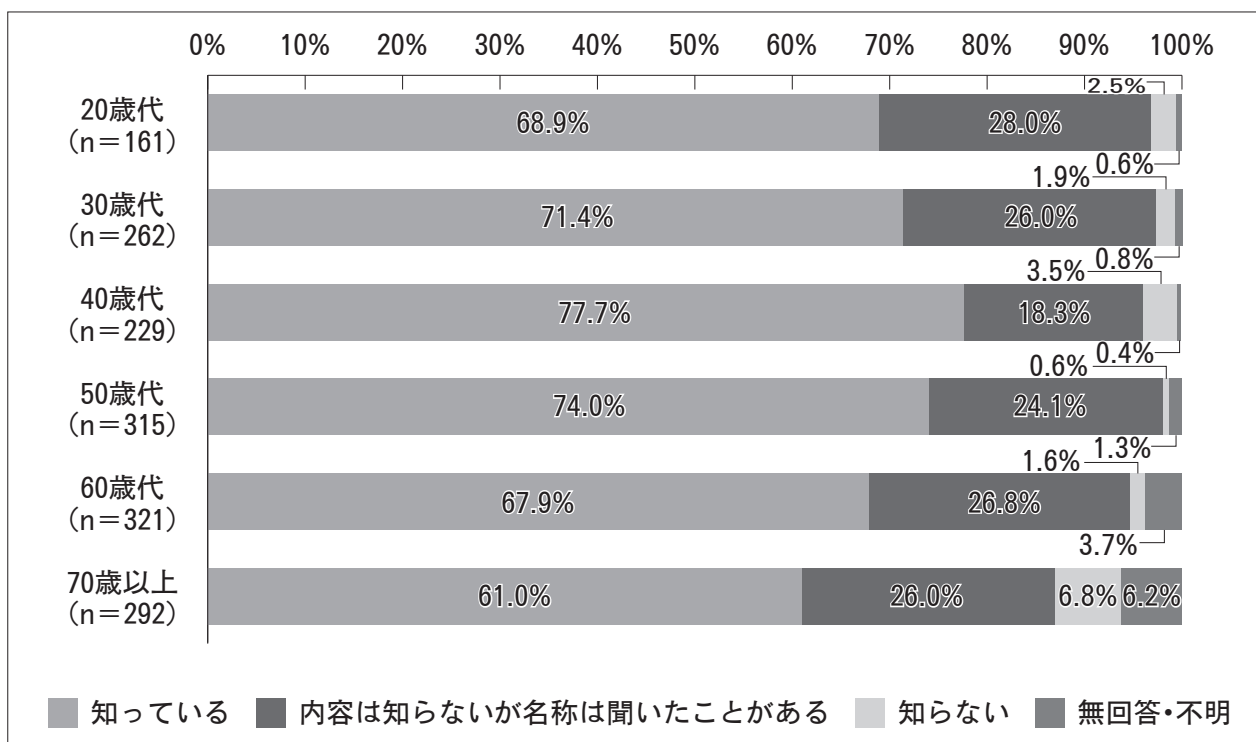
	回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
①日本国憲法	1,580 100.0%	1,105 69.9%	393 24.9%	44 2.8%	38 2.4%
②同和対策審議会答申	1,580 100.0%	209 13.2%	548 34.7%	752 47.6%	71 4.5%
③世界人権宣言	1,580 100.0%	559 35.4%	740 46.8%	214 13.5%	67 4.2%
④水平社宣言	1,580 100.0%	141 8.9%	286 18.1%	1072 67.8%	81 5.1%
⑤大分市人権教育・啓発基本計画	1,580 100.0%	182 11.5%	570 36.1%	753 47.7%	75 4.7%
⑥大分市あらゆる差別の撤廃及び人権の擁護に関する条例	1,580 100.0%	138 8.7%	487 30.8%	888 56.2%	67 4.2%
⑦人権週間(12月4日～10日)	1,580 100.0%	617 39.1%	595 37.7%	317 20.1%	51 3.2%
⑧差別をなくす運動月間(8月)	1,580 100.0%	467 29.6%	555 35.1%	503 31.8%	55 3.5%



1 日本国憲法の認知

表—15

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	1,105 69.9%	393 24.9%	44 2.8%	38 2.4%
性 別	男 性	648 100.0%	484 74.7%	133 20.5%	19 2.9%	12 1.9%
	女 性	932 100.0%	621 66.6%	260 27.9%	25 2.7%	26 2.8%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	111 68.9%	45 28.0%	4 2.5%	1 0.6%
	30 歳 代	262 100.0%	187 71.4%	68 26.0%	5 1.9%	2 0.8%
	40 歳 代	229 100.0%	178 77.7%	42 18.3%	8 3.5%	1 0.4%
	50 歳 代	315 100.0%	233 74.0%	76 24.1%	2 0.6%	4 1.3%
	60 歳 代	321 100.0%	218 67.9%	86 26.8%	5 1.6%	12 3.7%
	70歳以上	292 100.0%	178 61.0%	76 26.0%	20 6.8%	18 6.2%

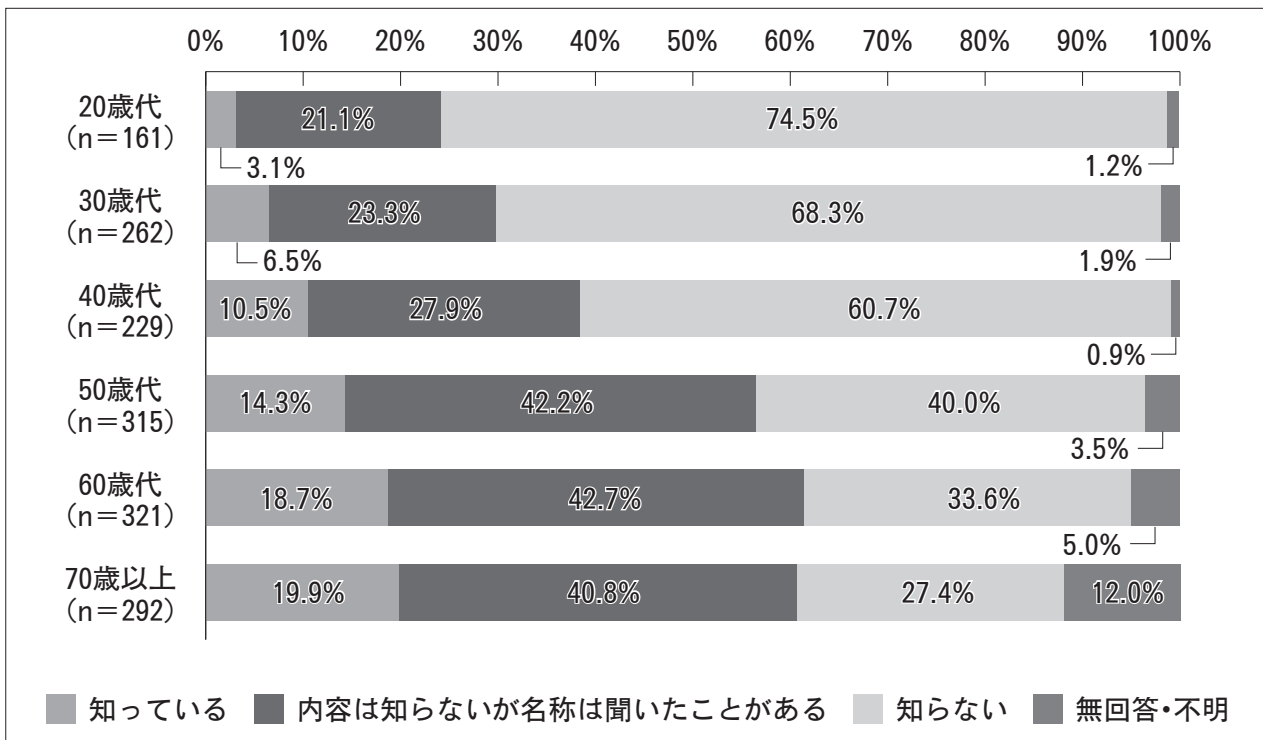


「知っている」人が69.9%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」という人が24.9%、合わせて94.8%の人が「憲法」については何らかの認知をしています。性別では男性の認知度が、年代別では40歳代の認知度がやや高くなっています。

2 同和対策審議会答申の認知

表—16

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	209 13.2%	548 34.7%	752 47.6%	71 4.5%
性 別	男 性	648 100.0%	102 15.7%	216 33.3%	307 47.4%	23 3.5%
	女 性	932 100.0%	107 11.5%	332 35.6%	445 47.7%	48 5.2%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	5 3.1%	34 21.1%	120 74.5%	2 1.2%
	30 歳 代	262 100.0%	17 6.5%	61 23.3%	179 68.3%	5 1.9%
	40 歳 代	229 100.0%	24 10.5%	64 27.9%	139 60.7%	2 0.9%
	50 歳 代	315 100.0%	45 14.3%	133 42.2%	126 40.0%	11 3.5%
	60 歳 代	321 100.0%	60 18.7%	137 42.7%	108 33.6%	16 5.0%
	70歳以上	292 100.0%	58 19.9%	119 40.8%	80 27.4%	35 12.0%

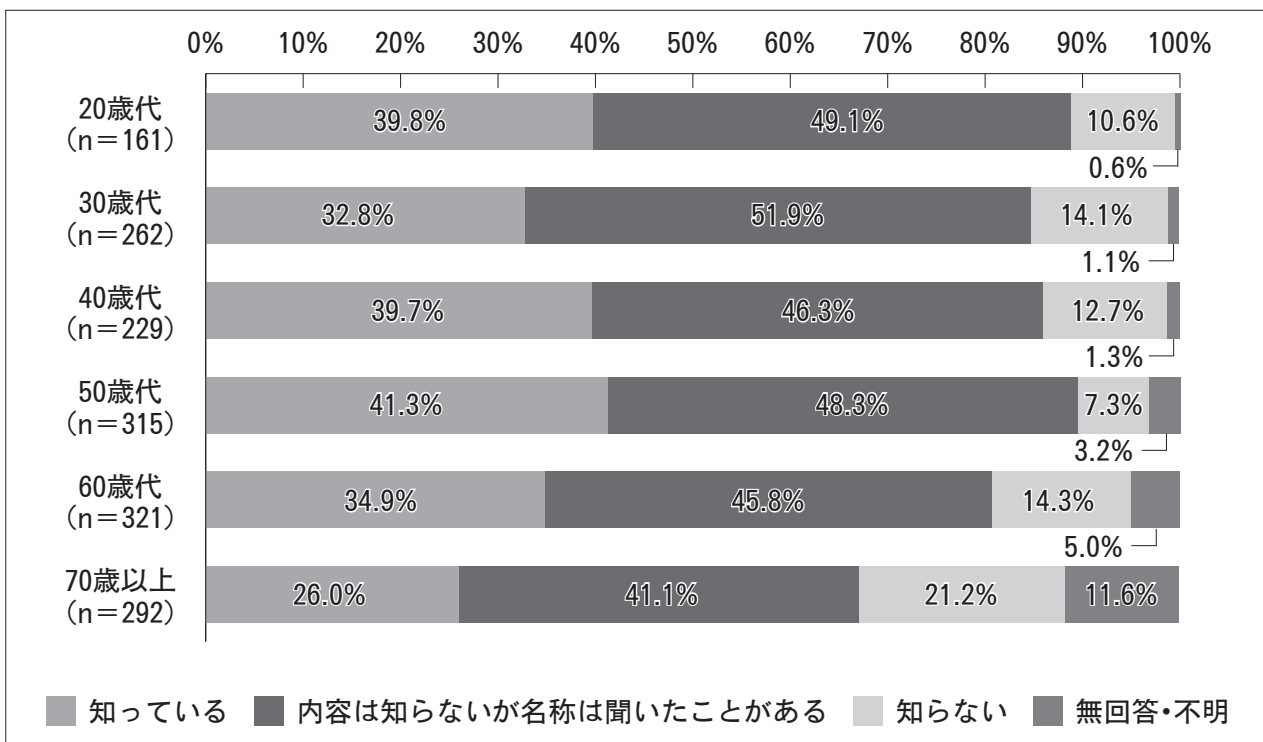


この答申については、50歳代以上の方が比較的高い比率で知っているのに対して、40歳代以下の方は、60～75%が知らないと答える結果が出ており、年代間の差が歴然としています。

3 世界人権宣言の認知

表-17

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	559 35.4%	740 46.8%	214 13.5%	67 4.2%
性 別	男 性	648 100.0%	249 38.4%	297 45.8%	77 11.9%	25 3.9%
	女 性	932 100.0%	310 33.3%	443 47.5%	137 14.7%	42 4.5%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	64 39.8%	79 49.1%	17 10.6%	1 0.6%
	30 歳 代	262 100.0%	86 32.8%	136 51.9%	37 14.1%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	91 39.7%	106 46.3%	29 12.7%	3 1.3%
	50 歳 代	315 100.0%	130 41.3%	152 48.3%	23 7.3%	10 3.2%
	60 歳 代	321 100.0%	112 34.9%	147 45.8%	46 14.3%	16 5.0%
	70歳以上	292 100.0%	76 26.0%	120 41.1%	62 21.2%	34 11.6%

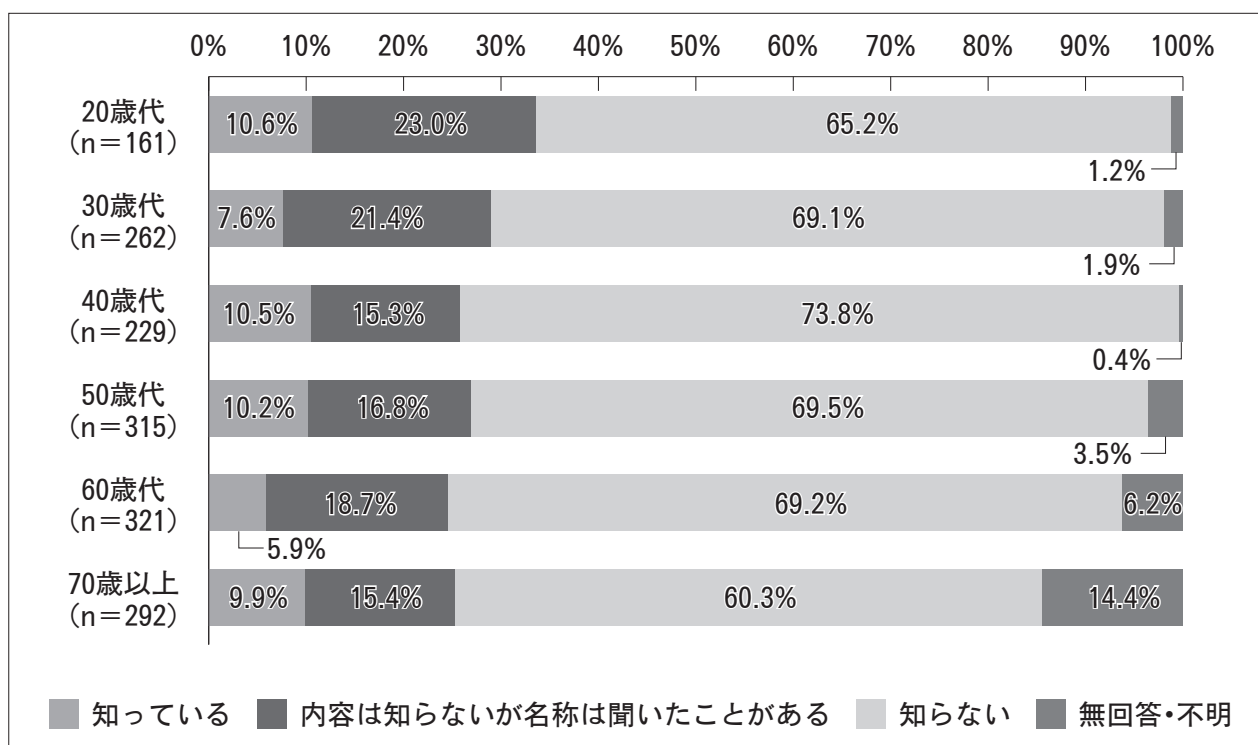


「知らない」と答えた人は13.5%で、「知っている」と答えた人は35.4%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」と答えた人が46.8%です。70歳以上で比率は若干下がりますが、他の年代では比較的良く知られていることがわかります。人権教育の成果の一つと見る事が出来ます。

4 水平社宣言の認知

表-18

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	141 8.9%	286 18.1%	1,072 67.8%	81 5.1%
性 別	男 性	648 100.0%	76 11.7%	142 21.9%	407 62.8%	23 3.5%
	女 性	932 100.0%	65 7.0%	144 15.5%	665 71.4%	58 6.2%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	17 10.6%	37 23.0%	105 65.2%	2 1.2%
	30 歳 代	262 100.0%	20 7.6%	56 21.4%	181 69.1%	5 1.9%
	40 歳 代	229 100.0%	24 10.5%	35 15.3%	169 73.8%	1 0.4%
	50 歳 代	315 100.0%	32 10.2%	53 16.8%	219 69.5%	11 3.5%
	60 歳 代	321 100.0%	19 5.9%	60 18.7%	222 69.2%	20 6.2%
	70歳以上	292 100.0%	29 9.9%	45 15.4%	176 60.3%	42 14.4%

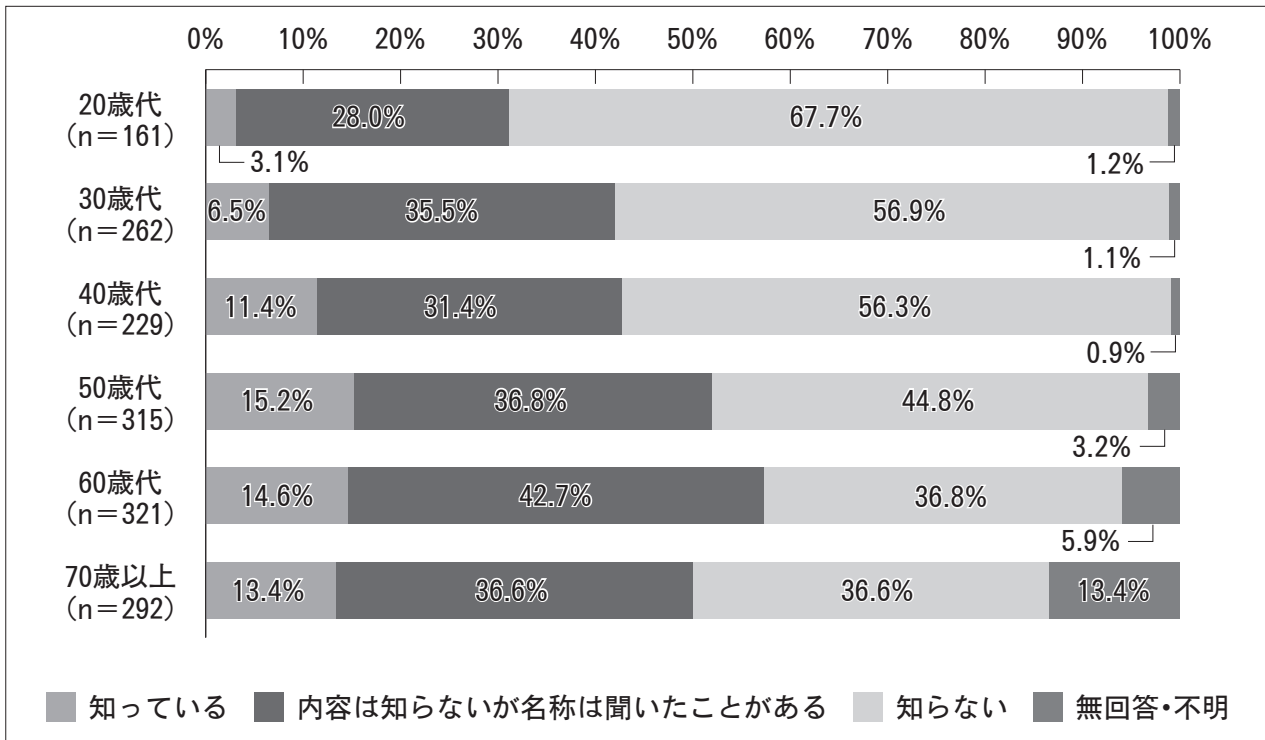


「知らない」と答えた人が67.8%に達し、「知っている」と答えた人は8.9%です。年代別特徴としてあげられるのは、歴史的出来事になっている水平社宣言ですが、40歳代以上の人よりも、20歳代～30歳代の人の方が「内容は知らないが名称は聞いたことがある」「知っている」を合わせた比率が高いことです。学校の授業で学習した効果が、若干ではありますが現れていると見ることができます。

5 大分市人権教育・啓発基本計画の認知

表-19

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	182 11.5%	570 36.1%	753 47.7%	75 4.7%
性 別	男 性	648 100.0%	72 11.1%	226 34.9%	323 49.8%	27 4.2%
	女 性	932 100.0%	110 11.8%	344 36.9%	430 46.1%	48 5.2%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	5 3.1%	45 28.0%	109 67.7%	2 1.2%
	30 歳 代	262 100.0%	17 6.5%	93 35.5%	149 56.9%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	26 11.4%	72 31.4%	129 56.3%	2 0.9%
	50 歳 代	315 100.0%	48 15.2%	116 36.8%	141 44.8%	10 3.2%
	60 歳 代	321 100.0%	47 14.6%	137 42.7%	118 36.8%	19 5.9%
	70歳以上	292 100.0%	39 13.4%	107 36.6%	107 36.6%	39 13.4%

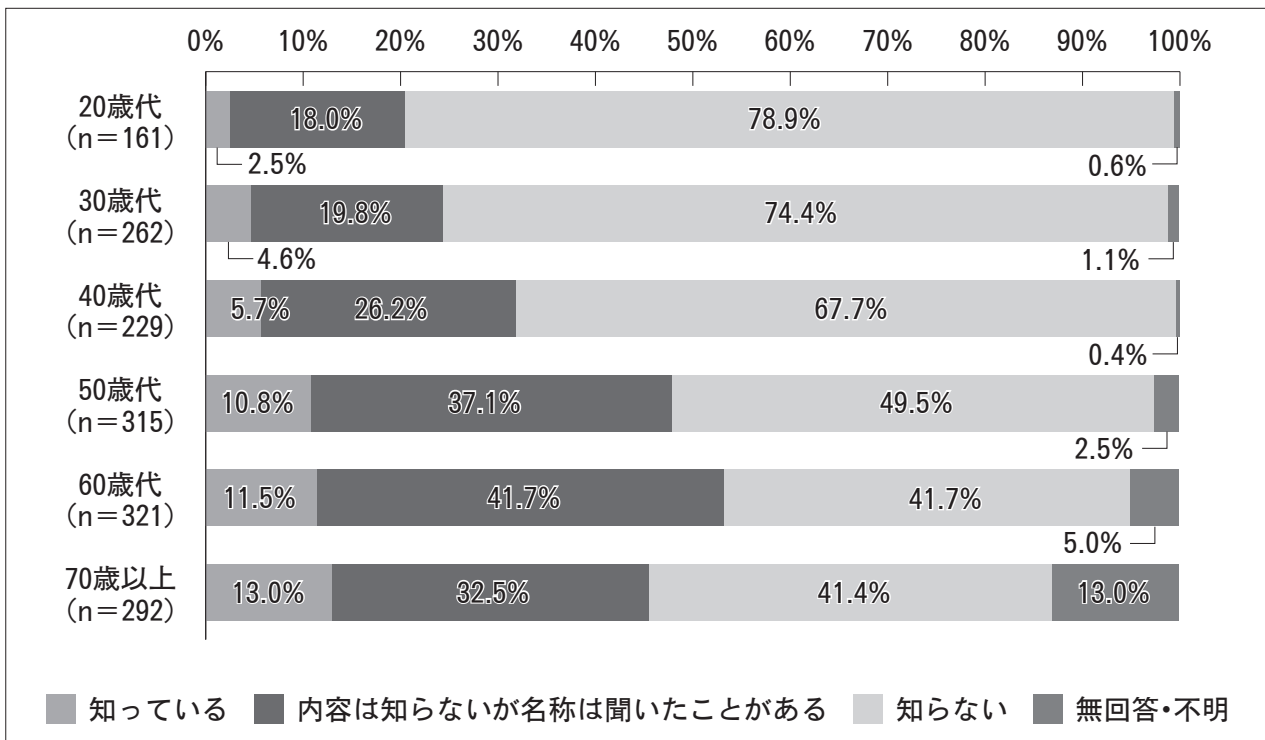


全体としては「知らない」人が47.7%おり、「知っている」人は11.5%です。特に若い人ほど「知らない」傾向にあり、50歳代以上の方が「知っている」と答える比率が高くなります。

6 大分市あらゆる差別の撤廃及び人権の擁護に関する条例の認知

表—20

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	138 8.7%	487 30.8%	888 56.2%	67 4.2%
性 別	男 性	648 100.0%	60 9.3%	203 31.3%	364 56.2%	21 3.2%
	女 性	932 100.0%	78 8.4%	284 30.5%	524 56.2%	46 4.9%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	4 2.5%	29 18.0%	127 78.9%	1 0.6%
	30 歳 代	262 100.0%	12 4.6%	52 19.8%	195 74.4%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	13 5.7%	60 26.2%	155 67.7%	1 0.4%
	50 歳 代	315 100.0%	34 10.8%	117 37.1%	156 49.5%	8 2.5%
	60 歳 代	321 100.0%	37 11.5%	134 41.7%	134 41.7%	16 5.0%
	70歳以上	292 100.0%	38 13.0%	95 32.5%	121 41.4%	38 13.0%

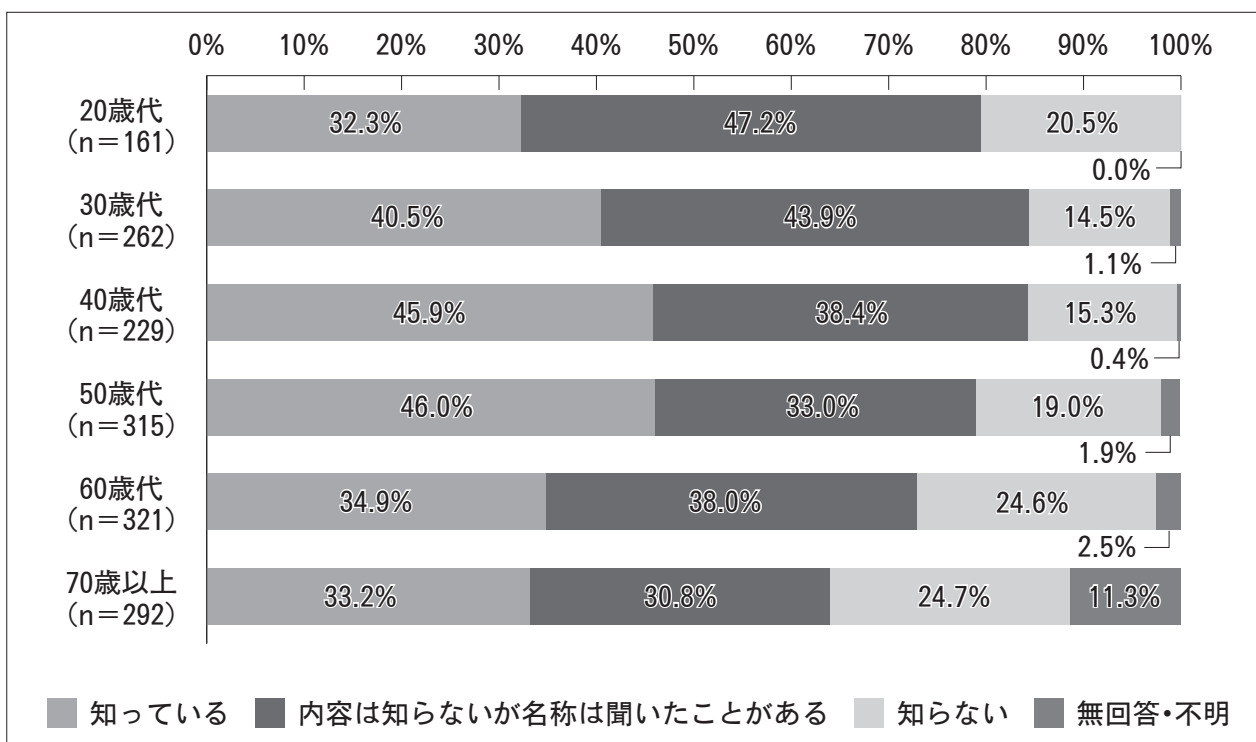


全体としては、「知らない」という回答が56.2%です。年齢別では、20歳代が78.9%、30歳代が74.4%で、若い人ほど「知らない」傾向です。

7 人権週間（12月4日～10日）の認知

表—21

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	617 39.1%	595 37.7%	317 20.1%	51 3.2%
性 別	男 性	648 100.0%	234 36.1%	241 37.2%	156 24.1%	17 2.6%
	女 性	932 100.0%	383 41.1%	354 38.0%	161 17.3%	34 3.6%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	52 32.3%	76 47.2%	33 20.5%	0 0.0%
	30 歳 代	262 100.0%	106 40.5%	115 43.9%	38 14.5%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	105 45.9%	88 38.4%	35 15.3%	1 0.4%
	50 歳 代	315 100.0%	145 46.0%	104 33.0%	60 19.0%	6 1.9%
	60 歳 代	321 100.0%	112 34.9%	122 38.0%	79 24.6%	8 2.5%
	70歳以上	292 100.0%	97 33.2%	90 30.8%	72 24.7%	33 11.3%

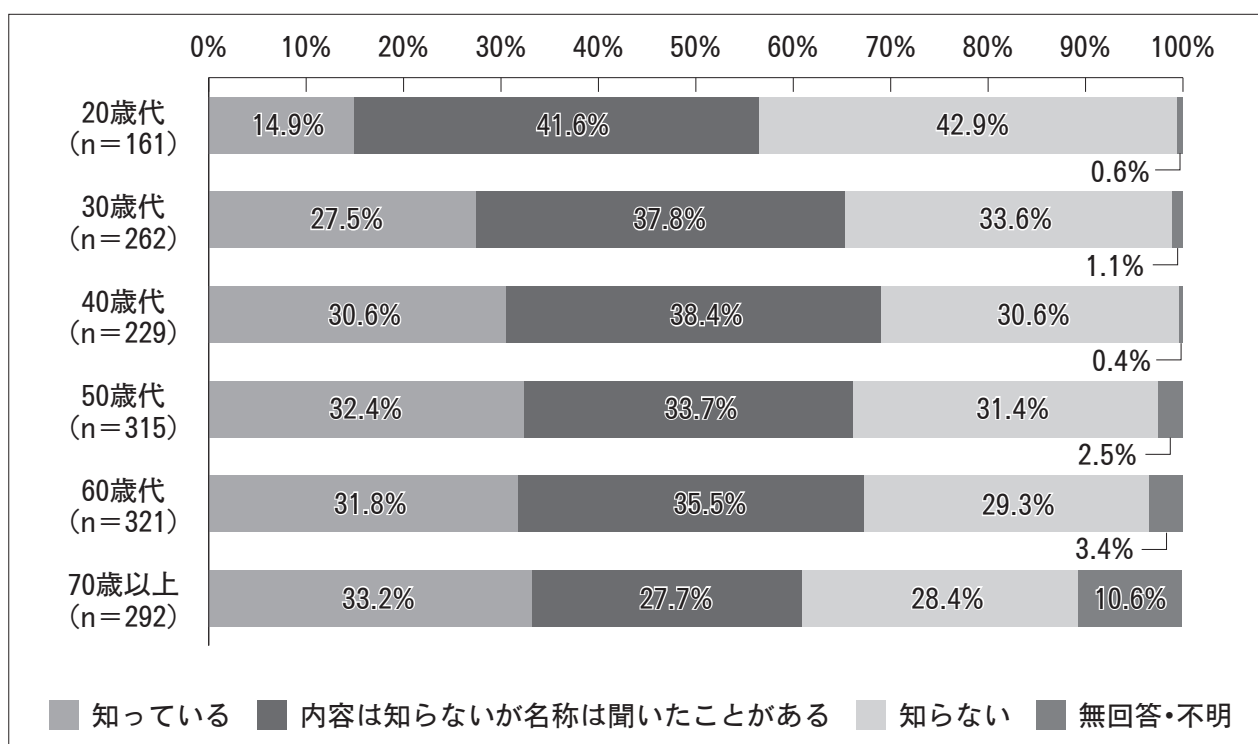


「知っている」あるいは「内容は知らないが名称は聞いたことがある」と答えた人の合計は、76.8%です。「知らない」と答えた人は、20.1%です。年齢別では、40歳代～50歳代が、より高い比率で「知っている」と答え、20歳代及び60歳代以上の人が、比較的高い比率で「知らない」と答えているところに年齢別の特徴があります。

8 差別をなくす運動月間（8月）の認知

表—22

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	467 29.6%	555 35.1%	503 31.8%	55 3.5%
性 別	男 性	648 100.0%	173 26.7%	214 33.0%	242 37.3%	19 2.9%
	女 性	932 100.0%	294 31.5%	341 36.6%	261 28.0%	36 3.9%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	24 14.9%	67 41.6%	69 42.9%	1 0.6%
	30 歳 代	262 100.0%	72 27.5%	99 37.8%	88 33.6%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	70 30.6%	88 38.4%	70 30.6%	1 0.4%
	50 歳 代	315 100.0%	102 32.4%	106 33.7%	99 31.4%	8 2.5%
	60 歳 代	321 100.0%	102 31.8%	114 35.5%	94 29.3%	11 3.4%
	70歳以上	292 100.0%	97 33.2%	81 27.7%	83 28.4%	31 10.6%



全体として10%ほど認知される比率が低いことを除けば、人権週間の認知の場合とほとんど同じ傾向であることがわかります。年代的には高齢の人ほど「知っている」と答えた比率が高くなっています。「知っている」あるいは「内容は知らないが名称は聞いたことがある」と答えた人の合計は64.7%です。年齢別では、20歳代が他の年代と比較して、「知っている」と答えた比率が最も低く、「知らない」と答えた比率は、最も高くなっています。

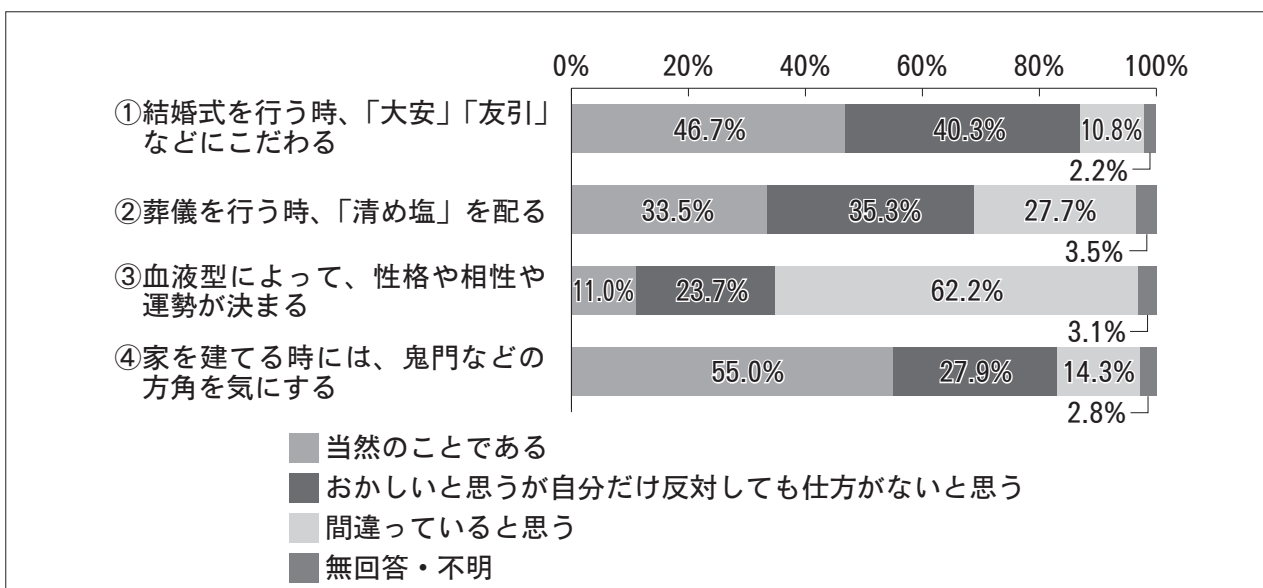
第3節 因習などに関する受け止め方

前の二つの節で、人権・同和問題に関する学習経験とその成果に関する実態を把握しました。ところで、学習成果は、単に知的な訓練を受けたというだけでは態度や行動の変更まで及ばないことが多々あります。人には、無意識的な因習や習慣化した行動などが根強く残っているからです。本節では、この問題について探ります。

問6 日本には、古くからの言い伝えや考え方がありますが、あなたの考えに、より近いのはどれですか。次にあげる①～④のすべてについてお答えください。(○は1つだけ)

表-23

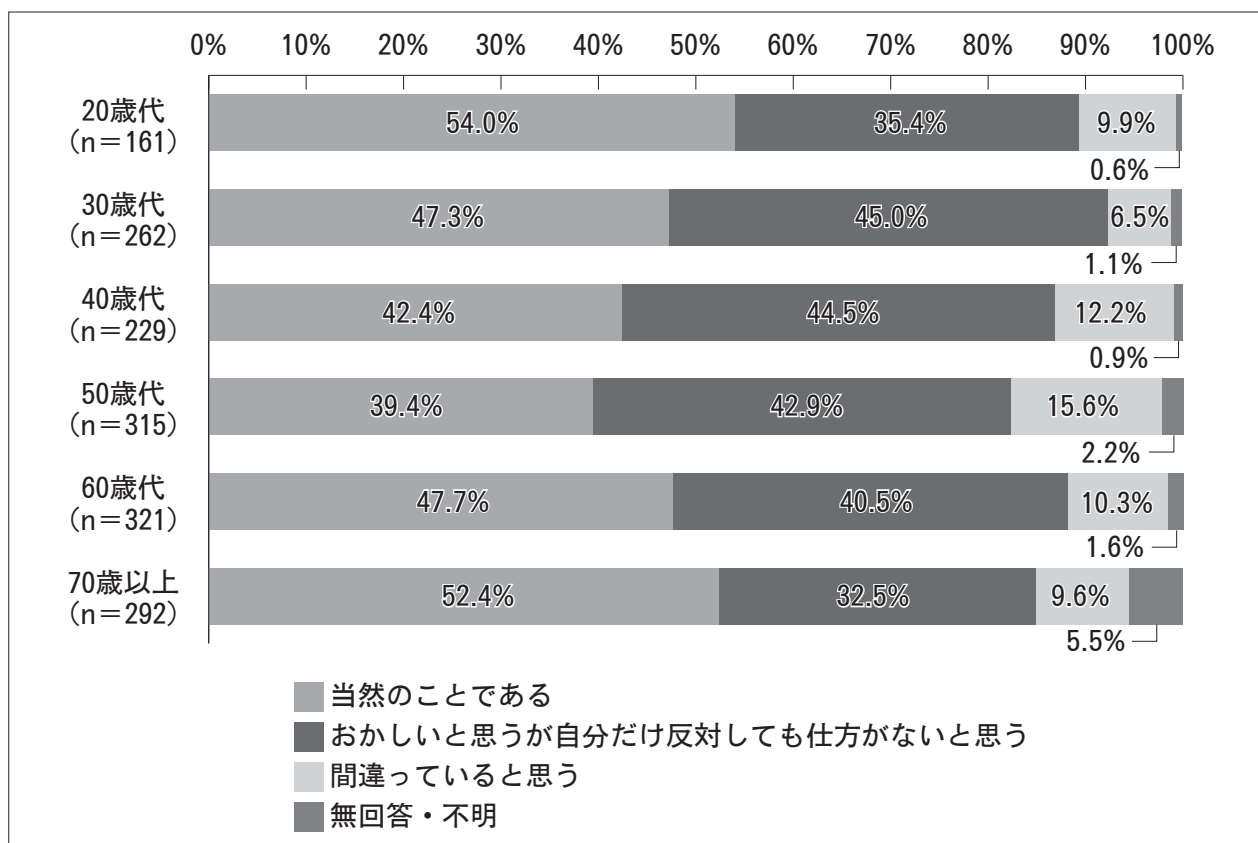
	回答者数	当然のことである	おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う	間違っていると思う	無回答・不明
①結婚式を行う時、「大安」「友引」などにこだわる	1,580 100.0%	738 46.7%	637 40.3%	171 10.8%	34 2.2%
②葬儀を行う時、「清め塩」を配る	1,580 100.0%	529 33.5%	558 35.3%	438 27.7%	55 3.5%
③血液型によって、性格や相性や運勢が決まる	1,580 100.0%	174 11.0%	375 23.7%	982 62.2%	49 3.1%
④家を建てる時には、鬼門などの方角を気にする	1,580 100.0%	869 55.0%	441 27.9%	226 14.3%	44 2.8%



1 結婚式時の「大安」「友引」

表-24

		回答者数	当然のことである	おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う	間違っていると思う	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	738 46.7%	637 40.3%	171 10.8%	34 2.2%
性 別	男 性	648 100.0%	291 44.9%	269 41.5%	75 11.6%	13 2.0%
	女 性	932 100.0%	447 48.0%	368 39.5%	96 10.3%	21 2.3%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	87 54.0%	57 35.4%	16 9.9%	1 0.6%
	30 歳 代	262 100.0%	124 47.3%	118 45.0%	17 6.5%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	97 42.4%	102 44.5%	28 12.2%	2 0.9%
	50 歳 代	315 100.0%	124 39.4%	135 42.9%	49 15.6%	7 2.2%
	60 歳 代	321 100.0%	153 47.7%	130 40.5%	33 10.3%	5 1.6%
	70歳以上	292 100.0%	153 52.4%	95 32.5%	28 9.6%	16 5.5%



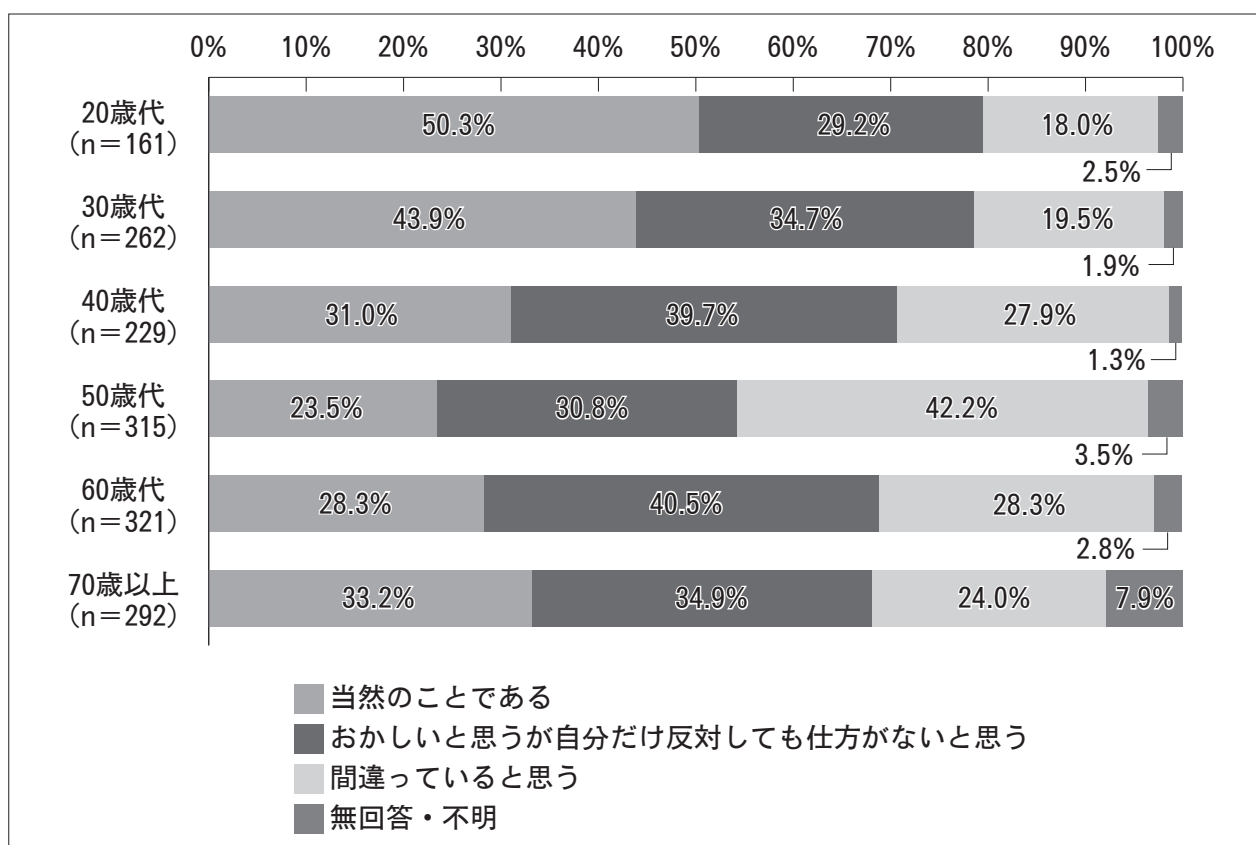
全体的には「当然のこと」と受け止める傾向にあり、約半数に迫る勢いです。「間違っていると思う」人はようやく1割に過ぎません。ただ、残りの約40%は「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う」と答えており、この習慣が今後も長く続くかどうかは断定的な判断はできません。

性別に、この習慣に対する大きな意識の差はありません。年代別に見ると、40歳代と50歳代に「当然」視する意識が若干低く、逆に、20歳代に「当然」視する比率が最も高いことに特徴があります。

2 葬儀時の「清め塩」

表—25

		回答者数	当然のことである	おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う	間違っていると思う	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	529 33.5%	558 35.3%	438 27.7%	55 3.5%
性 別	男 性	648 100.0%	217 33.5%	247 38.1%	162 25.0%	22 3.4%
	女 性	932 100.0%	312 33.5%	311 33.4%	276 29.6%	33 3.5%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	81 50.3%	47 29.2%	29 18.0%	4 2.5%
	30 歳 代	262 100.0%	115 43.9%	91 34.7%	51 19.5%	5 1.9%
	40 歳 代	229 100.0%	71 31.0%	91 39.7%	64 27.9%	3 1.3%
	50 歳 代	315 100.0%	74 23.5%	97 30.8%	133 42.2%	11 3.5%
	60 歳 代	321 100.0%	91 28.3%	130 40.5%	91 28.3%	9 2.8%
	70歳以上	292 100.0%	97 33.2%	102 34.9%	70 24.0%	23 7.9%

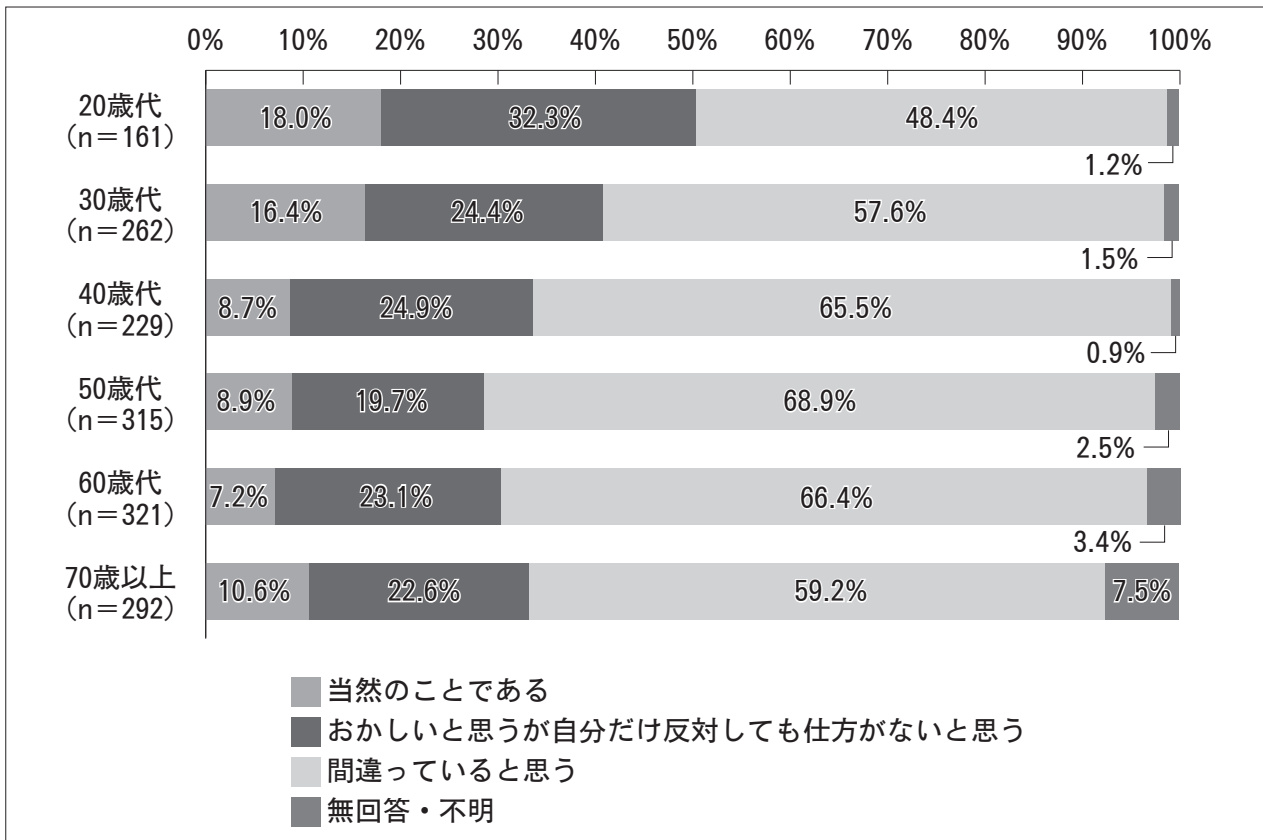


では、葬儀時に清め塩を配る習慣についてはどうでしょうか。全体的に、「大安」「友引」に対する意識と大差ありません。ただ、両者を比較すると全般に清め塩を配布するのは「当然のことである」と答えた比率が13.2%低く、「間違っていると思う」と答えた比率が16.9%高くなっています。また、「当然のことである」と答えた比率は、20歳代～30歳代でより高くなっています。性別には大きな差異が見られません。近時は、仏教界において、清め塩を配らない宗派や寺院もあり、この習慣が変化する可能性はありますが、それを最も受け入れやすいのが調査結果によれば、50歳代であることがわかります。年齢的に、曾祖父母や祖父母、さらには親の葬儀などに実際に責任ある役割を持って当たり、寺院などが提唱する習慣の変更を身をもって体験していることが考えられます。

3 血液型による性格・相性・運勢の判断

表—26

		回答者数	当然のことである	おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う	間違っていると思う	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	174 11.0%	375 23.7%	982 62.2%	49 3.1%
性 別	男 性	648 100.0%	63 9.7%	148 22.8%	417 64.4%	20 3.1%
	女 性	932 100.0%	111 11.9%	227 24.4%	565 60.6%	29 3.1%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	29 18.0%	52 32.3%	78 48.4%	2 1.2%
	30 歳 代	262 100.0%	43 16.4%	64 24.4%	151 57.6%	4 1.5%
	40 歳 代	229 100.0%	20 8.7%	57 24.9%	150 65.5%	2 0.9%
	50 歳 代	315 100.0%	28 8.9%	62 19.7%	217 68.9%	8 2.5%
	60 歳 代	321 100.0%	23 7.2%	74 23.1%	213 66.4%	11 3.4%
	70歳以上	292 100.0%	31 10.6%	66 22.6%	173 59.2%	22 7.5%

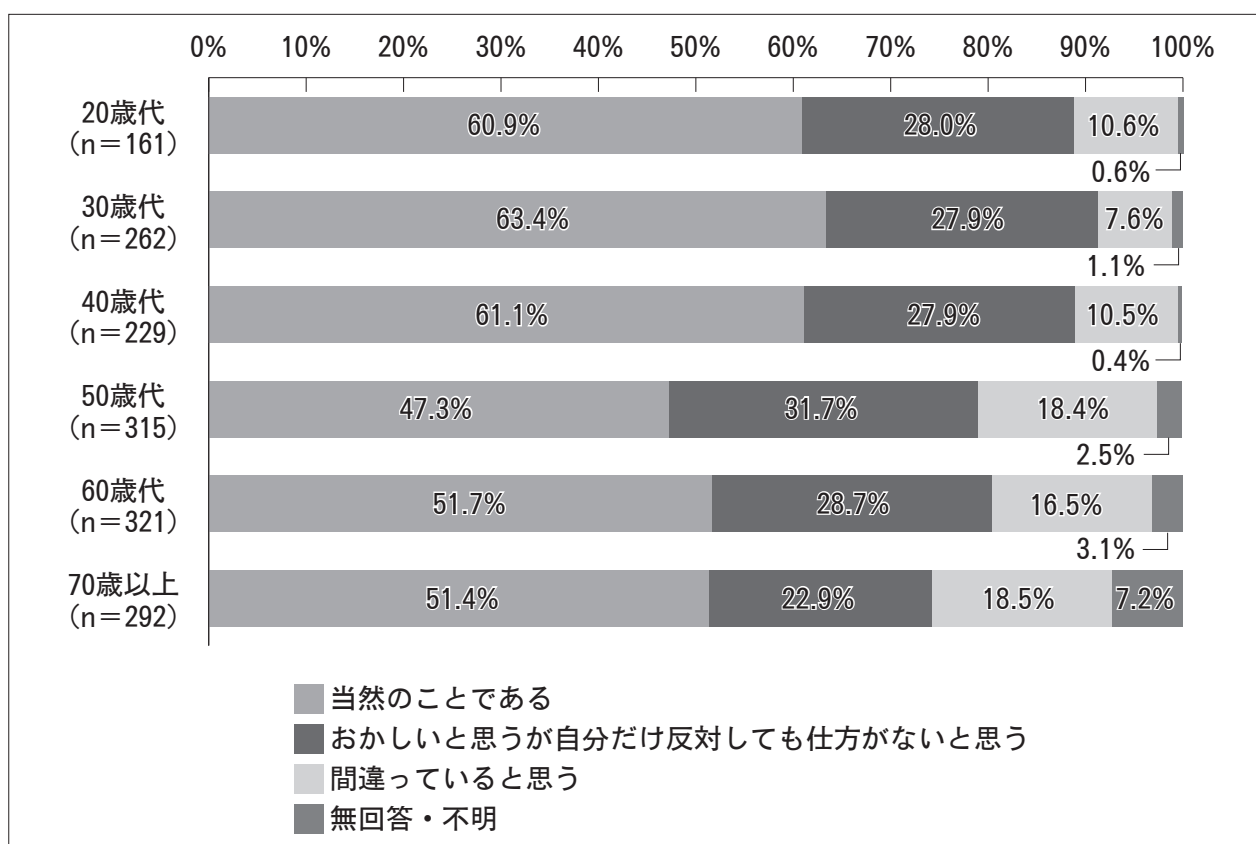


全体として62.2%の人が「間違っていると思う」と答えています。ただ、年齢別には差があります。40歳代～60歳代では、「当然のことである」と答えた人の比率が低く、「間違っていると思う」と答えた人の比率が高い傾向があります。20歳代～30歳代は「当然のことである」と答えた人の比率が高く、「間違っていると思う」と答えた人の比率が平均より低くなります。科学的世界により接近しやすい位置にいるように思われる若い年齢層に、血液型へのこだわりがむしろ高くなっている事実があることに気づかされるところです。清め塩の場合と同様、近時の若い年齢層が、因習や固定観念にかなり強くとらわれていることが読み取れます。

4 鬼門などの方角

表-27

		回答者数	当然のことである	おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う	間違っていると思う	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	869 55.0%	441 27.9%	226 14.3%	44 2.8%
性 別	男 性	648 100.0%	312 48.1%	192 29.6%	128 19.8%	16 2.5%
	女 性	932 100.0%	557 59.8%	249 26.7%	98 10.5%	28 3.0%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	98 60.9%	45 28.0%	17 10.6%	1 0.6%
	30 歳 代	262 100.0%	166 63.4%	73 27.9%	20 7.6%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	140 61.1%	64 27.9%	24 10.5%	1 0.4%
	50 歳 代	315 100.0%	149 47.3%	100 31.7%	58 18.4%	8 2.5%
	60 歳 代	321 100.0%	166 51.7%	92 28.7%	53 16.5%	10 3.1%
	70歳以上	292 100.0%	150 51.4%	67 22.9%	54 18.5%	21 7.2%



前の3つの問いを含む全4問の中では、「当然のことである」と答えた比率が最も高くなります。また、「当然のことである」と答えた人は、50歳以上よりも40歳代以下の年代に多いことがわかります。

第4節 日常生活における人権意識

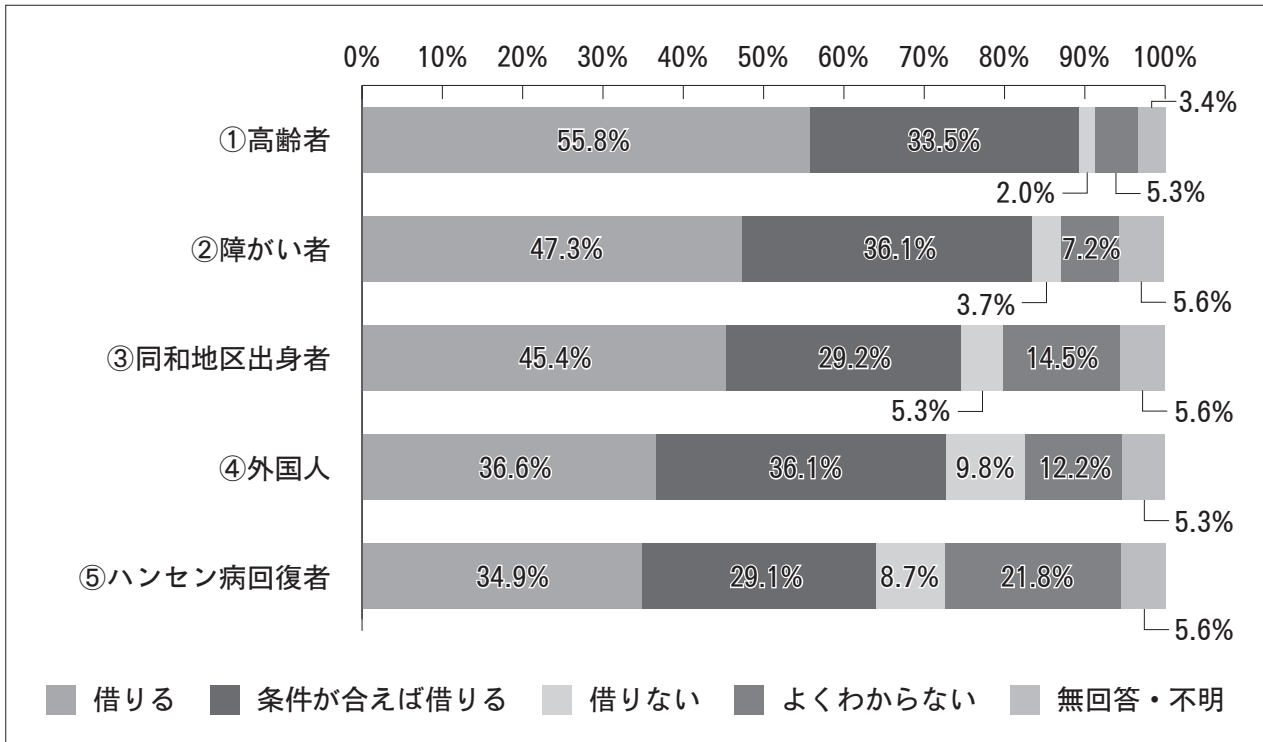
家庭や地域社会、職場などの日常生活における対人関係や人の交流は、形式的な体面を重視する公式的場面と異なり、人権・同和問題などに対する当該個人の意識の深層にかなり近似した結果を表すことが多いと思われます。この節では、日常生活における市民の人権意識の深層を探ってみたいと思います。

1 居住地域の隣人に対する人権意識

問7 あなたがアパートを借りる際に、もし、隣に次の①～⑤の方が住んでいたら、あなたはアパートを借りますか。(○は1つだけ)

表-28

	回答者数	借りる	条件が合えば借りる	借りない	よくわからない	無回答・不明
①高齢者	1,580 100.0%	882 55.8%	529 33.5%	32 2.0%	83 5.3%	54 3.4%
②障がい者	1,580 100.0%	748 47.3%	571 36.1%	59 3.7%	113 7.2%	89 5.6%
③同和地区出身者	1,580 100.0%	718 45.4%	461 29.2%	83 5.3%	229 14.5%	89 5.6%
④外国人	1,580 100.0%	578 36.6%	571 36.1%	155 9.8%	192 12.2%	84 5.3%
⑤ハンセン病回復者	1,580 100.0%	551 34.9%	460 29.1%	137 8.7%	344 21.8%	88 5.6%

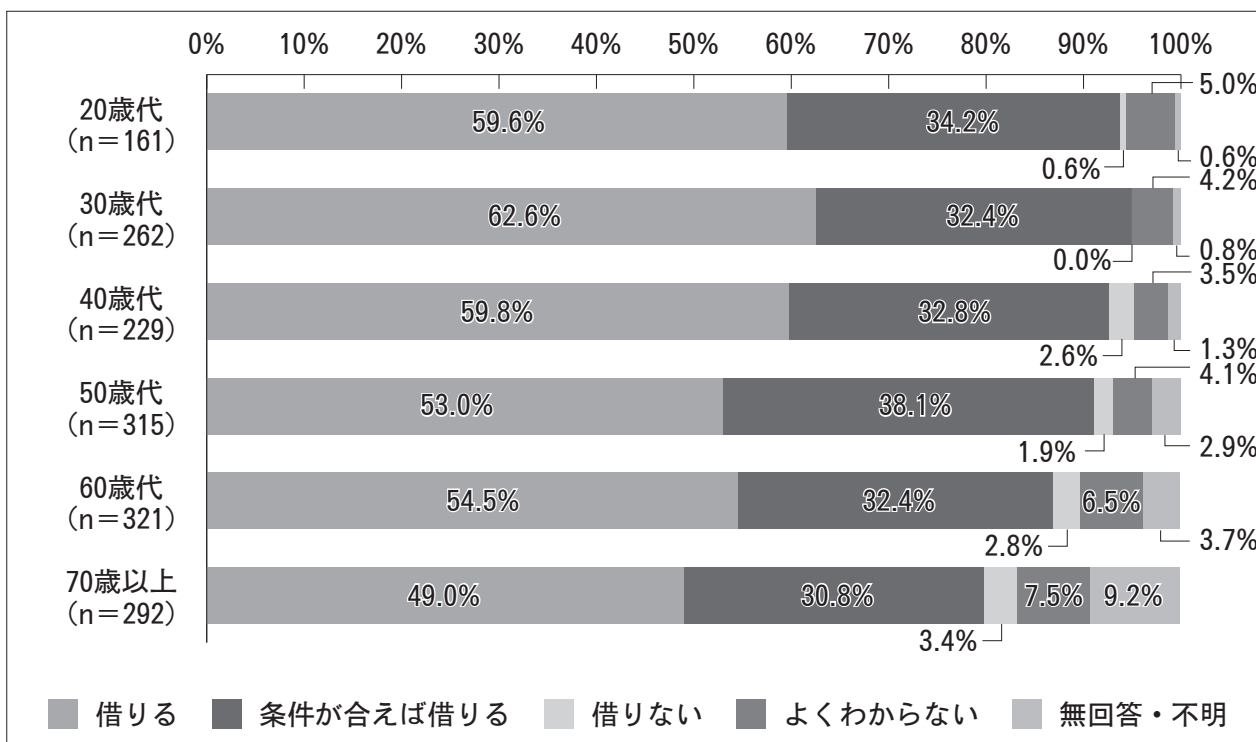


「借りない」と答えたのは、比率の高い順に、外国人、ハンセン病回復者、同和地区出身者、障がい者、高齢者と続きますが、いずれも10%未満です。「借りる」と答えたのは、比率の高い順に、高齢者、障がい者、同和地区出身者、外国人、ハンセン病回復者です。全体の傾向として、外国人やハンセン病回復者に対する人権意識が、若干低いのではないかとと思われる比率が表れています。

(1) 高齢者

表—29

		回答者数	借りる	条件が合えば借りる	借りない	よくわからない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	882 55.8%	529 33.5%	32 2.0%	83 5.3%	54 3.4%
性 別	男 性	648 100.0%	372 57.4%	195 30.1%	17 2.6%	39 6.0%	25 3.9%
	女 性	932 100.0%	510 54.7%	334 35.8%	15 1.6%	44 4.7%	29 3.1%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	96 59.6%	55 34.2%	1 0.6%	8 5.0%	1 0.6%
	30 歳 代	262 100.0%	164 62.6%	85 32.4%	0 0.0%	11 4.2%	2 0.8%
	40 歳 代	229 100.0%	137 59.8%	75 32.8%	6 2.6%	8 3.5%	3 1.3%
	50 歳 代	315 100.0%	167 53.0%	120 38.1%	6 1.9%	13 4.1%	9 2.9%
	60 歳 代	321 100.0%	175 54.5%	104 32.4%	9 2.8%	21 6.5%	12 3.7%
	70歳以上	292 100.0%	143 49.0%	90 30.8%	10 3.4%	22 7.5%	27 9.2%

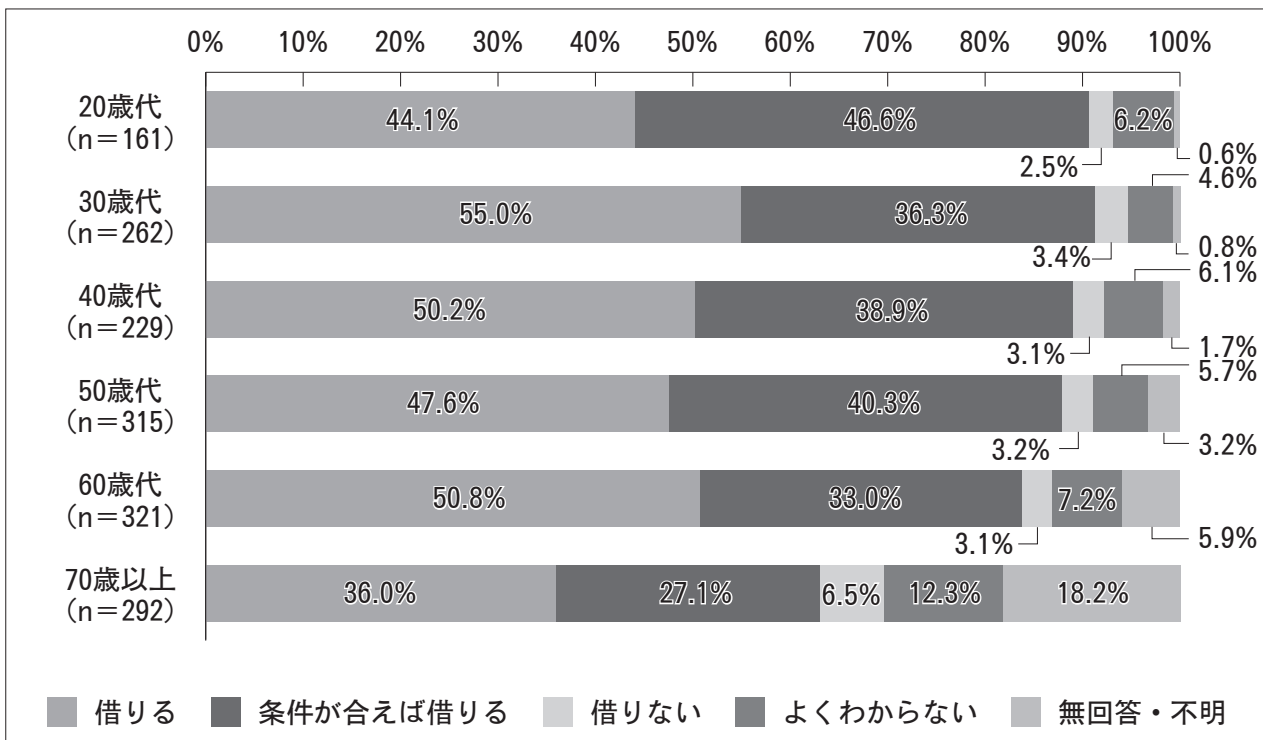


高齢者が隣り合うことについて、性別に大きな態度の差はありません。年齢別では、20歳代～40歳代よりもむしろ50歳代以上の人に、やや「高齢者を避けようとする」傾向が高くなるのが見られます。

(2) 障がい者

表—30

		回答者数	借りる	条件が合えば借りる	借りない	よくわからない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	748 47.3%	571 36.1%	59 3.7%	113 7.2%	89 5.6%
性 別	男 性	648 100.0%	320 49.4%	216 33.3%	29 4.5%	48 7.4%	35 5.4%
	女 性	932 100.0%	428 45.9%	355 38.1%	30 3.2%	65 7.0%	54 5.8%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	71 44.1%	75 46.6%	4 2.5%	10 6.2%	1 0.6%
	30 歳 代	262 100.0%	144 55.0%	95 36.3%	9 3.4%	12 4.6%	2 0.8%
	40 歳 代	229 100.0%	115 50.2%	89 38.9%	7 3.1%	14 6.1%	4 1.7%
	50 歳 代	315 100.0%	150 47.6%	127 40.3%	10 3.2%	18 5.7%	10 3.2%
	60 歳 代	321 100.0%	163 50.8%	106 33.0%	10 3.1%	23 7.2%	19 5.9%
	70歳以上	292 100.0%	105 36.0%	79 27.1%	19 6.5%	36 12.3%	53 18.2%

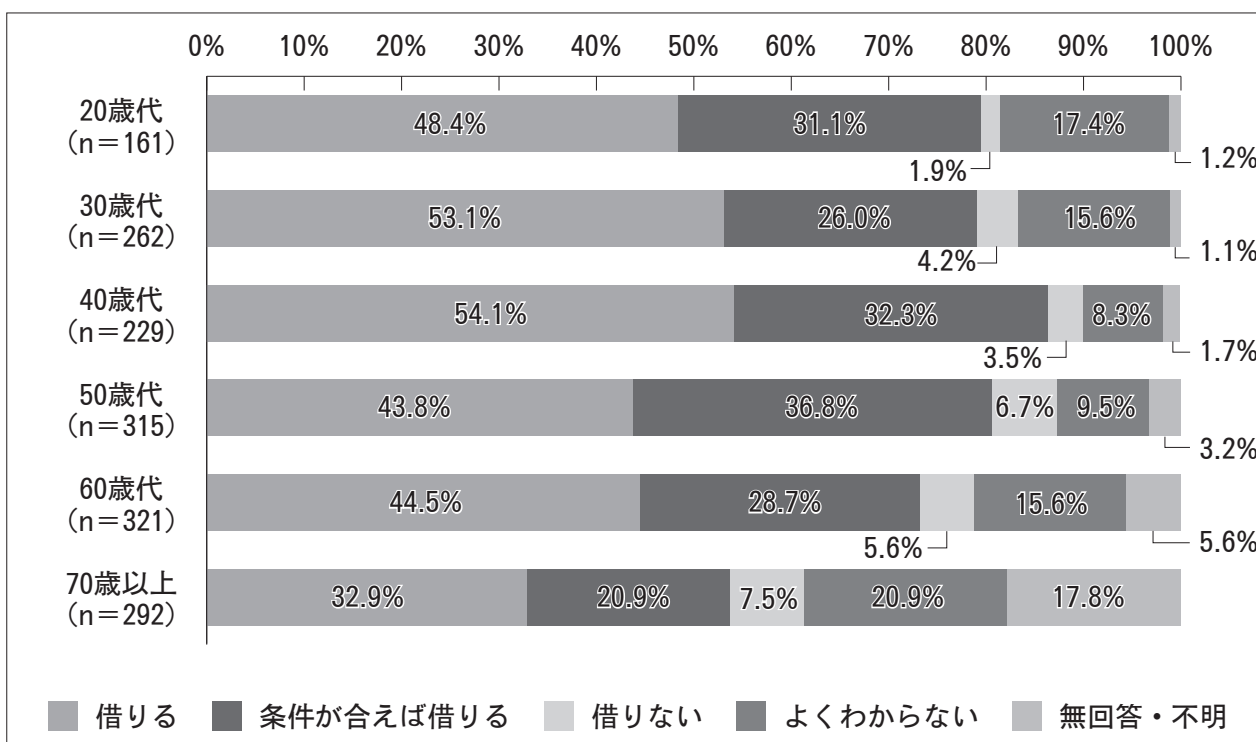


障がい者と隣り合うことについて、性別で態度の差はあまりありません。年齢別では、70歳以上の人に、障がい者を避けようとする傾向が他の年代より若干高く見られます。

(3) 同和地区出身者

表-31

		回答者数	借りる	条件が合えば借りる	借りない	よくわからない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	718 45.4%	461 29.2%	83 5.3%	229 14.5%	89 5.6%
性 別	男 性	648 100.0%	296 45.7%	183 28.2%	44 6.8%	90 13.9%	35 5.4%
	女 性	932 100.0%	422 45.3%	278 29.8%	39 4.2%	139 14.9%	54 5.8%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	78 48.4%	50 31.1%	3 1.9%	28 17.4%	2 1.2%
	30 歳 代	262 100.0%	139 53.1%	68 26.0%	11 4.2%	41 15.6%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	124 54.1%	74 32.3%	8 3.5%	19 8.3%	4 1.7%
	50 歳 代	315 100.0%	138 43.8%	116 36.8%	21 6.7%	30 9.5%	10 3.2%
	60 歳 代	321 100.0%	143 44.5%	92 28.7%	18 5.6%	50 15.6%	18 5.6%
	70歳以上	292 100.0%	96 32.9%	61 20.9%	22 7.5%	61 20.9%	52 17.8%

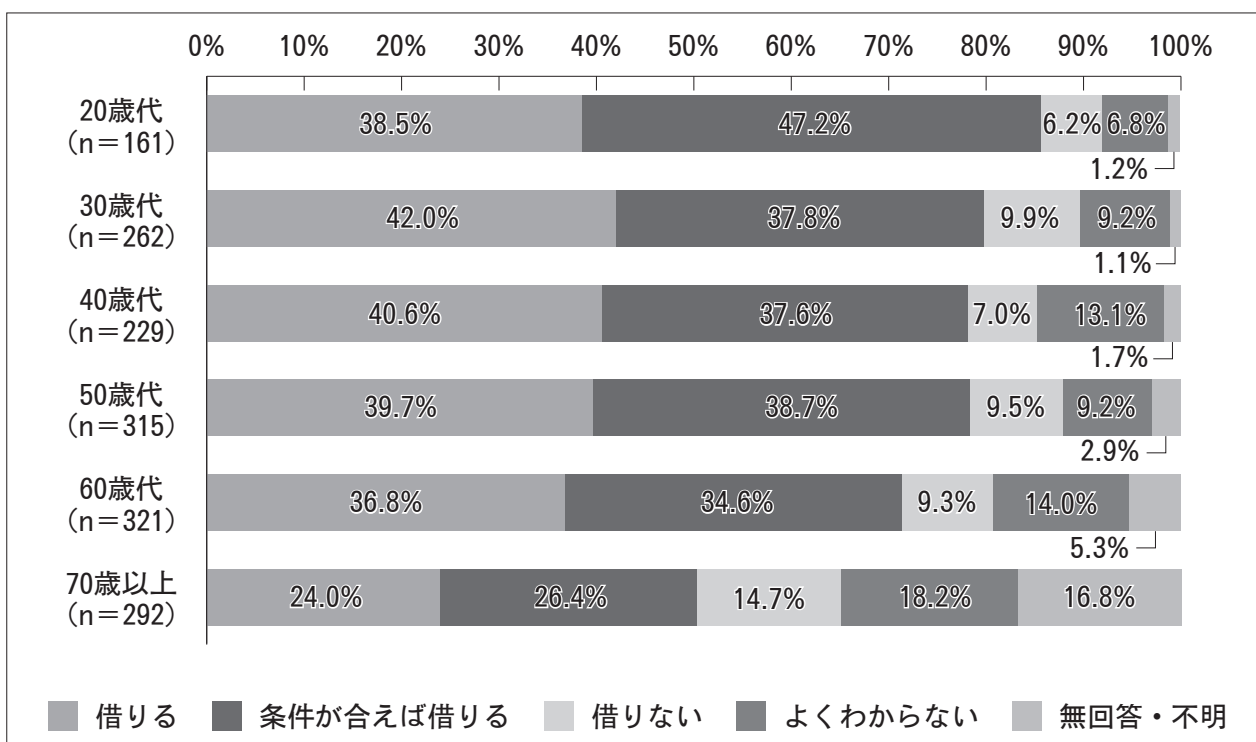


同和地区出身者と隣り合うことについて、性別で大きな態度の差はありません。年齢別では、30歳代～40歳代層が50%を超える比率で「借りる」と答えたのに対して、70歳以上の人に同和地区出身者を避けようとする傾向が若干高くなります。

(4) 外国人

表-32

		回答者数	借りる	条件が合えば借りる	借りない	よくわからない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	578 36.6%	571 36.1%	155 9.8%	192 12.2%	84 5.3%
性 別	男 性	648 100.0%	255 39.4%	229 35.3%	64 9.9%	68 10.5%	32 4.9%
	女 性	932 100.0%	323 34.7%	342 36.7%	91 9.8%	124 13.3%	52 5.6%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	62 38.5%	76 47.2%	10 6.2%	11 6.8%	2 1.2%
	30 歳 代	262 100.0%	110 42.0%	99 37.8%	26 9.9%	24 9.2%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	93 40.6%	86 37.6%	16 7.0%	30 13.1%	4 1.7%
	50 歳 代	315 100.0%	125 39.7%	122 38.7%	30 9.5%	29 9.2%	9 2.9%
	60 歳 代	321 100.0%	118 36.8%	111 34.6%	30 9.3%	45 14.0%	17 5.3%
	70歳以上	292 100.0%	70 24.0%	77 26.4%	43 14.7%	53 18.2%	49 16.8%

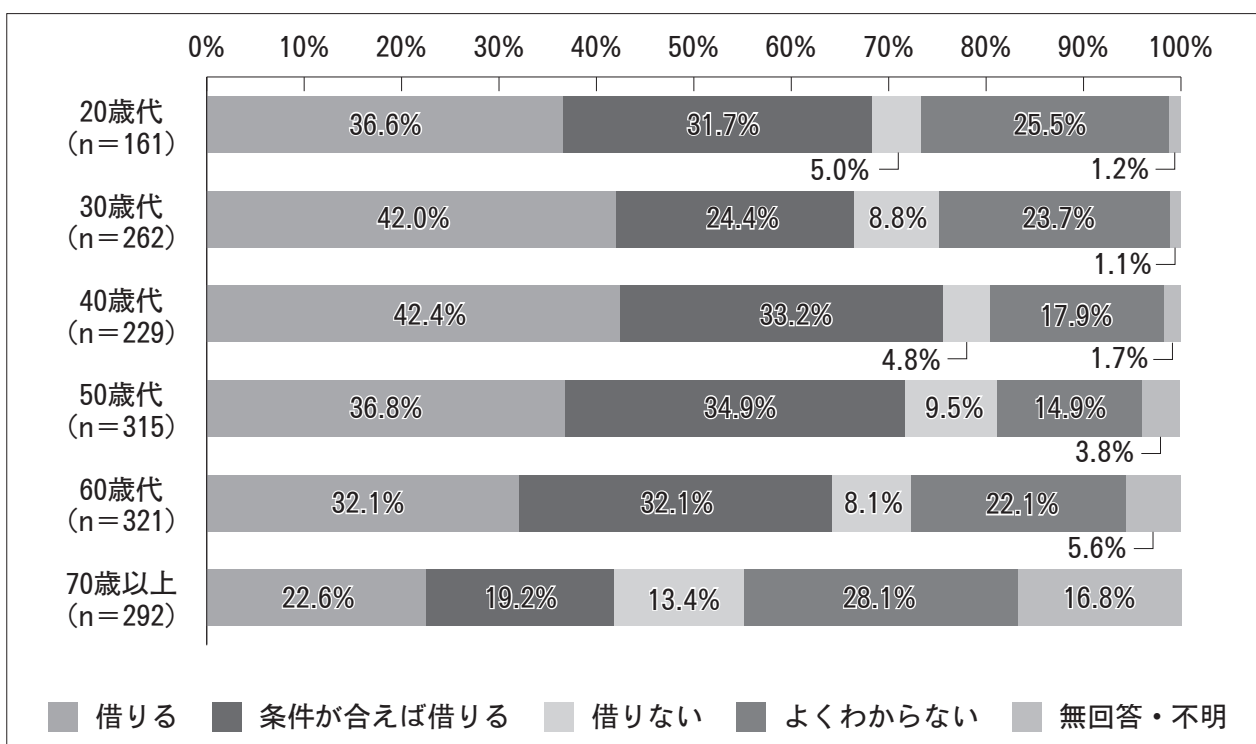


外国人と隣り合うことについて、性別では、大きな態度の差はありません。年齢別では、70歳以上のの人に外国人に対するとまどいがやや鮮明になっています。他の年代間に大きな差はありません。

(5) ハンセン病回復者

表-33

		回答者数	借りる	条件が合えば借りる	借りない	よくわからない	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	551 34.9%	460 29.1%	137 8.7%	344 21.8%	88 5.6%
性 別	男 性	648 100.0%	227 35.0%	196 30.2%	57 8.8%	132 20.4%	36 5.6%
	女 性	932 100.0%	324 34.8%	264 28.3%	80 8.6%	212 22.7%	52 5.6%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	59 36.6%	51 31.7%	8 5.0%	41 25.5%	2 1.2%
	30 歳 代	262 100.0%	110 42.0%	64 24.4%	23 8.8%	62 23.7%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	97 42.4%	76 33.2%	11 4.8%	41 17.9%	4 1.7%
	50 歳 代	315 100.0%	116 36.8%	110 34.9%	30 9.5%	47 14.9%	12 3.8%
	60 歳 代	321 100.0%	103 32.1%	103 32.1%	26 8.1%	71 22.1%	18 5.6%
	70歳以上	292 100.0%	66 22.6%	56 19.2%	39 13.4%	82 28.1%	49 16.8%



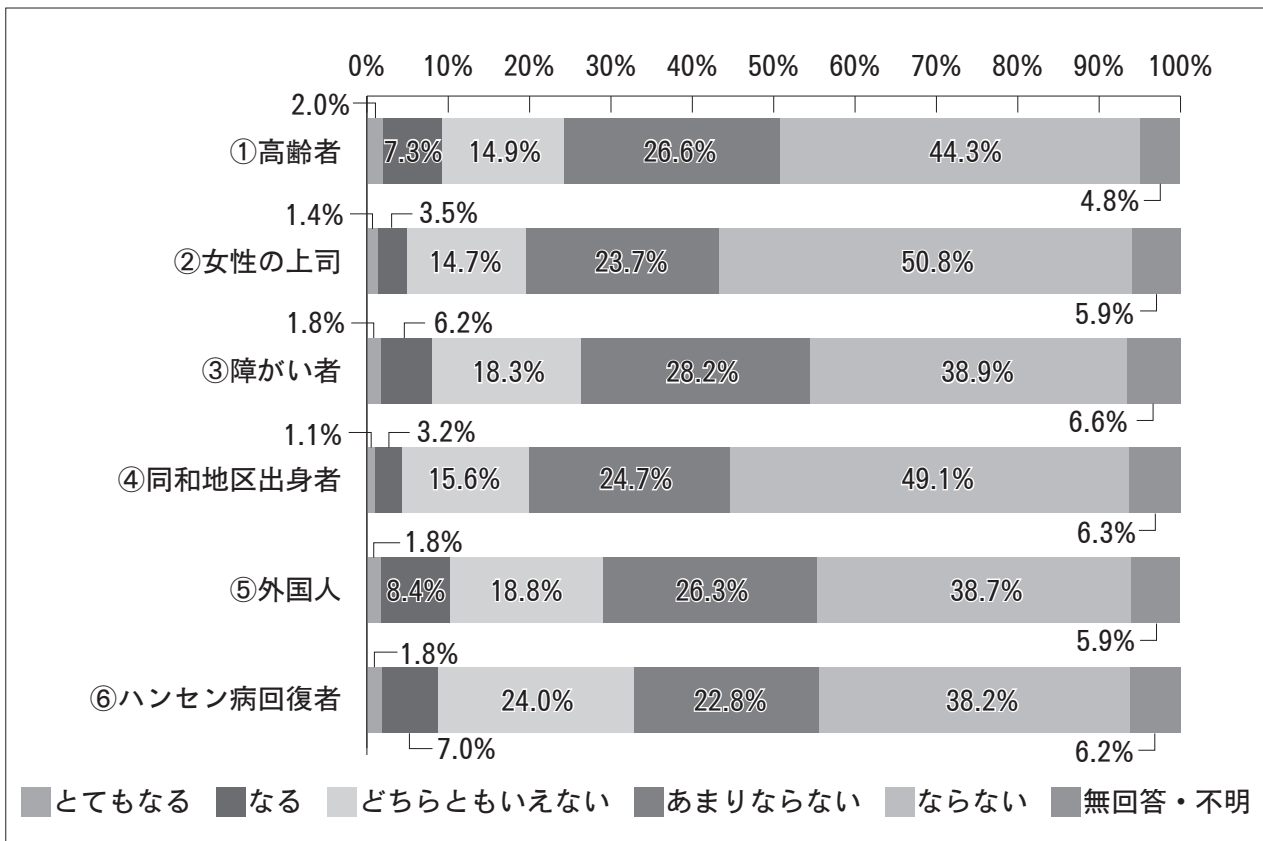
ハンセン病回復者と隣り合うことについて、性別に態度の差はありません。年齢別では、70歳以上のの人に、ハンセン病回復者を避けようとする傾向が若干高く見られます。

2 職場の隣人に対する人権意識

問8 あなたは、次の①～⑥の方と同じ職場で働くとしたら、不安になりますか。
(○は1つだけ)

表-34

	回答者数	とてもなる	なる	どちらとも いえない	あまり ならない	ならない	無回答・ 不明
①高齢者	1,580 100.0%	31 2.0%	116 7.3%	236 14.9%	421 26.6%	700 44.3%	76 4.8%
②女性の上司	1,580 100.0%	22 1.4%	55 3.5%	233 14.7%	375 23.7%	802 50.8%	93 5.9%
③障がい者	1,580 100.0%	28 1.8%	98 6.2%	289 18.3%	446 28.2%	615 38.9%	104 6.6%
④同和地区出身者	1,580 100.0%	18 1.1%	50 3.2%	247 15.6%	391 24.7%	775 49.1%	99 6.3%
⑤外国人	1,580 100.0%	29 1.8%	133 8.4%	297 18.8%	415 26.3%	612 38.7%	94 5.9%
⑥ハンセン病回復者	1,580 100.0%	29 1.8%	110 7.0%	379 24.0%	360 22.8%	604 38.2%	98 6.2%



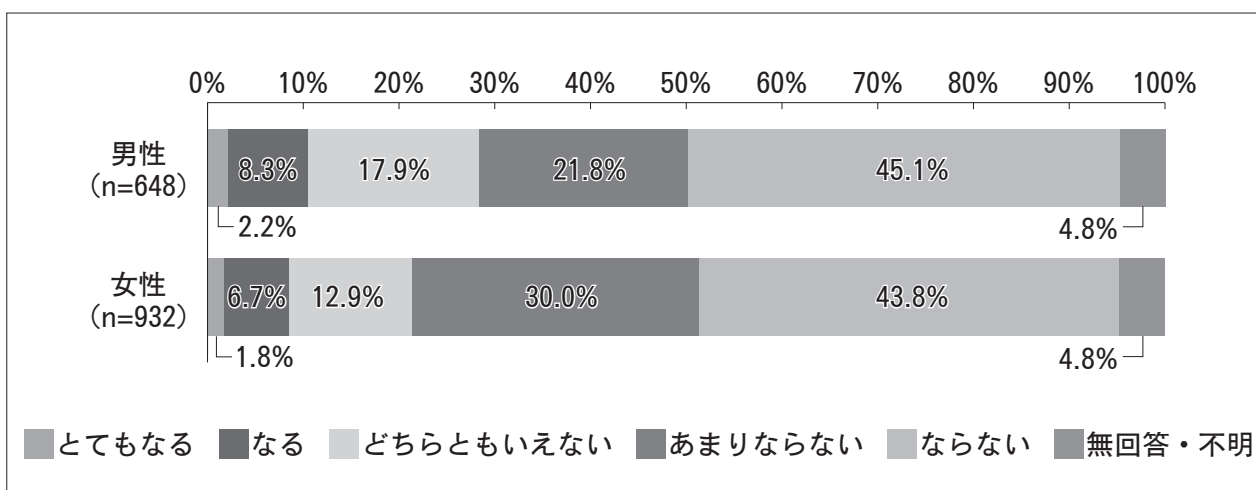
「とてもなる」・「なる」の合計（以下『不安になる』という）と「あまりならない」・「ならない」の合計（以下『不安にならない』という）を比べた場合、『不安になる』と答えた比率は、「外国人」「高齢者」「ハンセン病回復者」「障がい者」「女性の上司」「同和地区出身者」の順に高いことがわかります。ただし、比率は4～10%程度です。『不安にならない』と答えた比率は、「女性の上司」「同和地区出身者」「高齢者」「障がい者」「外国人」「ハンセン病回復者」の順になります。比率は60～70%台です。

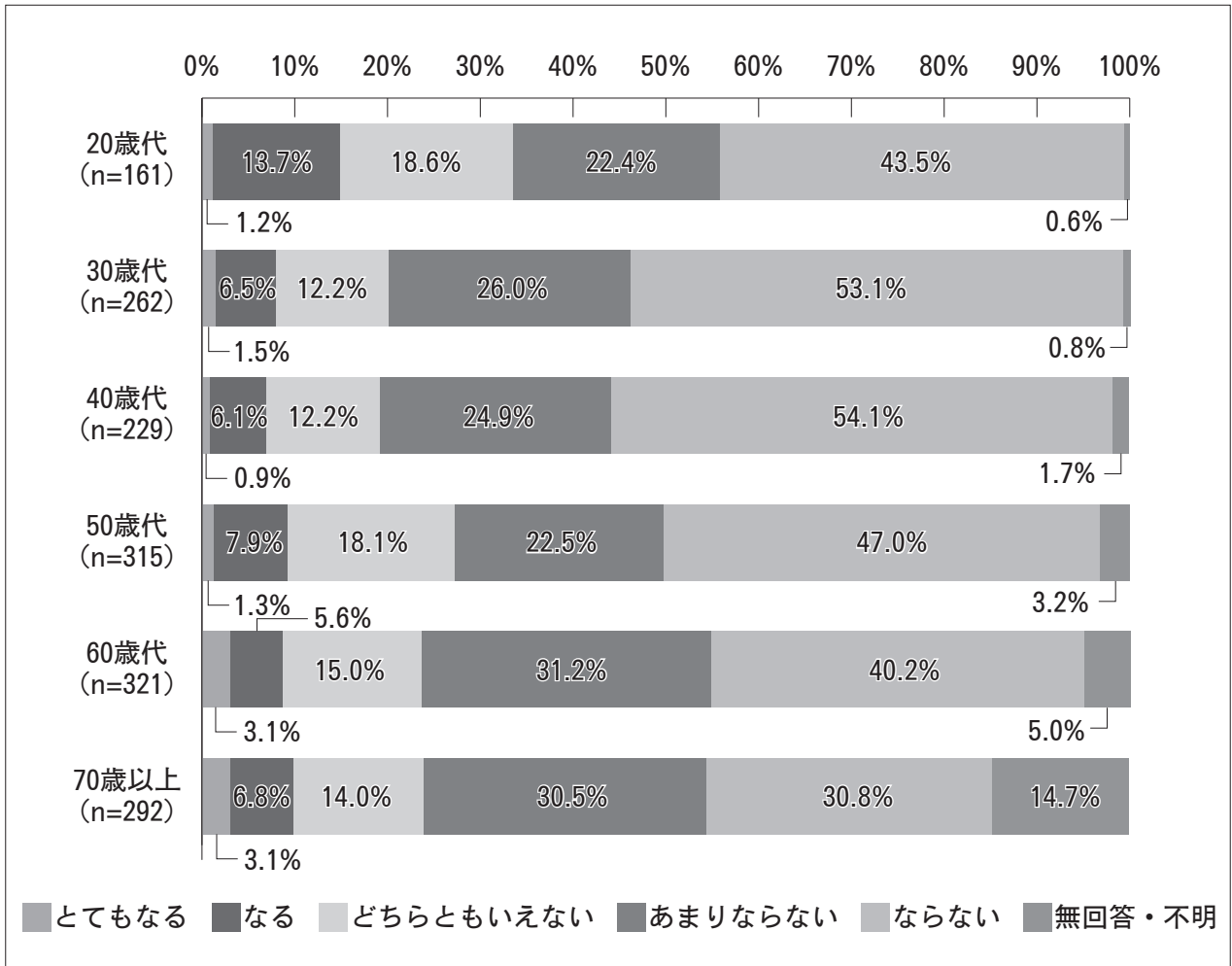
全体として、多くの市民が職場での人権意識に目覚めていると思われませんが、10%程度とはいえ、相手によっては不安感を持つ人がいることも確かです。では、この問いに対する回答に性別・年齢別の差違はあるのでしょうか。

(1) 高齢者

表—35

		回答者数	とてもなる	なる	どちらとも いけない	あまり ならない	ならない	無回答・ 不明
市 全 体		1,580 100.0%	31 2.0%	116 7.3%	236 14.9%	421 26.6%	700 44.3%	76 4.8%
性 別	男 性	648 100.0%	14 2.2%	54 8.3%	116 17.9%	141 21.8%	292 45.1%	31 4.8%
	女 性	932 100.0%	17 1.8%	62 6.7%	120 12.9%	280 30.0%	408 43.8%	45 4.8%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	2 1.2%	22 13.7%	30 18.6%	36 22.4%	70 43.5%	1 0.6%
	30 歳 代	262 100.0%	4 1.5%	17 6.5%	32 12.2%	68 26.0%	139 53.1%	2 0.8%
	40 歳 代	229 100.0%	2 0.9%	14 6.1%	28 12.2%	57 24.9%	124 54.1%	4 1.7%
	50 歳 代	315 100.0%	4 1.3%	25 7.9%	57 18.1%	71 22.5%	148 47.0%	10 3.2%
	60 歳 代	321 100.0%	10 3.1%	18 5.6%	48 15.0%	100 31.2%	129 40.2%	16 5.0%
	70歳以上	292 100.0%	9 3.1%	20 6.8%	41 14.0%	89 30.5%	90 30.8%	43 14.7%



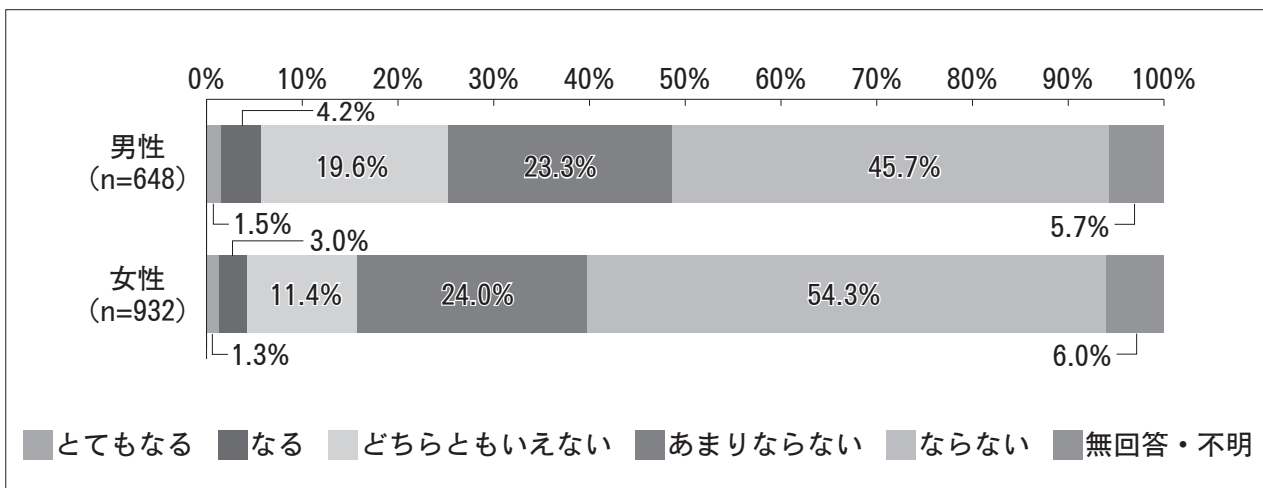


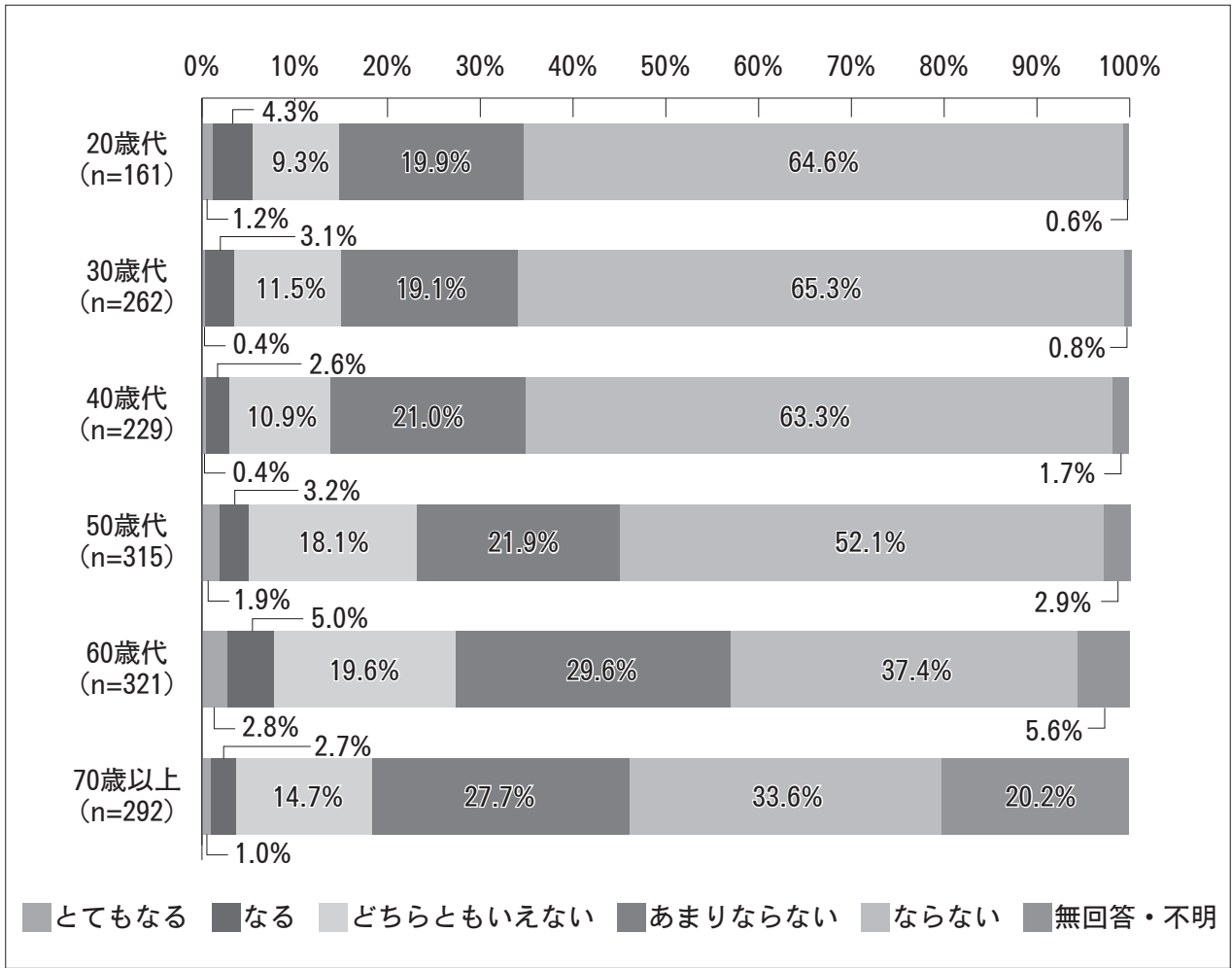
職場に高齢者がいることについて、9.3%の市民が『不安になる』と答え、70.9%の人が『不安にならない』と答えています。性別に大きな差はありませんが、若干、女性の方が『不安にならない』と答えた比率が高いことがわかります。年齢別に見ると、20歳代で『不安になる』人が14.9%おり、他の年代より若干ですが高くなっています。

(2) 女性の上司

表-36

		回答者数	とてもなる	なる	どちらとも いえない	あまり ならない	ならない	無回答・ 不明
市 全 体		1,580 100.0%	22 1.4%	55 3.5%	233 14.7%	375 23.7%	802 50.8%	93 5.9%
性 別	男 性	648 100.0%	10 1.5%	27 4.2%	127 19.6%	151 23.3%	296 45.7%	37 5.7%
	女 性	932 100.0%	12 1.3%	28 3.0%	106 11.4%	224 24.0%	506 54.3%	56 6.0%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	2 1.2%	7 4.3%	15 9.3%	32 19.9%	104 64.6%	1 0.6%
	30 歳 代	262 100.0%	1 0.4%	8 3.1%	30 11.5%	50 19.1%	171 65.3%	2 0.8%
	40 歳 代	229 100.0%	1 0.4%	6 2.6%	25 10.9%	48 21.0%	145 63.3%	4 1.7%
	50 歳 代	315 100.0%	6 1.9%	10 3.2%	57 18.1%	69 21.9%	164 52.1%	9 2.9%
	60 歳 代	321 100.0%	9 2.8%	16 5.0%	63 19.6%	95 29.6%	120 37.4%	18 5.6%
	70歳以上	292 100.0%	3 1.0%	8 2.7%	43 14.7%	81 27.7%	98 33.6%	59 20.2%



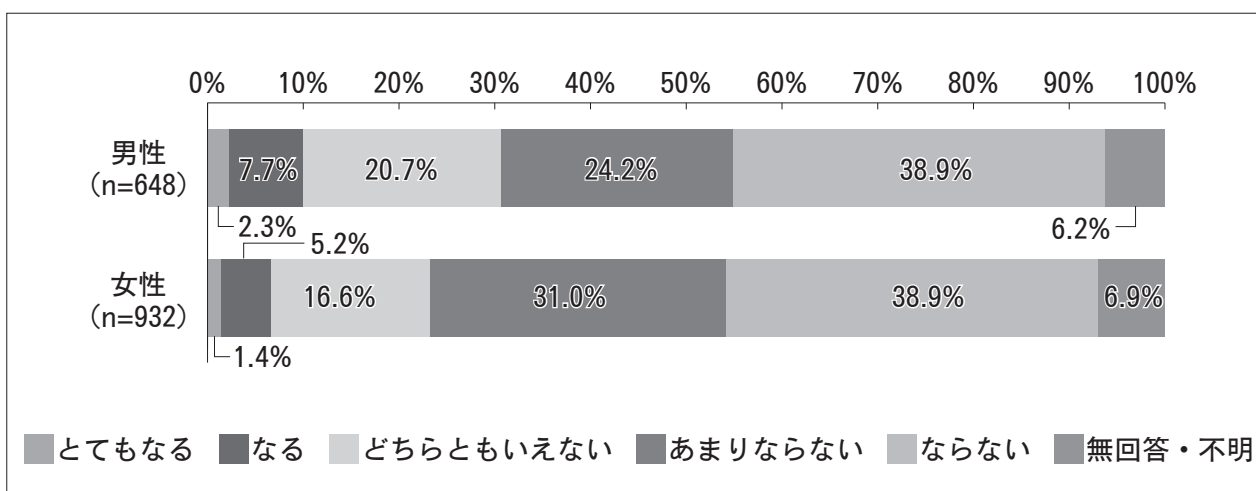


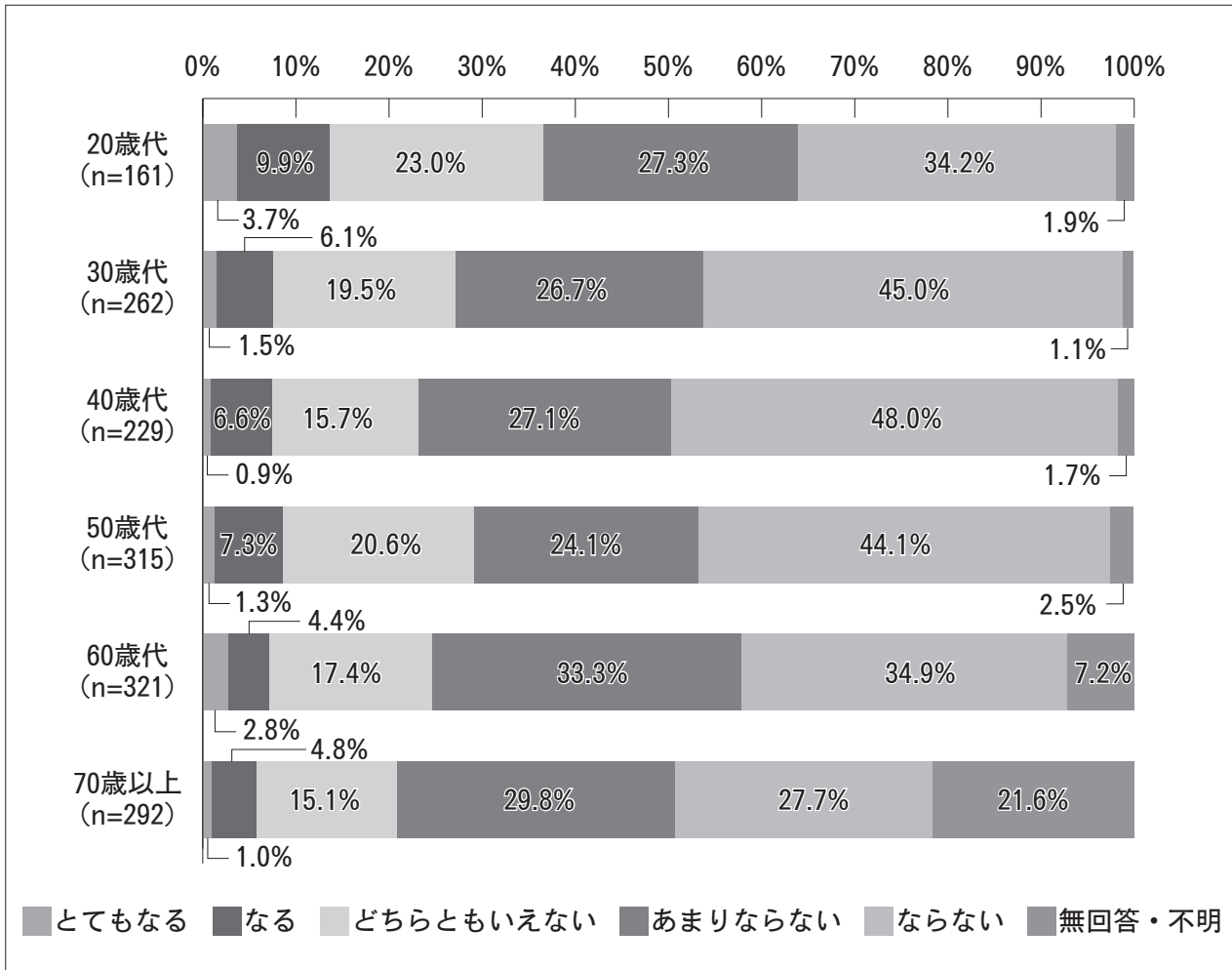
職場の上司が女性であることに関しては、『不安にならない』と答えた人の比率が、男性より女性の方に少し高く表れています。年齢別に見た場合、『不安にならない』と答えた人の比率は、20歳代～40歳代は80%台に対して、50歳代以上では60～70%台に低下するのがわかります。

(3) 障がい者

表-37

		回答者数	とてもなる	なる	どちらとも いけない	あまり ならない	ならない	無回答・ 不明
市 全 体		1,580 100.0%	28 1.8%	98 6.2%	289 18.3%	446 28.2%	615 38.9%	104 6.6%
性 別	男 性	648 100.0%	15 2.3%	50 7.7%	134 20.7%	157 24.2%	252 38.9%	40 6.2%
	女 性	932 100.0%	13 1.4%	48 5.2%	155 16.6%	289 31.0%	363 38.9%	64 6.9%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	6 3.7%	16 9.9%	37 23.0%	44 27.3%	55 34.2%	3 1.9%
	30 歳 代	262 100.0%	4 1.5%	16 6.1%	51 19.5%	70 26.7%	118 45.0%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	2 0.9%	15 6.6%	36 15.7%	62 27.1%	110 48.0%	4 1.7%
	50 歳 代	315 100.0%	4 1.3%	23 7.3%	65 20.6%	76 24.1%	139 44.1%	8 2.5%
	60 歳 代	321 100.0%	9 2.8%	14 4.4%	56 17.4%	107 33.3%	112 34.9%	23 7.2%
	70歳以上	292 100.0%	3 1.0%	14 4.8%	44 15.1%	87 29.8%	81 27.7%	63 21.6%



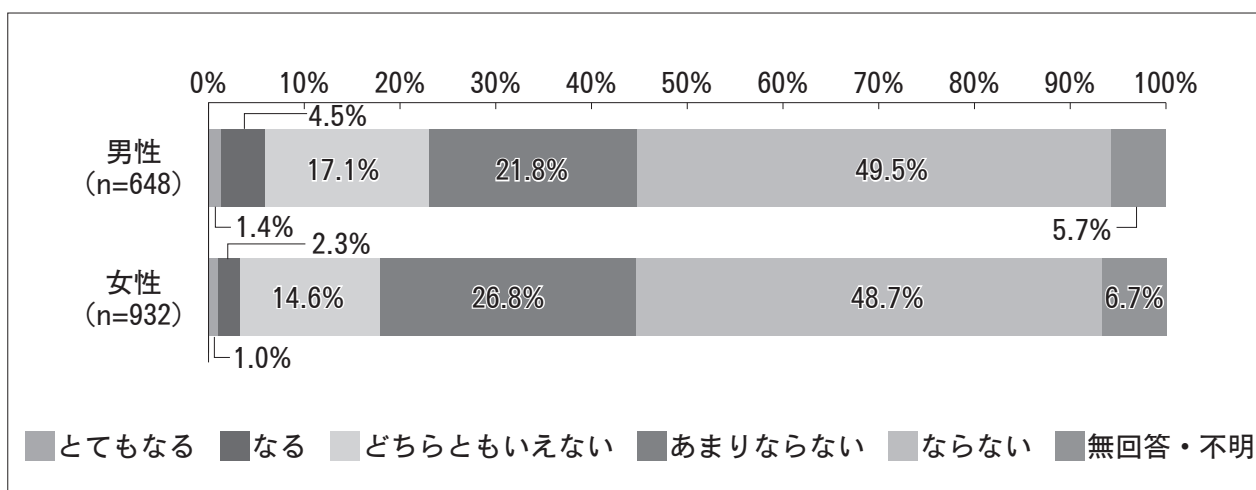


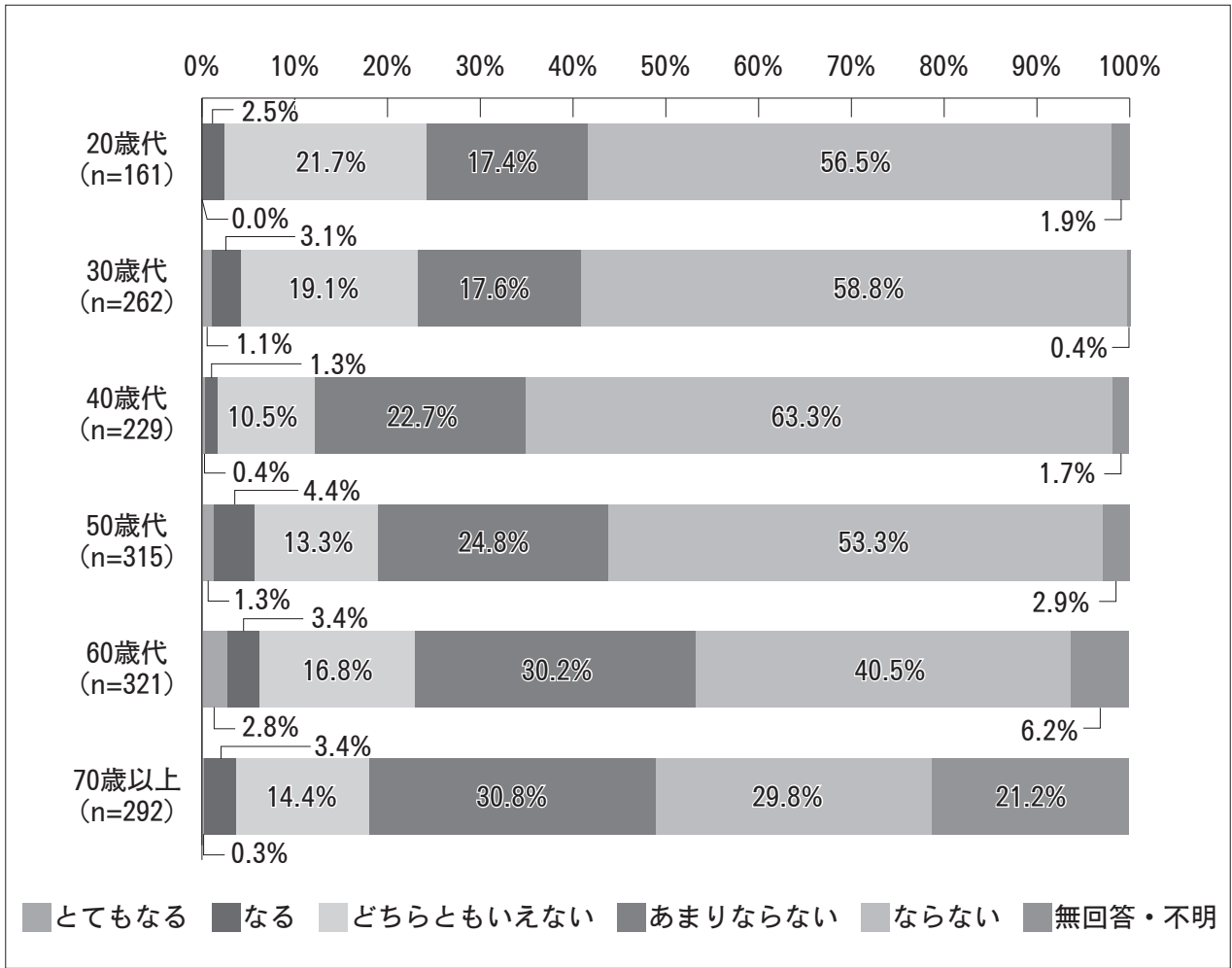
障がい者と職場を共にすることについてはどうでしょう。性別では、女性の方が若干ではありますが『不安にならない』と答えた人の比率が高いことに気づきます。年齢別に見た場合、『不安になる』と答えた人の比率は20歳代が最も高くなっています。さらに「どちらともいえない」を不安になることもある人達と考えると、36.6%が、『不安になる』人であることとなります。同様に30歳代でも27.1%おり、障がい者に対する人権意識について、特に若年層の啓発・学習の再考が必要なことをうかがわせます。

(4) 同和地区出身者

表—38

		回答者数	とてもなる	なる	どちらとも いえない	あまり ならない	ならない	無回答・ 不明
市 全 体		1,580 100.0%	18 1.1%	50 3.2%	247 15.6%	391 24.7%	775 49.1%	99 6.3%
性 別	男 性	648 100.0%	9 1.4%	29 4.5%	111 17.1%	141 21.8%	321 49.5%	37 5.7%
	女 性	932 100.0%	9 1.0%	21 2.3%	136 14.6%	250 26.8%	454 48.7%	62 6.7%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	0 0.0%	4 2.5%	35 21.7%	28 17.4%	91 56.5%	3 1.9%
	30 歳 代	262 100.0%	3 1.1%	8 3.1%	50 19.1%	46 17.6%	154 58.8%	1 0.4%
	40 歳 代	229 100.0%	1 0.4%	3 1.3%	24 10.5%	52 22.7%	145 63.3%	4 1.7%
	50 歳 代	315 100.0%	4 1.3%	14 4.4%	42 13.3%	78 24.8%	168 53.3%	9 2.9%
	60 歳 代	321 100.0%	9 2.8%	11 3.4%	54 16.8%	97 30.2%	130 40.5%	20 6.2%
	70歳以上	292 100.0%	1 0.3%	10 3.4%	42 14.4%	90 30.8%	87 29.8%	62 21.2%





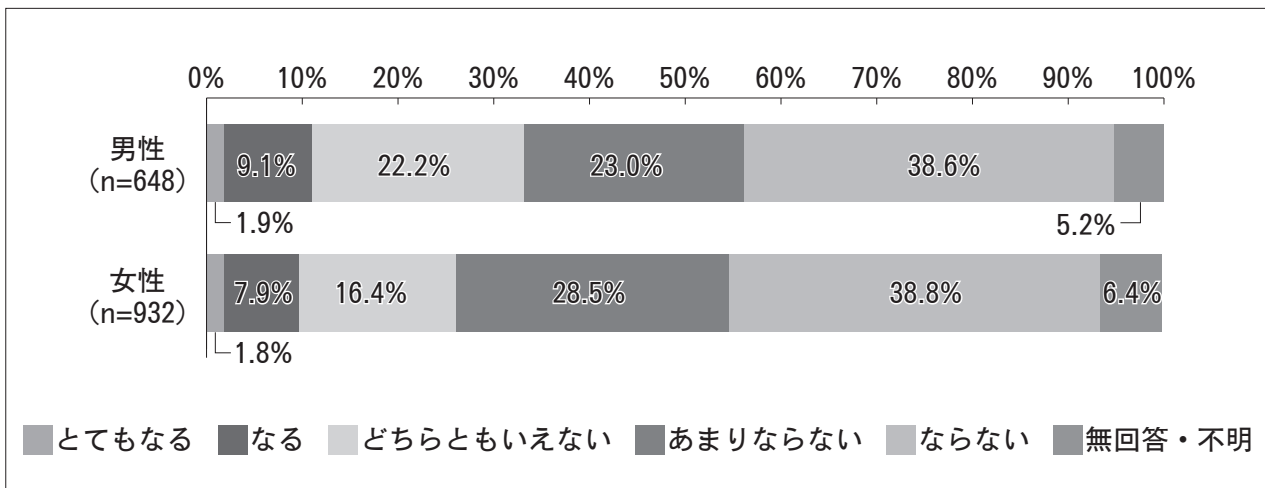
同和地区出身者と職場を共にする場合についてみると、性別では『不安にならない』と答えた人の比率は女性の方が男性よりも若干高くなっています。「どちらともいえない」を不安になることもある人と考えると、『不安になる』人が女性は17.9%であるのに対して、男性は23%になり、男性の方が同和地区出身者と職場を共にすることに不安感を持っていることがわかります。

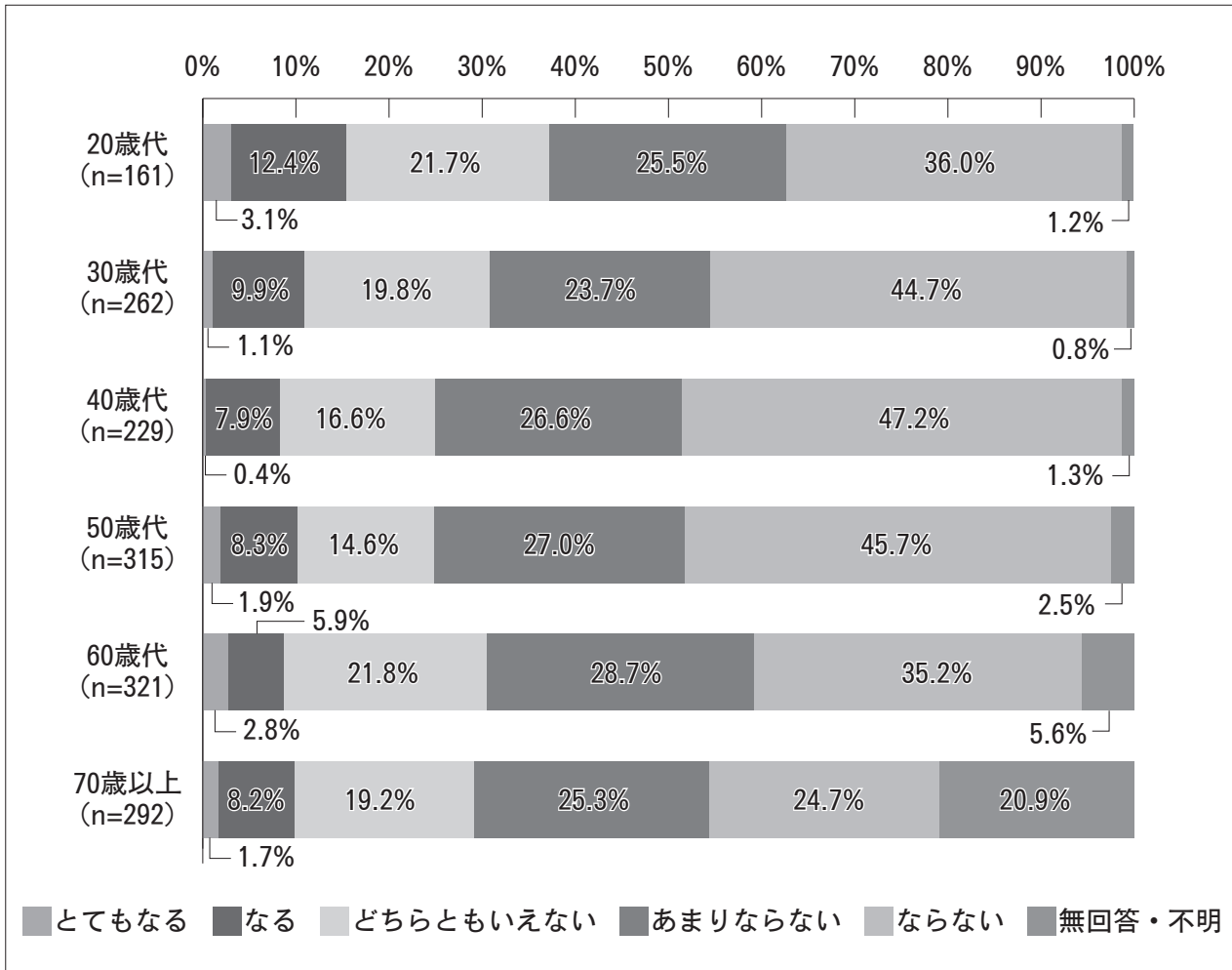
年齢別に見ると、40歳代～50歳代において『不安にならない』と答えた人の比率が高いのに比べ、20歳代～30歳代の場合、『不安にならない』と答えた人の比率は若干ではありますが低下します。障がい者に対する人権意識の場合と同様、同和問題に対する啓発・学習が、なお必要だと思われます。

(5) 外国人

表-39

		回答者数	とてもなる	なる	どちらとも いえない	あまり ならない	ならない	無回答・ 不明
市 全 体		1,580 100.0%	29 1.8%	133 8.4%	297 18.8%	415 26.3%	612 38.7%	94 5.9%
性 別	男 性	648 100.0%	12 1.9%	59 9.1%	144 22.2%	149 23.0%	250 38.6%	34 5.2%
	女 性	932 100.0%	17 1.8%	74 7.9%	153 16.4%	266 28.5%	362 38.8%	60 6.4%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	5 3.1%	20 12.4%	35 21.7%	41 25.5%	58 36.0%	2 1.2%
	30 歳 代	262 100.0%	3 1.1%	26 9.9%	52 19.8%	62 23.7%	117 44.7%	2 0.8%
	40 歳 代	229 100.0%	1 0.4%	18 7.9%	38 16.6%	61 26.6%	108 47.2%	3 1.3%
	50 歳 代	315 100.0%	6 1.9%	26 8.3%	46 14.6%	85 27.0%	144 45.7%	8 2.5%
	60 歳 代	321 100.0%	9 2.8%	19 5.9%	70 21.8%	92 28.7%	113 35.2%	18 5.6%
	70歳以上	292 100.0%	5 1.7%	24 8.2%	56 19.2%	74 25.3%	72 24.7%	61 20.9%



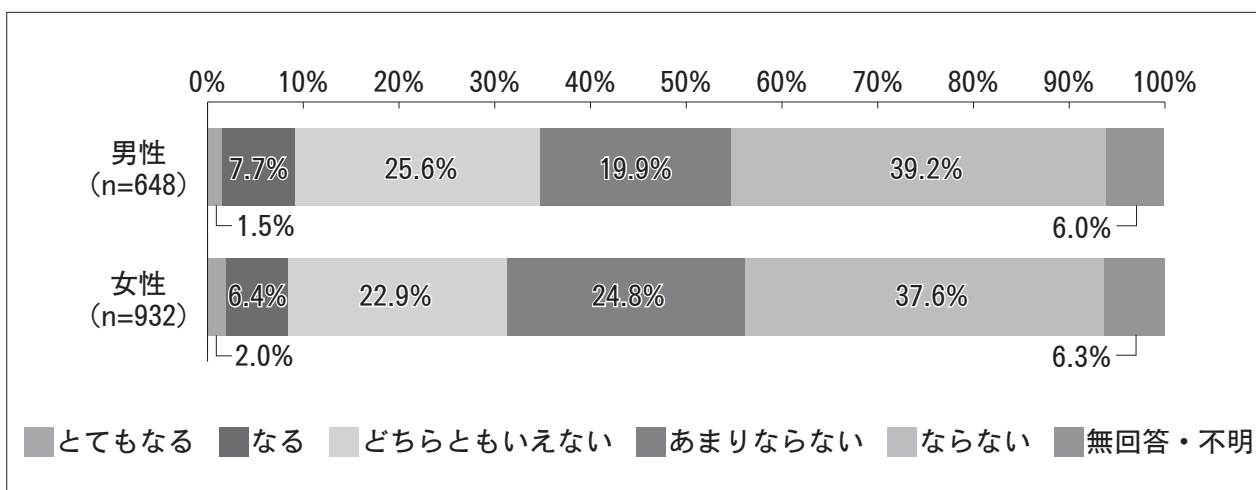


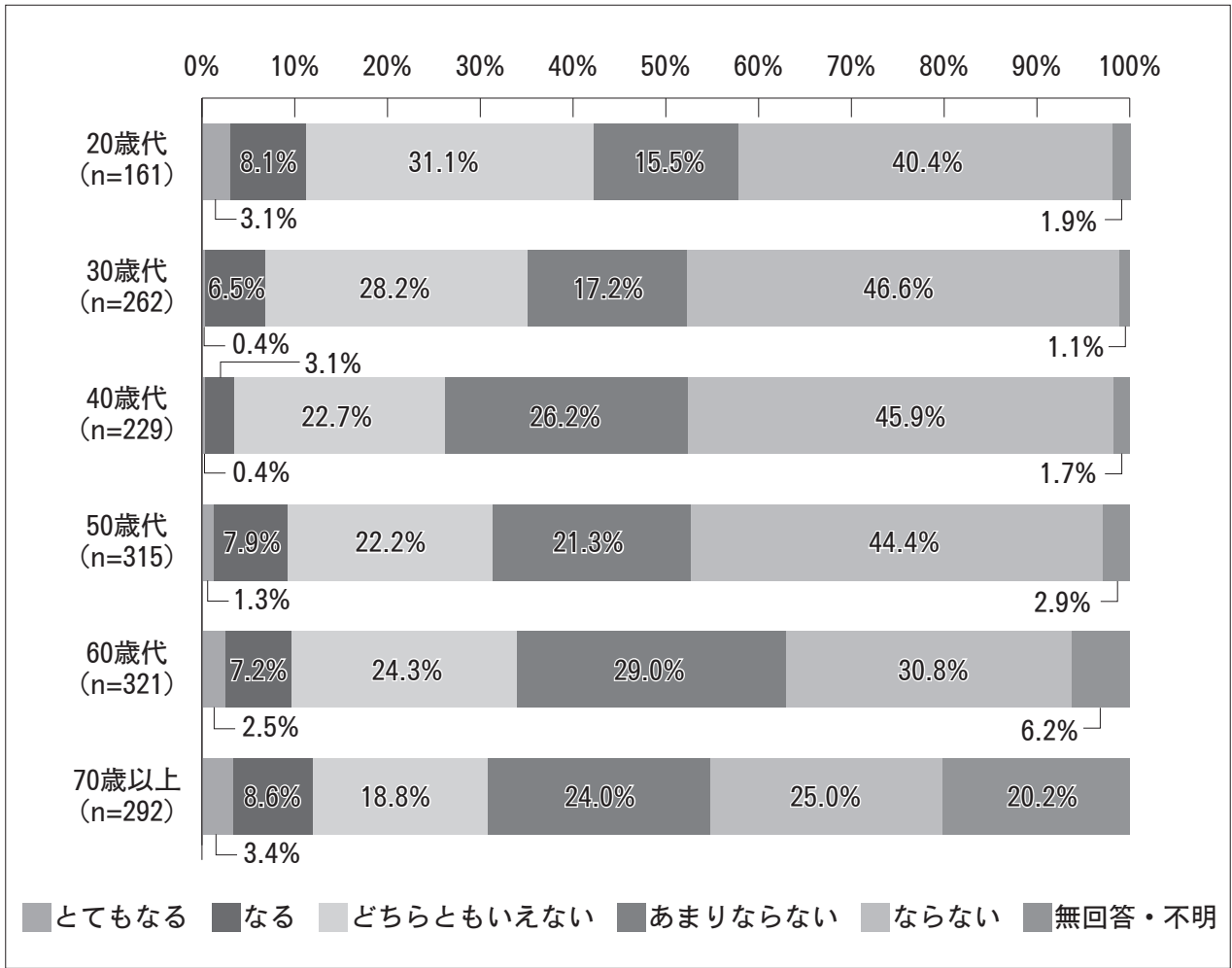
外国人と職場を共にすることについてはどうでしょう。「どちらともいえない」を不安になることもある人と考えると、性別では、女性よりも男性に『不安になる』と答えた人が多いことがわかります。年齢別に見ると、40歳代～50歳代で『不安になる』と答えた人が20%台であるのに対して、30歳代では30.8%、20歳代では37.2%になります。労働人口の国際的移動、政治・経済・教育・文化・スポーツ等において、より一層国際化が進む中で、外国人に対する理解と人権意識の啓発・学習を再考する必要があります。

(6) ハンセン病回復者

表-40

		回答者数	とてもなる	なる	どちらとも いえない	あまり ならない	ならない	無回答・ 不明
市 全 体		1,580 100.0%	29 1.8%	110 7.0%	379 24.0%	360 22.8%	604 38.2%	98 6.2%
性 別	男 性	648 100.0%	10 1.5%	50 7.7%	166 25.6%	129 19.9%	254 39.2%	39 6.0%
	女 性	932 100.0%	19 2.0%	60 6.4%	213 22.9%	231 24.8%	350 37.6%	59 6.3%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	5 3.1%	13 8.1%	50 31.1%	25 15.5%	65 40.4%	3 1.9%
	30 歳 代	262 100.0%	1 0.4%	17 6.5%	74 28.2%	45 17.2%	122 46.6%	3 1.1%
	40 歳 代	229 100.0%	1 0.4%	7 3.1%	52 22.7%	60 26.2%	105 45.9%	4 1.7%
	50 歳 代	315 100.0%	4 1.3%	25 7.9%	70 22.2%	67 21.3%	140 44.4%	9 2.9%
	60 歳 代	321 100.0%	8 2.5%	23 7.2%	78 24.3%	93 29.0%	99 30.8%	20 6.2%
	70歳以上	292 100.0%	10 3.4%	25 8.6%	55 18.8%	70 24.0%	73 25.0%	59 20.2%





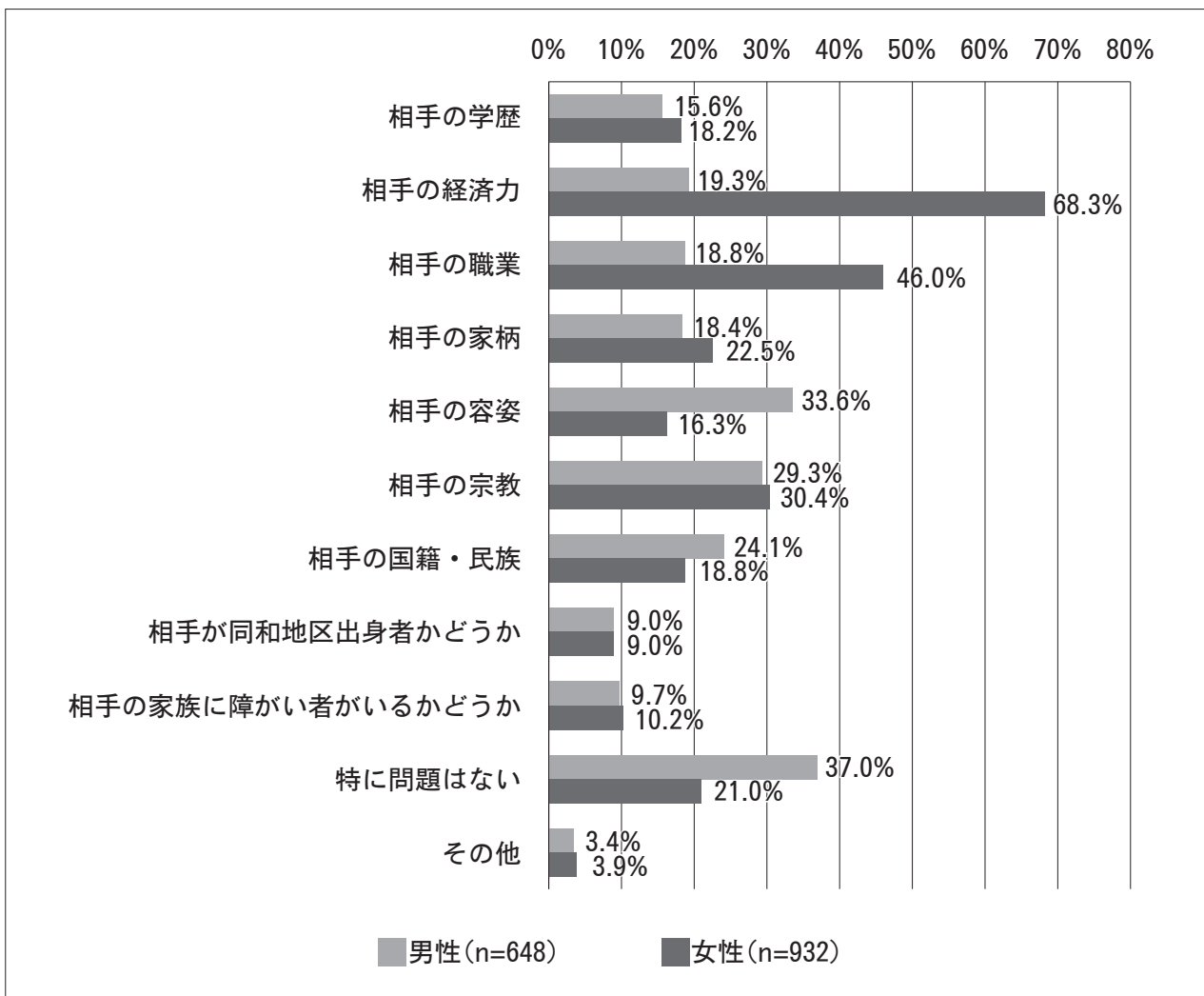
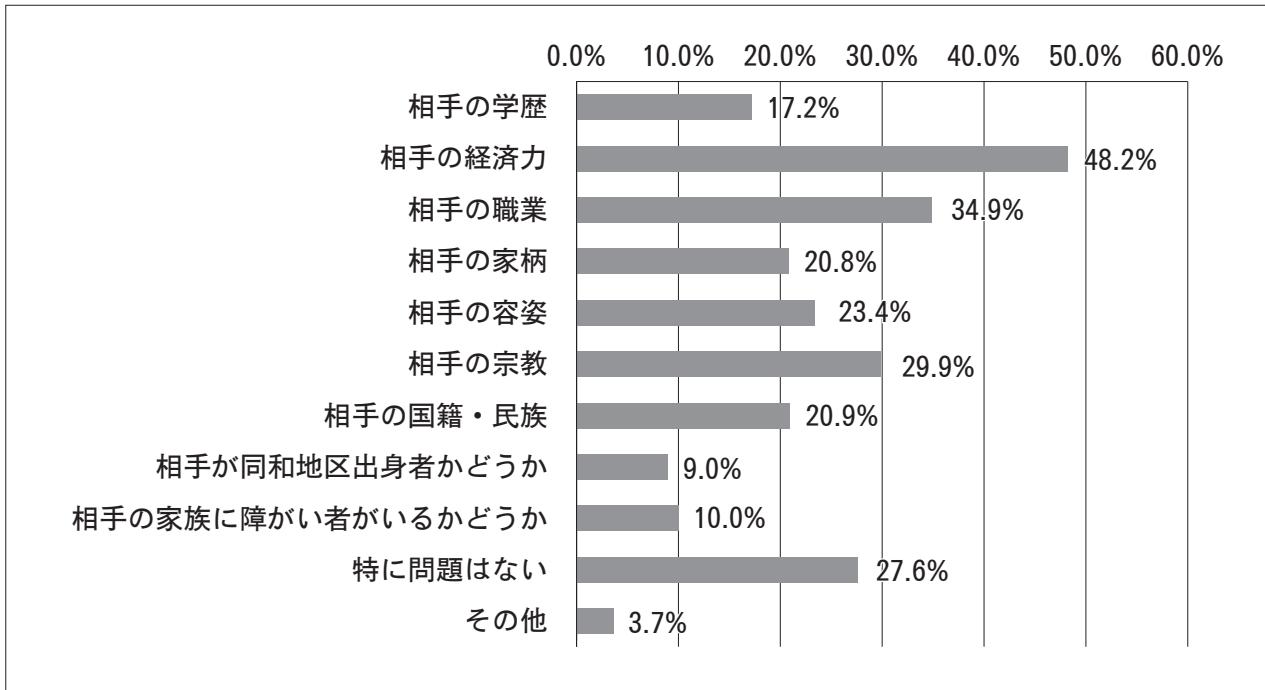
ハンセン病回復者と職場を共にすることに関する意識について、性別では、ほとんど差がありません。「どちらともいえない」を不安になることもある人と考えると、『不安になる』と答えた人が32.8%いることについて、人権啓発・学習に関し、再考する必要があります。

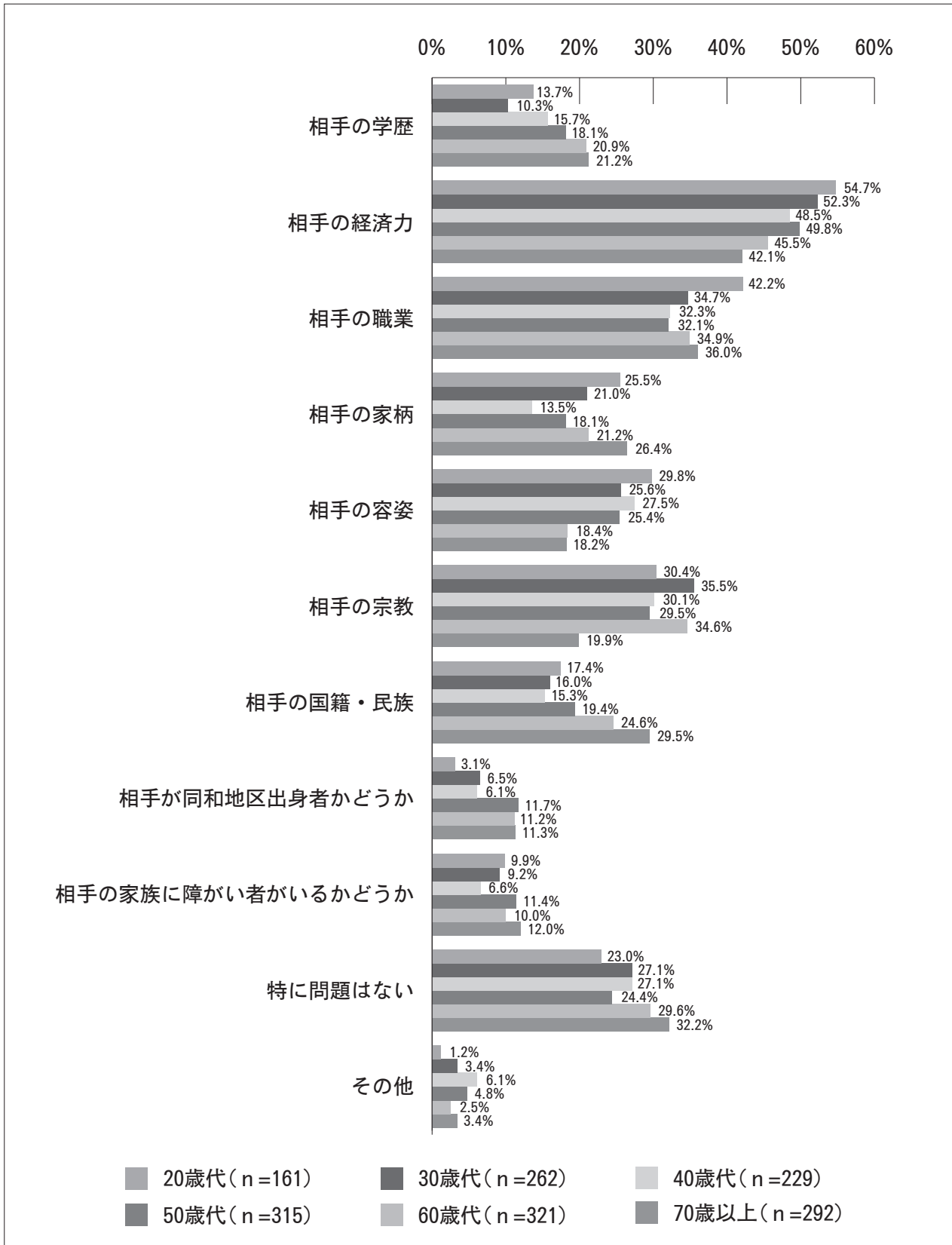
3 自分の結婚相手を考える際の人権意識

問11 あなたご自身の結婚相手を考える際、相手の人柄や性格以外で、気になること（気になったこと）をお答えください。（○はいくつでも）

表-41

		回 答 者 数	相 手 の 学 歴	相 手 の 経 済 力	相 手 の 職 業	相 手 の 家 柄	相 手 の 容 姿	相 手 の 宗 教	籍 相 ・ 手 民 の 族 国	か 地 区 出 身 者 か	相 手 が 同 和 か	障 が い る か ど う か	相 手 の 家 族 に か か る か	は 特 に な い 問 題	そ の 他
市 全 体		1,580 100.0%	271 17.2%	762 48.2%	551 34.9%	329 20.8%	370 23.4%	473 29.9%	331 20.9%	142 9.0%	158 10.0%	436 27.6%	58 3.7%		
性 別	男 性	648 100.0%	101 15.6%	125 19.3%	122 18.8%	119 18.4%	218 33.6%	190 29.3%	156 24.1%	58 9.0%	63 9.7%	240 37.0%	22 3.4%		
	女 性	932 100.0%	170 18.2%	637 68.3%	429 46.0%	210 22.5%	152 16.3%	283 30.4%	175 18.8%	84 9.0%	95 10.2%	196 21.0%	36 3.9%		
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	22 13.7%	88 54.7%	68 42.2%	41 25.5%	48 29.8%	49 30.4%	28 17.4%	5 3.1%	16 9.9%	37 23.0%	2 1.2%		
	30 歳 代	262 100.0%	27 10.3%	137 52.3%	91 34.7%	55 21.0%	67 25.6%	93 35.5%	42 16.0%	17 6.5%	24 9.2%	71 27.1%	9 3.4%		
	40 歳 代	229 100.0%	36 15.7%	111 48.5%	74 32.3%	31 13.5%	63 27.5%	69 30.1%	35 15.3%	14 6.1%	15 6.6%	62 27.1%	14 6.1%		
	50 歳 代	315 100.0%	57 18.1%	157 49.8%	101 32.1%	57 18.1%	80 25.4%	93 29.5%	61 19.4%	37 11.7%	36 11.4%	77 24.4%	15 4.8%		
	60 歳 代	321 100.0%	67 20.9%	146 45.5%	112 34.9%	68 21.2%	59 18.4%	111 34.6%	79 24.6%	36 11.2%	32 10.0%	95 29.6%	8 2.5%		
	70歳以上	292 100.0%	62 21.2%	123 42.1%	105 36.0%	77 26.4%	53 18.2%	58 19.9%	86 29.5%	33 11.3%	35 12.0%	94 32.2%	10 3.4%		





「特に問題はない」と答えた人は全体で27.6%です。「気になる」と答えた9項目を比率の高い順に記せば、「経済力」「職業」「宗教」「容姿」「国籍・民族」「家柄」までが、20%を超える比率です。「学歴」が17.2%でこれらに続きます。「家族に障がい者がいるかどうか」「同和地区出身者かどうか」は10%、9%で、取りあげた項目の中ではいずれも低い数値になります。しかし、1割ほどの人が気になると答えていることを無視することはできません。

性別で差違が大きかった項目についてまとめると次のようになります。まず、「相手の経済力」については女性の方が遙かに意識的です。次に、「相手の職業」についても、女性の方が男性より気にかけることがわかります。これと違って、「相手の容姿」に対しては逆に男性の方が女性より気にすることがわかります。

こうした性別の差違に比べると、年齢による差違はあまり大きくありません。ただ、「相手が同和地区出身者かどうか」についてみると、50歳代以上に気にすると答えた人が多く、その比率は40歳代以下の2～3倍ほどになります。見方を変えれば、40歳代以下では「相手が同和地区出身者かどうか」は、気にしない人が増えていることがわかります。

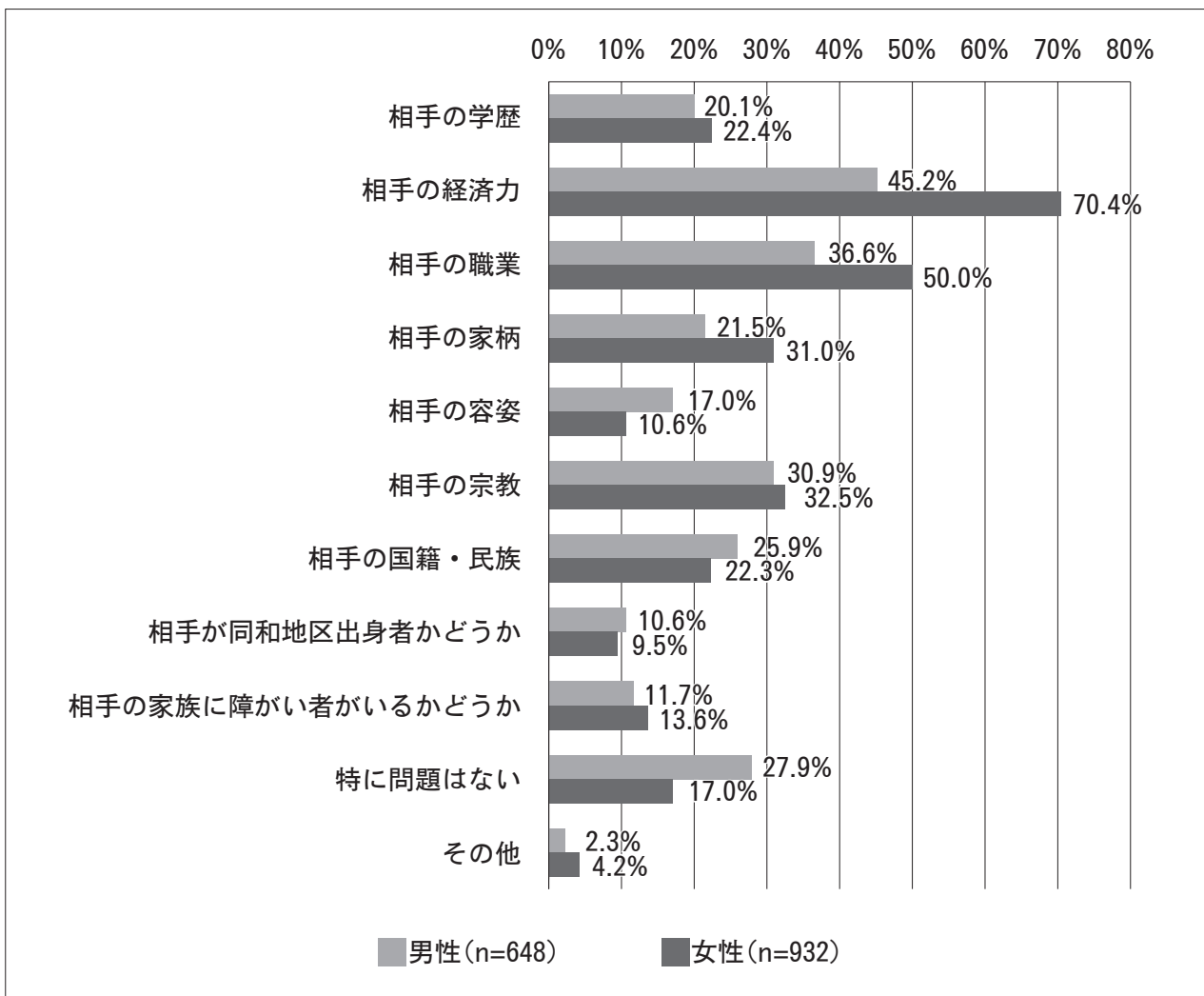
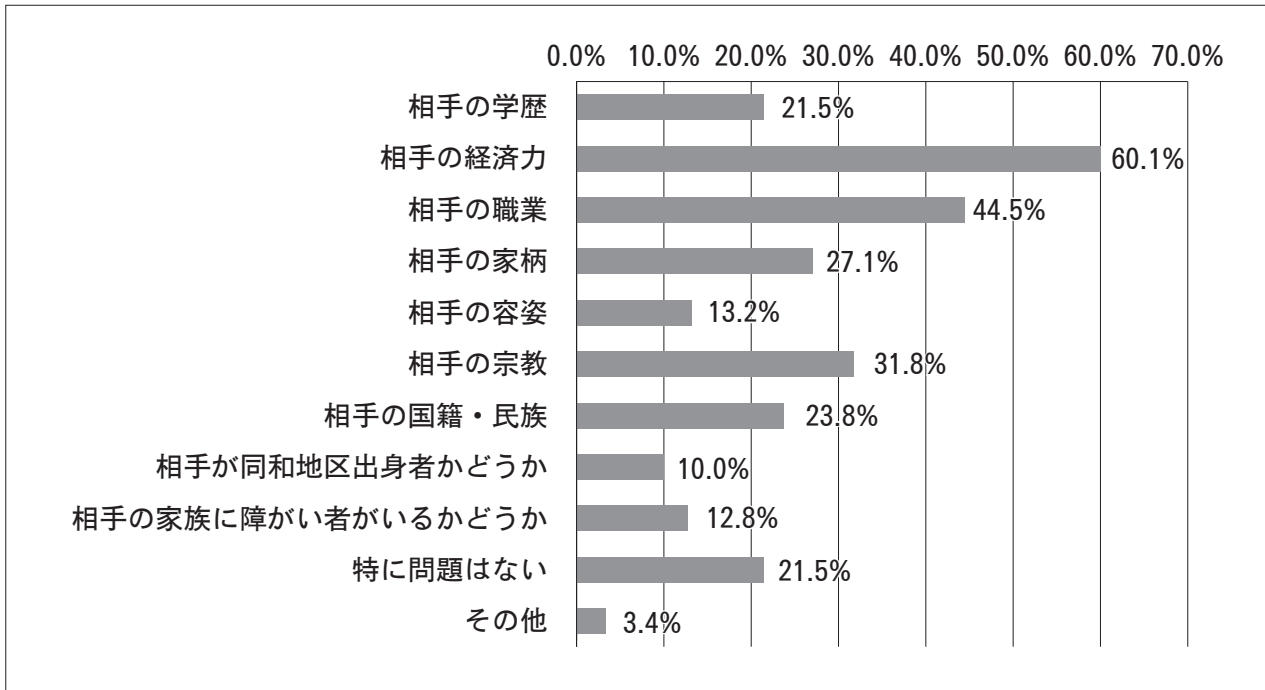
4 自分の子どもの結婚相手を考える際の人権意識

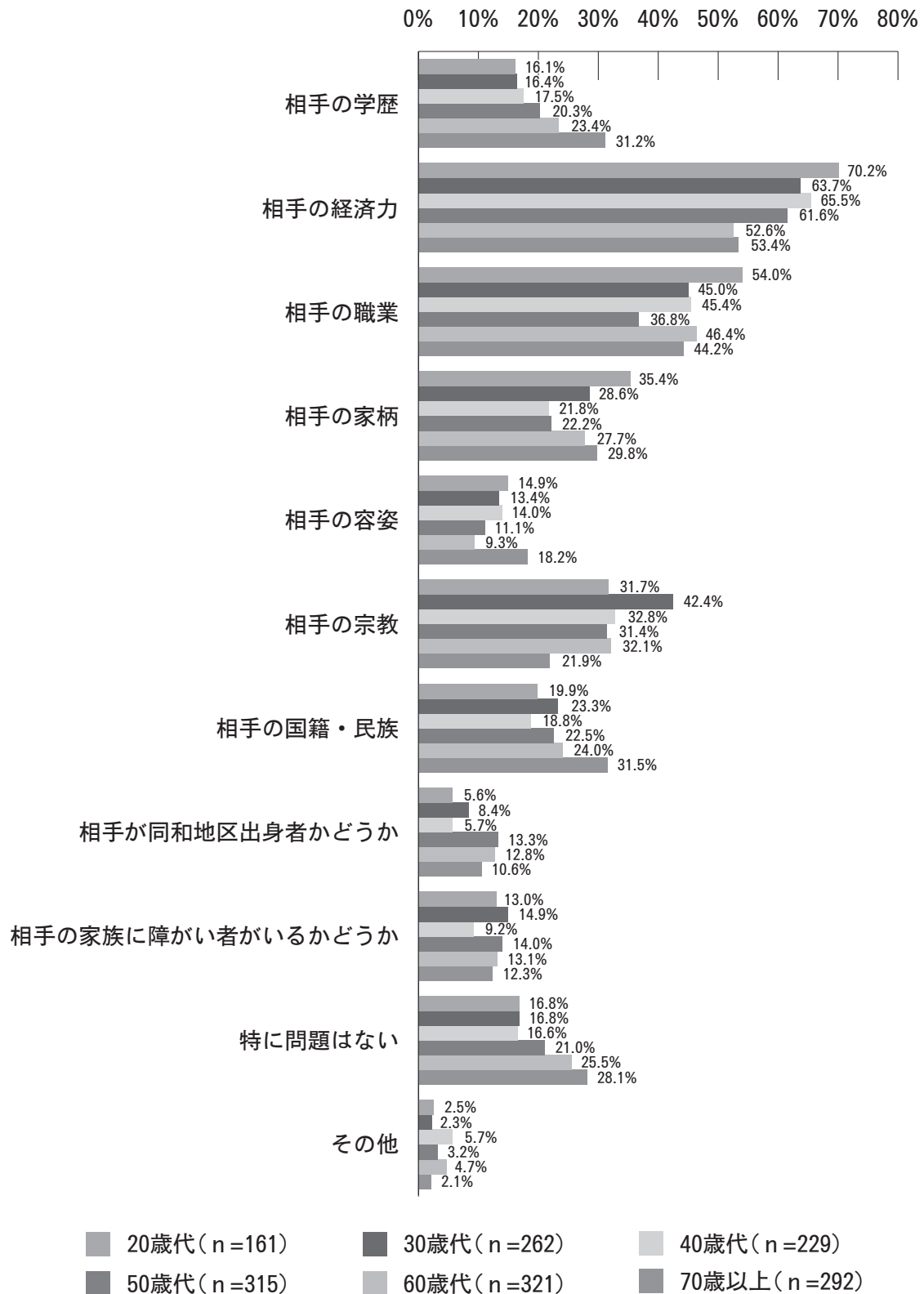
問12 自分の子どもの結婚相手を考える際、相手の人柄や性格以外で、気になること（気になったこと）をお答えください。（○はいくつでも）

※〈子どもがいない方は、子どもがいると仮定してお答えください。〉

表-42

		回答者数	相手の学歴	相手の経済力	相手の職業	相手の家柄	相手の容姿	相手の宗教	相手・手 民の 族国	か地相 ど区手 か出身同 か者 和	いるか ど か	障が い 者 が	相 手 の 家 族 に	は特 に な い 問 題	そ の 他
市全体		1,580 100.0%	339 21.5%	949 60.1%	703 44.5%	428 27.1%	209 13.2%	503 31.8%	376 23.8%	158 10.0%	203 12.8%	339 21.5%	54 3.4%		
性別	男性	648 100.0%	130 20.1%	293 45.2%	237 36.6%	139 21.5%	110 17.0%	200 30.9%	168 25.9%	69 10.6%	76 11.7%	181 27.9%	15 2.3%		
	女性	932 100.0%	209 22.4%	656 70.4%	466 50.0%	289 31.0%	99 10.6%	303 32.5%	208 22.3%	89 9.5%	127 13.6%	158 17.0%	39 4.2%		
年齢別	20歳代	161 100.0%	26 16.1%	113 70.2%	87 54.0%	57 35.4%	24 14.9%	51 31.7%	32 19.9%	9 5.6%	21 13.0%	27 16.8%	4 2.5%		
	30歳代	262 100.0%	43 16.4%	167 63.7%	118 45.0%	75 28.6%	35 13.4%	111 42.4%	61 23.3%	22 8.4%	39 14.9%	44 16.8%	6 2.3%		
	40歳代	229 100.0%	40 17.5%	150 65.5%	104 45.4%	50 21.8%	32 14.0%	75 32.8%	43 18.8%	13 5.7%	21 9.2%	38 16.6%	13 5.7%		
	50歳代	315 100.0%	64 20.3%	194 61.6%	116 36.8%	70 22.2%	35 11.1%	99 31.4%	71 22.5%	42 13.3%	44 14.0%	66 21.0%	10 3.2%		
	60歳代	321 100.0%	75 23.4%	169 52.6%	149 46.4%	89 27.7%	30 9.3%	103 32.1%	77 24.0%	41 12.8%	42 13.1%	82 25.5%	15 4.7%		
	70歳以上	292 100.0%	91 31.2%	156 53.4%	129 44.2%	87 29.8%	53 18.2%	64 21.9%	92 31.5%	31 10.6%	36 12.3%	82 28.1%	6 2.1%		





「特に問題はない」と答えた人は21.5%で、自分自身の結婚相手を考えるときより、子どもの結婚相手を考えるときの方が気がかりだと思える人が多いことがわかります。気になると答えた項目は、多い順に「経済力」「職業」「宗教」「家柄」「国籍・民族」「学歴」で20%を超える比率です。自分の結婚相手を考える場合と異なるのは「容姿」については余り気にとめないと答えたことだけで、他は自分の結婚相手を考えるときとほぼ同じ傾向を示しています。

性別で差違の大きかったのは「経済力」「職業」「家柄」で、どれも女性の方が気にする比率が高くなっています。

年齢別で特徴的なのは、20歳代の人が「相手の経済力」を気にする比率が高いこと、30歳代で「相手の宗教」を気にかける人の比率が高いことの2点です。

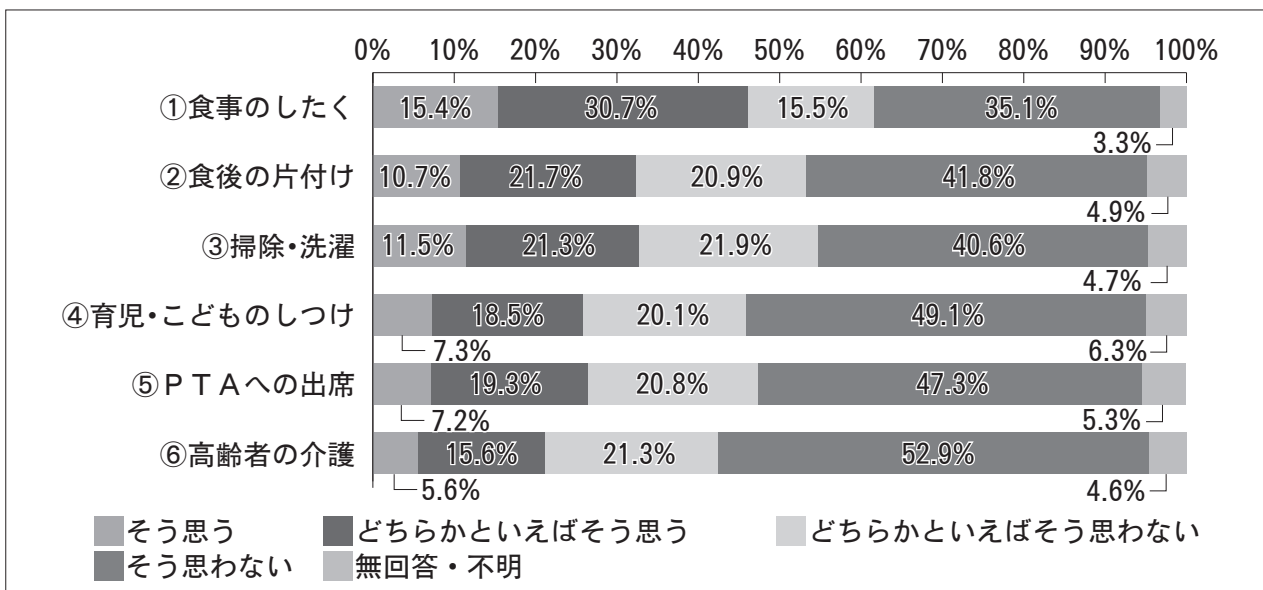
「相手が同和地区出身者かどうか」を気にすると答えた人は、20歳代と50歳代以上の年代との間に約2倍の意識差があります（20歳代<50歳代以上）。この質問に対する回答からも、40歳代以下では「相手が同和地区出身者かどうか」は気にしない人が増えていることがわかります。

5 家事・育児などの役割に関する人権意識

問9 あなたは、次の①～⑥について、「主に女性がすべきである」という考えについて、どう思いますか。(〇は1つだけ)

表-43

	回答者数	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらか といえばそう 思わない	そう思わ ない	無回答・ 不明
①食事のしたく	1,580 100.0%	244 15.4%	485 30.7%	245 15.5%	554 35.1%	52 3.3%
②食後の片付け	1,580 100.0%	169 10.7%	343 21.7%	330 20.9%	660 41.8%	78 4.9%
③掃除・洗濯	1,580 100.0%	182 11.5%	337 21.3%	346 21.9%	641 40.6%	74 4.7%
④育児・こどものしつけ	1,580 100.0%	116 7.3%	292 18.5%	318 20.1%	775 49.1%	79 5.0%
⑤PTAへの出席	1,580 100.0%	114 7.2%	305 19.3%	329 20.8%	748 47.3%	84 5.3%
⑥高齢者の介護	1,580 100.0%	88 5.6%	247 15.6%	337 21.3%	836 52.9%	72 4.6%



家事・育児などの役割をどう分担・協力するかは、男女共同参画社会の成熟にとって重要な課題です。

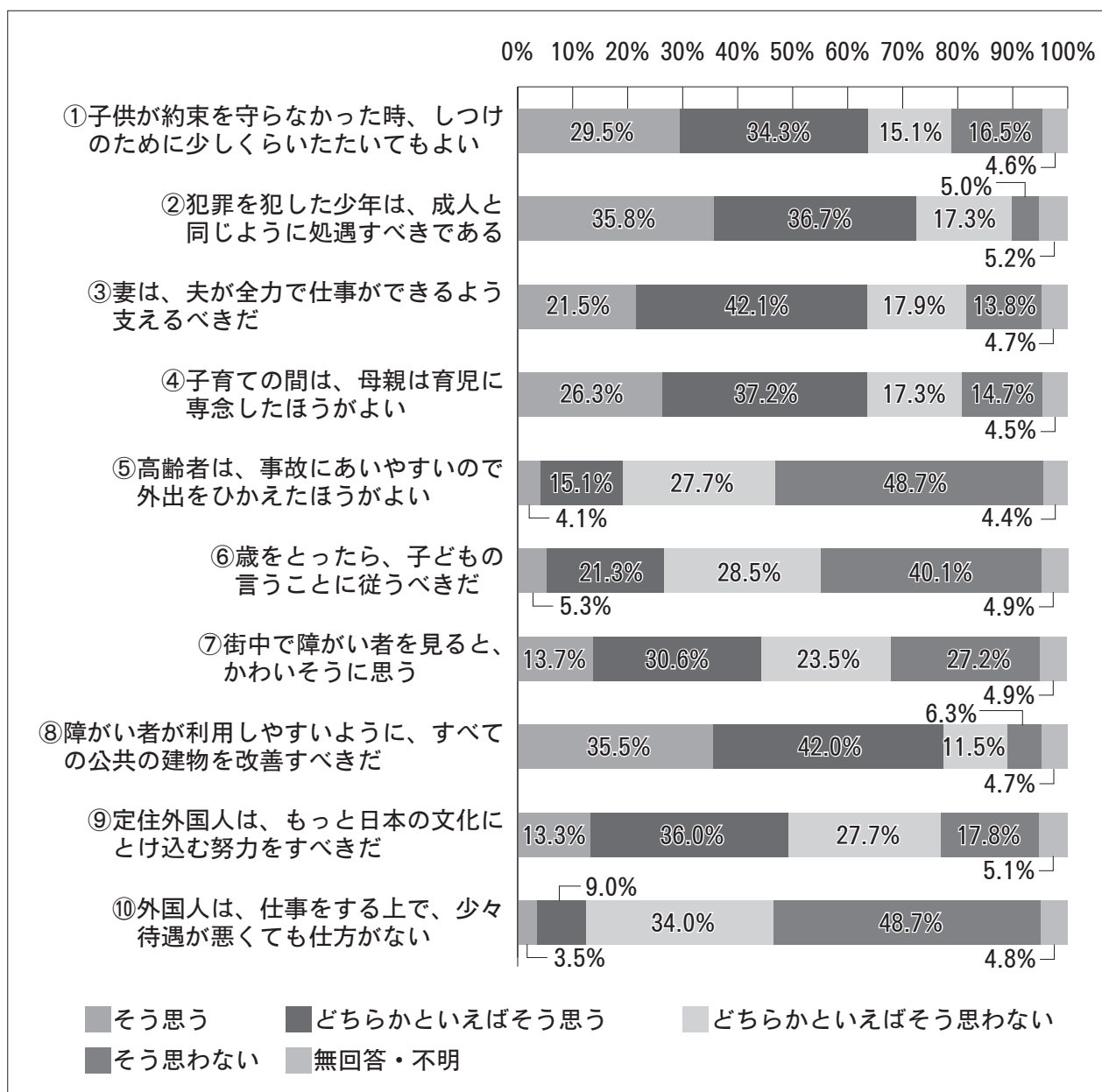
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が50%を超えた項目はなく、全体としては固定的な性別役割意識が低下していることがわかります。しかし、「食事のしたく」「掃除・洗濯」「食後の片付け」では30%以上の人、また「育児・子どものしつけ」「PTAへの出席」「高齢者の介護」も20%を超える人が主に女性がすべきと思っています。「そう思わない」と答えた人が最も多かったのは、「高齢者の介護」です。

6 日常生活場面における人権意識

問10 次の①～⑩の考え方や行為について、あなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)

表-44

	回答者数	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答・ 不明
①子供が約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよい	1,580 100.0%	466 29.5%	542 34.3%	238 15.1%	261 16.5%	73 4.6%
②犯罪を犯した少年は、成人と同じように処遇すべきである	1,580 100.0%	566 35.8%	580 36.7%	273 17.3%	79 5.0%	82 5.2%
③妻は、夫が全力で仕事ができるよう支えるべきだ	1,580 100.0%	340 21.5%	665 42.1%	283 17.9%	218 13.8%	74 4.7%
④子育ての間は、母親は育児に専念したほうがよい	1,580 100.0%	415 26.3%	588 37.2%	273 17.3%	233 14.7%	71 4.5%
⑤高齢者は、事故にあいやすいので外出をひかえたほうがよい	1,580 100.0%	65 4.1%	239 15.1%	438 27.7%	769 48.7%	69 4.4%
⑥歳をとったら、子どもの言うことに従うべきだ	1,580 100.0%	83 5.3%	337 21.3%	450 28.5%	633 40.1%	77 4.9%
⑦街中で障がい者を見ると、かわいそうに思う	1,580 100.0%	217 13.7%	484 30.6%	372 23.5%	429 27.2%	78 4.9%
⑧障がい者が利用しやすいように、すべての公共の建物を改造すべきだ	1,580 100.0%	561 35.5%	664 42.0%	181 11.5%	99 6.3%	75 4.7%
⑨定住外国人は、もっと日本の文化にとけ込む努力をすべきだ	1,580 100.0%	210 13.3%	569 36.0%	438 27.7%	282 17.8%	81 5.1%
⑩外国人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない	1,580 100.0%	56 3.5%	142 9.0%	537 34.0%	769 48.7%	76 4.8%



人権意識は特別な場合だけでなく日常のいろいろな場面でも問われます。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた数値が50%を超えた項目は、数値の高い順に、「障がい者が利用しやすいように、すべての公共の建物を改善すべきだ」「犯罪を犯した少年は、成人と同じように処遇すべきである」「子どもが約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよい」「妻は、夫が全力で仕事ができるよう支えるべきだ」「子育ての間は、母親は育児に専念したほうがよい」の5項目です。「定住外国人は、もっと日本の文化にとけ込む努力をすべきだ」が49.3%でそれらに続きます。

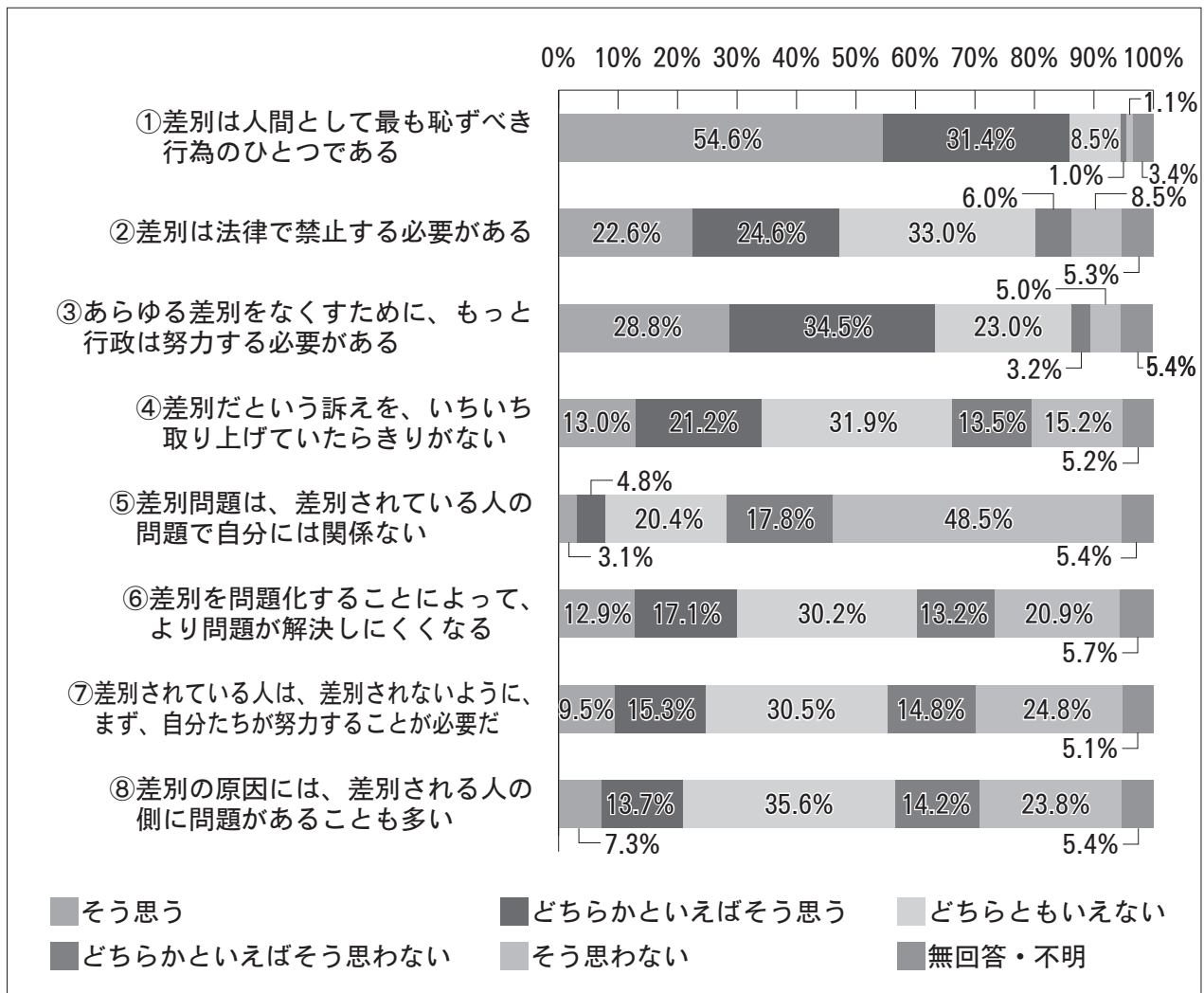
障がい者への配慮が必要だと認識しながらも、子どもや女性、外国籍の人たちに対する人権意識などに、相当程度の固定観念があることがわかります。

7 「差別」に関する受け止め方

問16 一般的に「差別」について、あなたはどのようなお考えをお持ちですか。次にあげる①～⑧のすべてについてお答えください。(○は1つだけ)

表-45

	回答者数	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答・ 不明
①差別は人間として最も恥ずべき行為のひとつである	1,580 100.0%	862 54.6%	496 31.4%	134 8.5%	16 1.0%	18 1.1%	54 3.4%
②差別は法律で禁止する必要がある	1,580 100.0%	357 22.6%	389 24.6%	521 33.0%	95 6.0%	135 8.5%	83 5.3%
③あらゆる差別をなくすために、もっと行政は努力する必要がある	1,580 100.0%	455 28.8%	545 34.5%	364 23.0%	51 3.2%	79 5.0%	86 5.4%
④差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない	1,580 100.0%	206 13.0%	335 21.2%	504 31.9%	213 13.5%	240 15.2%	82 5.2%
⑤差別問題は、差別されている人の問題で自分には関係ない	1,580 100.0%	49 3.1%	76 4.8%	323 20.4%	281 17.8%	766 48.5%	85 5.4%
⑥差別を問題化することによって、より問題が解決しにくくなる	1,580 100.0%	204 12.9%	270 17.1%	477 30.2%	208 13.2%	331 20.9%	90 5.7%
⑦差別されている人は、差別されないように、まず、自分たちが努力することが必要だ	1,580 100.0%	150 9.5%	241 15.3%	482 30.5%	234 14.8%	392 24.8%	81 5.1%
⑧差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い	1,580 100.0%	116 7.3%	216 13.7%	562 35.6%	224 14.2%	376 23.8%	86 5.4%



さきに見た固定観念は、時には差別意識として根付く場合があります。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた比率の合計をみると、86%の人が「差別は人間として最も恥ずべき行為のひとつである」と考えていることがわかります。「あらゆる差別をなくすために、もっと行政は努力する必要がある」という考えにも63.3%の人が賛意を表しています。また、「差別問題は、差別されている人の問題で自分には関係ない」という考えに「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた比率の合計は66.3%です。この3項目だけについていえば、市民の差別問題に関する意識は高いように思われます。しかし、大きな課題も残っていることが、他の項目の検討を通して気づくところです。

例えば、「差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりが無い」「差別を問題化することによって、より問題が解決しにくくなる」の2項目については30%以上の人が、また、「差別されている人は、差別されないように、まず、自分たちが努力することが必要だ」「差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い」の2項目でも20%を超える人がそう思うとする意見を持っていることがわかります。こうした意見に対して、そう思わないとする意見を持つ人はおよそ30~40%で、残りのおよそ30~35%の人は「どちらともいえない」という回答です。

第5節 同和問題に関する認識

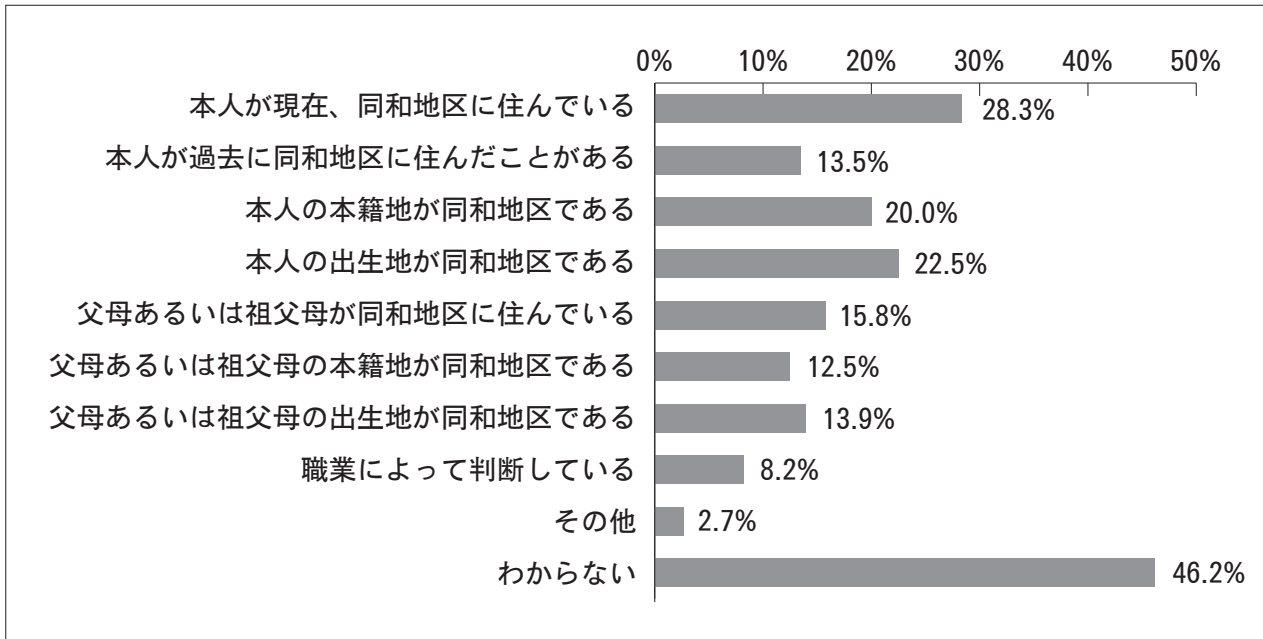
この節では、日本の歴史において差別の底流を作っていたともいえる同和問題に対する認識を問うことによって差別に関する社会意識を探ります。

1 同和地区出身者に関する認識

問18 あなたは、世間ではどのようなことで同和地区出身者と判断していると思いますか。
(○はいくつでも)

表—46

		回答者数	住同本人が現在、 ん和地区に	だ同本人が過去に 和地区に住ん	同本人の籍地が 和地区である	同本人の出生地が 和地区である	に父母があるいは 父母が同和地区 に住んでいる	同父母の籍地が 和地区である	同父母の出生地が 和地区である	判職業によって	そ の 他	わ か ら な い
市 全 体		1,580 100.0%	447 28.3%	213 13.5%	316 20.0%	356 22.5%	250 15.8%	198 12.5%	219 13.9%	129 8.2%	42 2.7%	730 46.2%
性 別	男 性	648 100.0%	185 28.5%	94 14.5%	136 21.0%	148 22.8%	105 16.2%	92 14.2%	105 16.2%	53 8.2%	21 3.2%	292 45.1%
	女 性	932 100.0%	262 28.1%	119 12.8%	180 19.3%	208 22.3%	145 15.6%	106 11.4%	114 12.2%	76 8.2%	21 2.3%	438 47.0%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	22 13.7%	14 8.7%	30 18.6%	29 18.0%	16 9.9%	13 8.1%	13 8.1%	3 1.9%	6 3.7%	101 62.7%
	30 歳 代	262 100.0%	81 30.9%	33 12.6%	61 23.3%	68 26.0%	48 18.3%	35 13.4%	36 13.7%	11 4.2%	3 1.1%	120 45.8%
	40 歳 代	229 100.0%	81 35.4%	41 17.9%	65 28.4%	82 35.8%	54 23.6%	49 21.4%	52 22.7%	18 7.9%	3 1.3%	85 37.1%
	50 歳 代	315 100.0%	117 37.1%	53 16.8%	66 21.0%	84 26.7%	62 19.7%	52 16.5%	61 19.4%	32 10.2%	9 2.9%	131 41.6%
	60 歳 代	321 100.0%	84 26.2%	43 13.4%	59 18.4%	56 17.4%	47 14.6%	29 9.0%	32 10.0%	34 10.6%	12 3.7%	146 45.5%
	70歳以上	292 100.0%	62 21.2%	29 9.9%	35 12.0%	37 12.7%	23 7.9%	20 6.8%	25 8.6%	31 10.6%	9 3.1%	147 50.3%



特徴的なのは、46.2%の人が「わからない」と答えていることです。

では、残りの人は、世間ではどのように判断していると思っているのでしょうか。全体としてわかるのは「本人の住所（現在及び過去）、本籍地、出生地が同和地区であること」「父母・祖父母などの住所、本籍地、出生地が同和地区であること」と答える人が大半です。「世間では」という接頭語の付いた質問ではありますが、そこには正しくない認識も含まれています。回答者の中には「職業によって判断している」という歴然とした誤認識をする人も8.2%います。

性別、年齢別の差異があるでしょうか。性別には大きな差はありません。年齢別には、20歳代に、「わからない」と答える人が多く、「その他」を含めると66.4%に達します。逆に40歳代では38.4%です。「職業によって判断する」と誤認識する数値は20歳代が1.9%と最も低く、60歳代以上では10%を超えます。

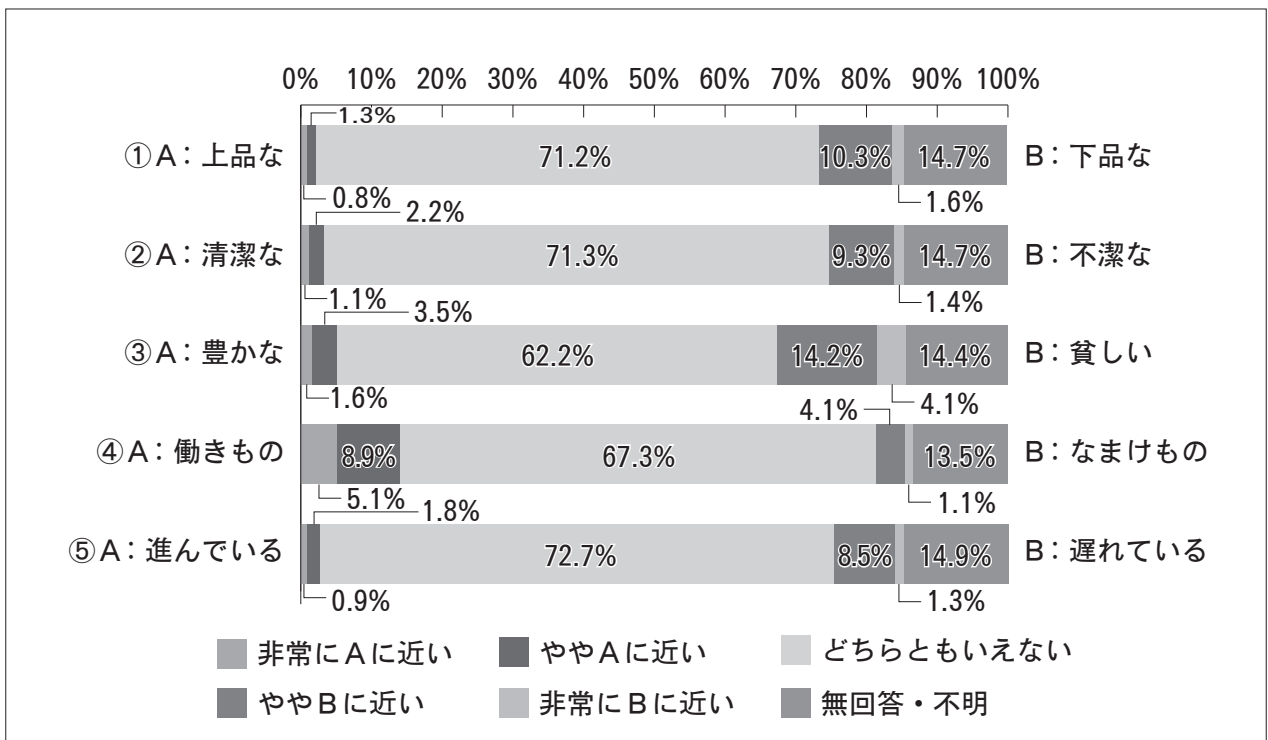
この問いに対する回答のもう一つの特徴は、一つの項目に収れんされないことです。これは同和地区出身者と判断する基準があいまいなことを示しています。しかしながら「わからない」「その他」「職業によって判断する」という質問項目を除くとすべて土地に関連していると見ることができます。ここに同和地区を忌避し土地差別が起こる要因があります。この問題を解決するには、同和問題に対してこれまで以上の総合的な教育、啓発が重要です。

2 同和地区出身者に対するイメージ

問19 あなたは、同和地区出身者について次のような言葉を聞いた時、どのような感じやイメージを持ちますか。次にあげる①～⑤のすべてについてお答えください。(○は1つだけ)

表-47

	回答者数	非常にAに近い	ややAに近い	どちらともいえない	ややBに近い	非常にBに近い	無回答・不明
①A：上品な B：下品な	1,580 100.0%	13 0.8%	21 1.3%	1125 71.2%	163 10.3%	25 1.6%	233 14.7%
②A：清潔な B：不潔な	1,580 100.0%	17 1.1%	34 2.2%	1127 71.3%	147 9.3%	22 1.4%	233 14.7%
③A：豊かな B：貧しい	1,580 100.0%	25 1.6%	55 3.5%	982 62.2%	225 14.2%	65 4.1%	228 14.4%
④A：働きもの B：なまけもの	1,580 100.0%	80 5.1%	140 8.9%	1063 67.3%	65 4.1%	18 1.1%	214 13.5%
⑤A：進んでいる B：遅れている	1,580 100.0%	14 0.9%	28 1.8%	1149 72.7%	134 8.5%	20 1.3%	235 14.9%



まず、「上品な・下品な」イメージについては、「どちらともいえない」回答が71.2%、「無回答・不明」が14.7%あり、合わせて85.9%の人が特定のイメージに傾くことはありません。「やや…」という表現も入れたイメージを抱く回答に絞ってみた場合、「上品な」イメージを抱く人が2.1%に対して「下品な」イメージを抱く人が11.9%と、9.8%上回るということがわかります。

次に、「清潔な・不潔な」イメージについては、86%の人は特定のイメージに傾くことはありませんが、イメージを抱く人に絞った場合は、「清潔な」イメージを抱く人が3.3%に対して、「不潔な」イメージを抱く人が10.7%で、ここでもマイナスイメージの方が高いことがわかります。

では、「豊かな・貧しい」イメージはどうでしょう。これも76.6%の人が特定イメージには傾倒しません。ただ、一定のイメージを抱く人に限定した場合、「豊かな」イメージが5.1%に対し、「貧しい」イメージが18.3%、イメージ差がかなり明確になります。この差が、雇用の機会や条件の向上を願う想いを込めたイメージか、同和地区は貧困地区だという固定観念によるイメージなのかは、この資料だけでは判断することができません。

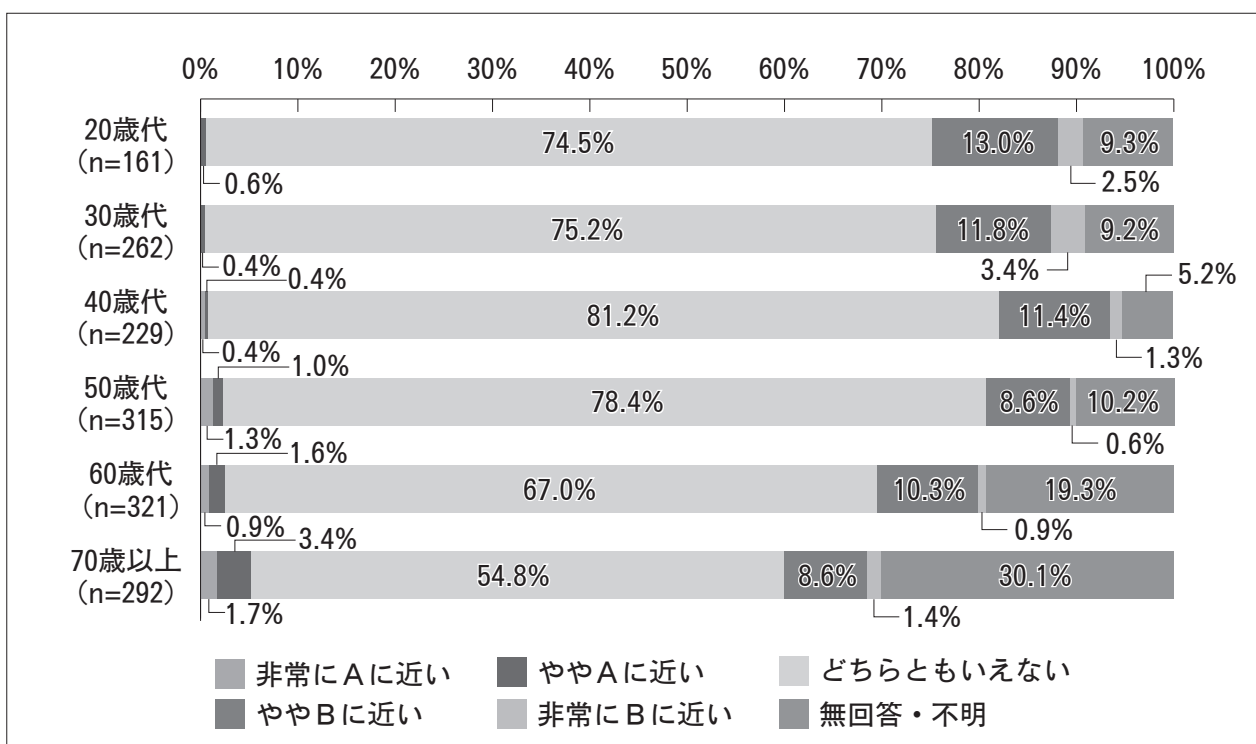
もう一つ、「働きもの・なまけもの」イメージについて見てみましょう。やはり80.8%の人が特定のイメージには傾倒していません。一定のイメージを抱く人に限定した場合、「働きもの」イメージが14%に対し、「なまけもの」イメージは5.2%に留まり、この問についてはプラスのイメージの方が大きくなります。

さて、同和地区の人に対するイメージについて市民全体の傾向を見てきました。では、こうしたイメージについては性別、年齢別に違いがあるでしょうか。

(1) A：上品な B：下品な

表—48

		回答者数	非常にAに近い	ややAに近い	どちらともいえない	ややBに近い	非常にBに近い	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	13 0.8%	21 1.3%	1125 71.2%	163 10.3%	25 1.6%	233 14.7%
性 別	男 性	648 100.0%	4 0.6%	11 1.7%	456 70.4%	72 11.1%	17 2.6%	88 13.6%
	女 性	932 100.0%	9 1.0%	10 1.1%	669 71.8%	91 9.8%	8 0.9%	145 15.6%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	0 0.0%	1 0.6%	120 74.5%	21 13.0%	4 2.5%	15 9.3%
	30 歳 代	262 100.0%	0 0.0%	1 0.4%	197 75.2%	31 11.8%	9 3.4%	24 9.2%
	40 歳 代	229 100.0%	1 0.4%	1 0.4%	186 81.2%	26 11.4%	3 1.3%	12 5.2%
	50 歳 代	315 100.0%	4 1.3%	3 1.0%	247 78.4%	27 8.6%	2 0.6%	32 10.2%
	60 歳 代	321 100.0%	3 0.9%	5 1.6%	215 67.0%	33 10.3%	3 0.9%	62 19.3%
	70歳以上	292 100.0%	5 1.7%	10 3.4%	160 54.8%	25 8.6%	4 1.4%	88 30.1%

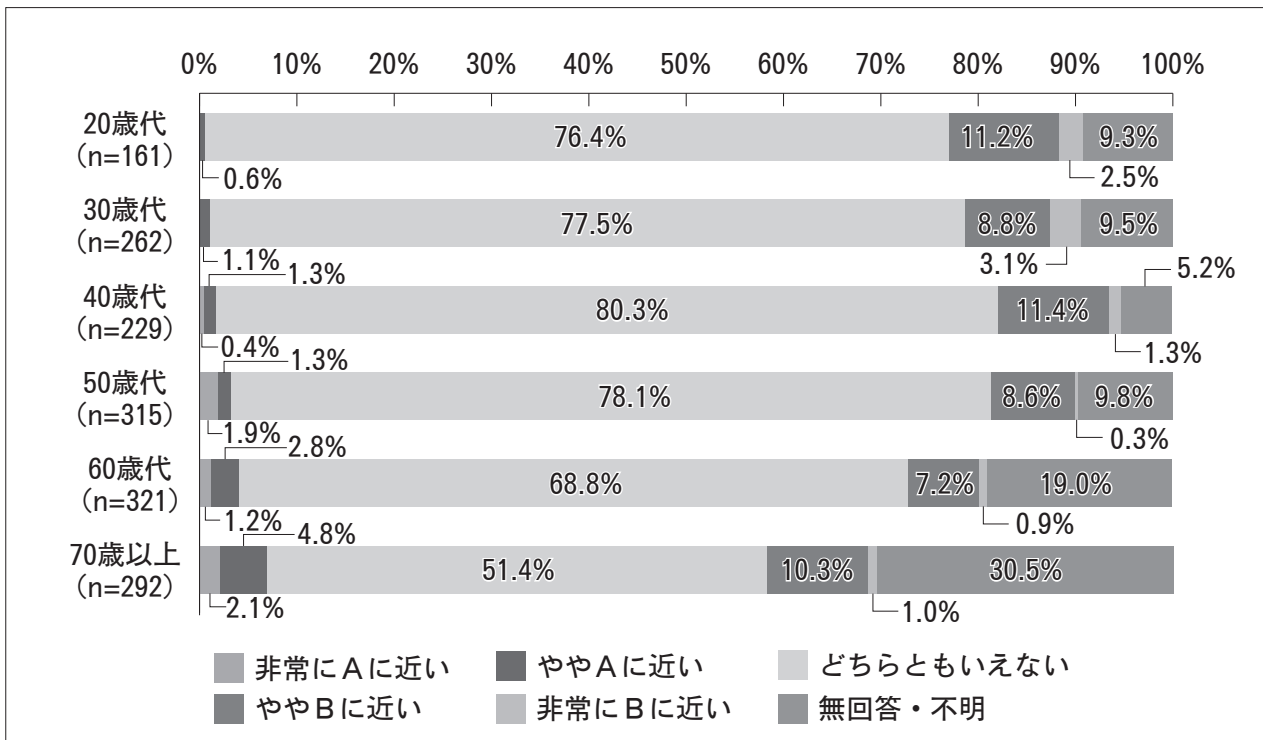


「上品な・下品な」イメージについて、性別には大きな違いがありませんが、年齢別には違いがあります。まず、年齢が60歳代以上で「無回答・不明」が増加します。これに「どちらともいえない」を加えると、どの年齢も約85%は特定イメージを持たないことがわかります。ではイメージを持つ場合はどうかを見ると、年代の高い方に「上品な」イメージが、若い年代に「下品な」イメージが若干ながら多くなることに気づきます。

(2) A：清潔な B：不潔な

表-49

		回答者数	非常にAに近い	ややAに近い	どちらともいえない	ややBに近い	非常にBに近い	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	17 1.1%	34 2.2%	1,127 71.3%	147 9.3%	22 1.4%	233 14.7%
性 別	男 性	648 100.0%	5 0.8%	20 3.1%	460 71.0%	61 9.4%	13 2.0%	89 13.7%
	女 性	932 100.0%	12 1.3%	14 1.5%	667 71.6%	86 9.2%	9 1.0%	144 15.5%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	0 0.0%	1 0.6%	123 76.4%	18 11.2%	4 2.5%	15 9.3%
	30 歳 代	262 100.0%	0 0.0%	3 1.1%	203 77.5%	23 8.8%	8 3.1%	25 9.5%
	40 歳 代	229 100.0%	1 0.4%	3 1.3%	184 80.3%	26 11.4%	3 1.3%	12 5.2%
	50 歳 代	315 100.0%	6 1.9%	4 1.3%	246 78.1%	27 8.6%	1 0.3%	31 9.8%
	60 歳 代	321 100.0%	4 1.2%	9 2.8%	221 68.8%	23 7.2%	3 0.9%	61 19.0%
	70歳以上	292 100.0%	6 2.1%	14 4.8%	150 51.4%	30 10.3%	3 1.0%	89 30.5%

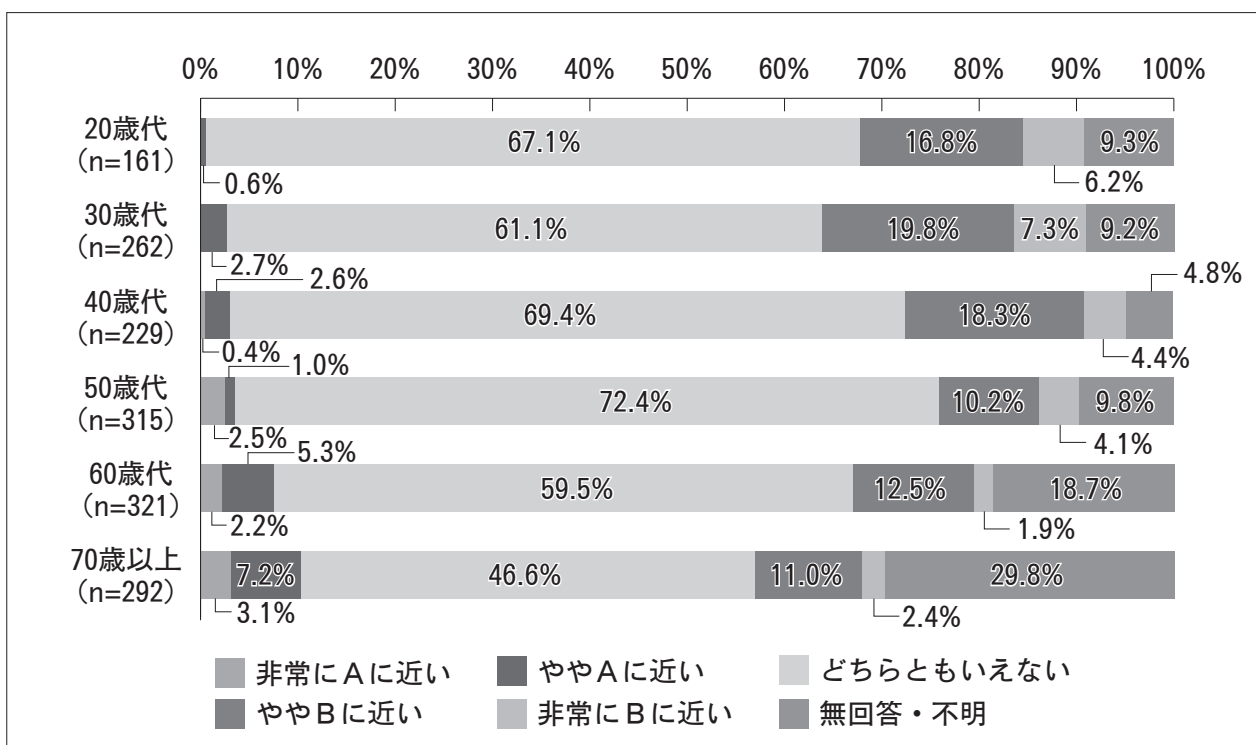


「清潔な・不潔な」イメージはどうでしょう。これも性別ではイメージ差がほとんどありません。年齢別には「上品な・下品な」イメージの場合に似ていますが、違うのは、50歳代～60歳代において「不潔な」イメージを持つ人の比率が低い点です。

(3) A：豊かな B：貧しい

表—50

		回答者数	非常にAに近い	ややAに近い	どちらともいえない	ややBに近い	非常にBに近い	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	25 1.6%	55 3.5%	982 62.2%	225 14.2%	65 4.1%	228 14.4%
性 別	男 性	648 100.0%	8 1.2%	32 4.9%	399 61.6%	96 14.8%	27 4.2%	86 13.3%
	女 性	932 100.0%	17 1.8%	23 2.5%	583 62.6%	129 13.8%	38 4.1%	142 15.2%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	0 0.0%	1 0.6%	108 67.1%	27 16.8%	10 6.2%	15 9.3%
	30 歳 代	262 100.0%	0 0.0%	7 2.7%	160 61.1%	52 19.8%	19 7.3%	24 9.2%
	40 歳 代	229 100.0%	1 0.4%	6 2.6%	159 69.4%	42 18.3%	10 4.4%	11 4.8%
	50 歳 代	315 100.0%	8 2.5%	3 1.0%	228 72.4%	32 10.2%	13 4.1%	31 9.8%
	60 歳 代	321 100.0%	7 2.2%	17 5.3%	191 59.5%	40 12.5%	6 1.9%	60 18.7%
	70歳以上	292 100.0%	9 3.1%	21 7.2%	136 46.6%	32 11.0%	7 2.4%	87 29.8%

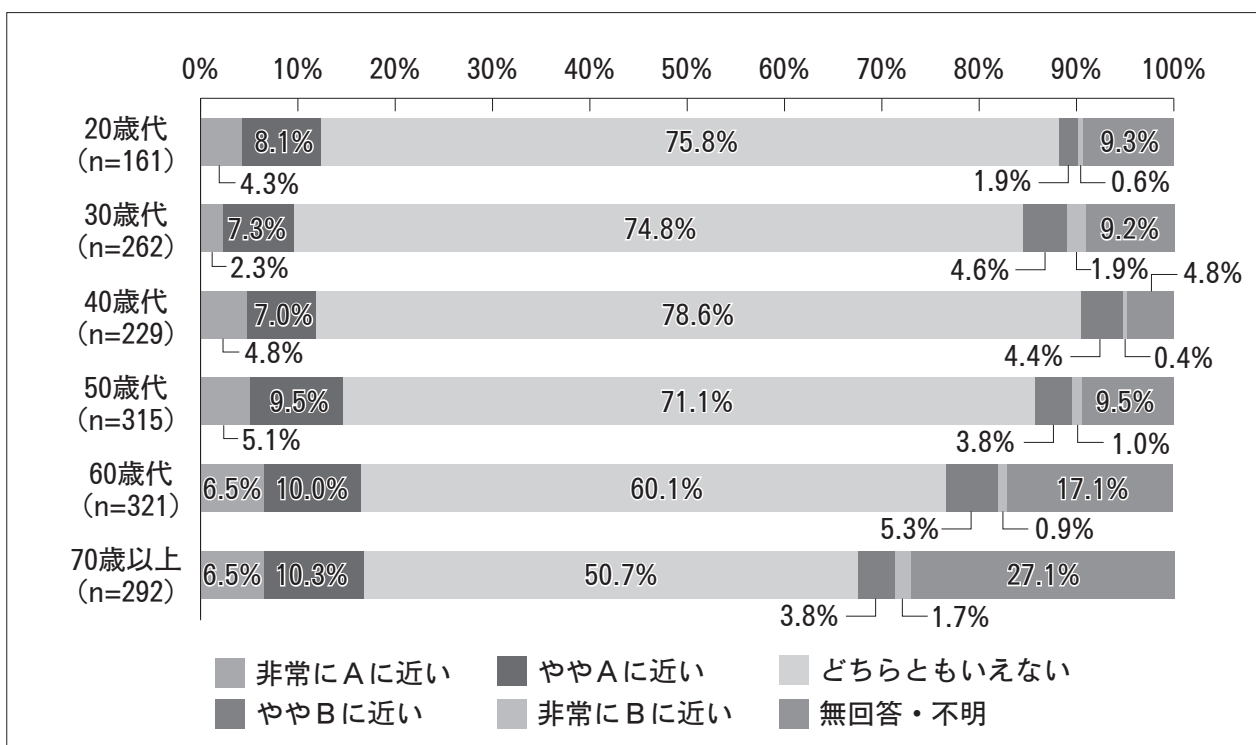


では、「豊かな・貧しい」イメージについてはどうでしょう。性別ではほとんど違いが見られません。年齢別に見ると、「豊かな」イメージは年代が高くなるにつれて増加し、「貧しい」イメージは逆に若い年代ほど強く持つ傾向があります。

(4) A：働きもの B：なまけもの

表—51

		回答者数	非常にAに近い	ややAに近い	どちらともいえない	ややBに近い	非常にBに近い	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	80 5.1%	140 8.9%	1,063 67.3%	65 4.1%	18 1.1%	214 13.5%
性 別	男 性	648 100.0%	25 3.9%	62 9.6%	429 66.2%	34 5.2%	12 1.9%	86 13.3%
	女 性	932 100.0%	55 5.9%	78 8.4%	634 68.0%	31 3.3%	6 0.6%	128 13.7%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	7 4.3%	13 8.1%	122 75.8%	3 1.9%	1 0.6%	15 9.3%
	30 歳 代	262 100.0%	6 2.3%	19 7.3%	196 74.8%	12 4.6%	5 1.9%	24 9.2%
	40 歳 代	229 100.0%	11 4.8%	16 7.0%	180 78.6%	10 4.4%	1 0.4%	11 4.8%
	50 歳 代	315 100.0%	16 5.1%	30 9.5%	224 71.1%	12 3.8%	3 1.0%	30 9.5%
	60 歳 代	321 100.0%	21 6.5%	32 10.0%	193 60.1%	17 5.3%	3 0.9%	55 17.1%
	70歳以上	292 100.0%	19 6.5%	30 10.3%	148 50.7%	11 3.8%	5 1.7%	79 27.1%



「働きもの・なまけもの」イメージはどうでしょう。この問については、性別、年齢別に共に大きな差はありません。ただ、年齢別に見た場合、僅かながら、年代が高くなるにつれて「働きもの」イメージを抱く人が微増することがわかります。

問20 あなたは、「同和地区出身者はこわい」というような話を聞いたことがありますか。

1. ある

2. ない→→→問21へ



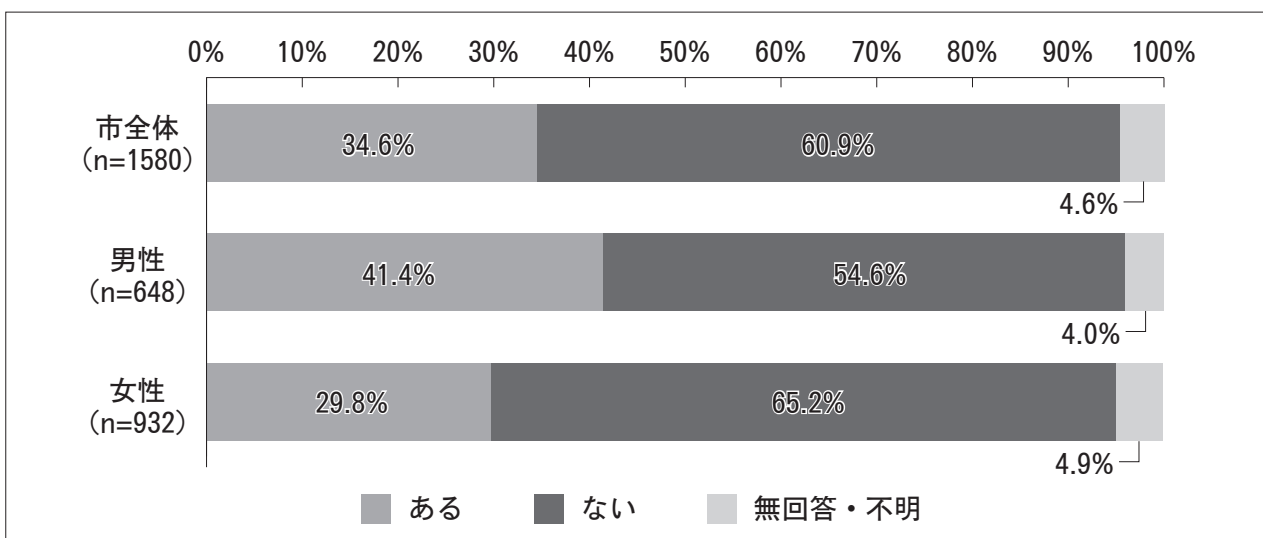
(付問)

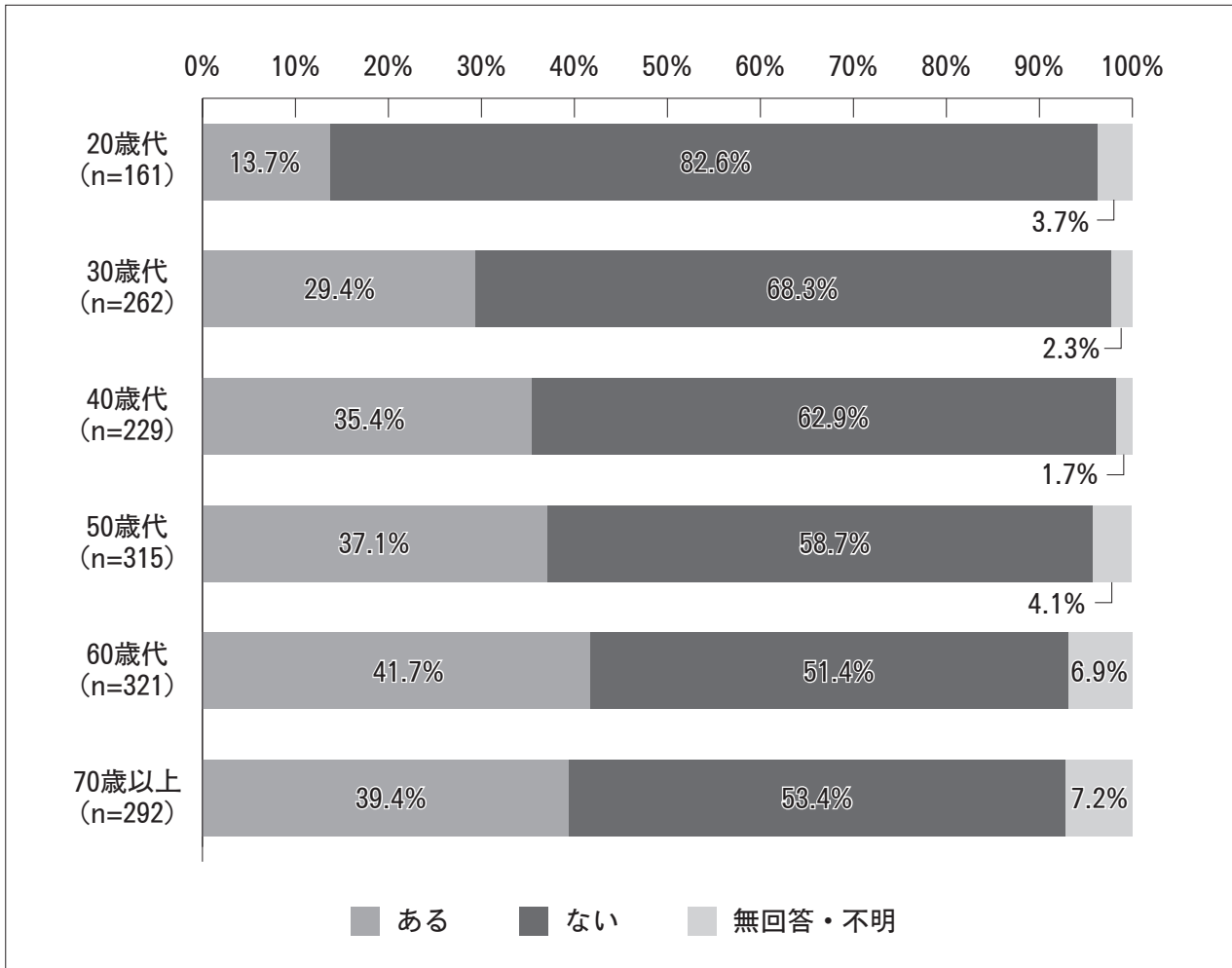
(1) それは誰からですか。(○は1つだけ)

(2) その話を聞いた時、どう感じましたか。(○は1つだけ)

表—52

		回答者数	あ る	な い	無回答・不明
市 全 体		1,580 100.0%	546 34.6%	962 60.9%	72 4.6%
性 別	男 性	648 100.0%	268 41.4%	354 54.6%	26 4.0%
	女 性	932 100.0%	278 29.8%	608 65.2%	46 4.9%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	22 13.7%	133 82.6%	6 3.7%
	30 歳 代	262 100.0%	77 29.4%	179 68.3%	6 2.3%
	40 歳 代	229 100.0%	81 35.4%	144 62.9%	4 1.7%
	50 歳 代	315 100.0%	117 37.1%	185 58.7%	13 4.1%
	60 歳 代	321 100.0%	134 41.7%	165 51.4%	22 6.9%
	70歳以上	292 100.0%	115 39.4%	156 53.4%	21 7.2%





「同和地区出身者はこわい」というような話を聞いたことがある人は34.6%いることがわかります。性別では男性の方が多くことがわかります。年齢別では、60歳代で41.7%、20歳代で13.7%となり、若い年代では聞いたことがない人の方が多くなっています。

問20 1. ある

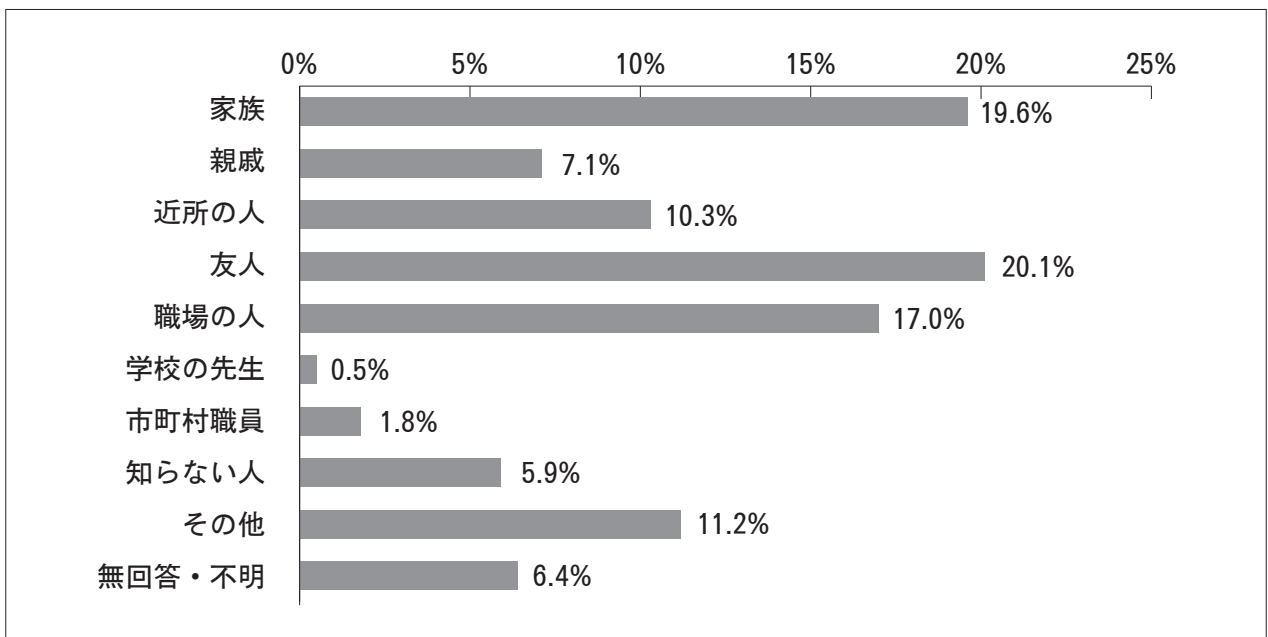


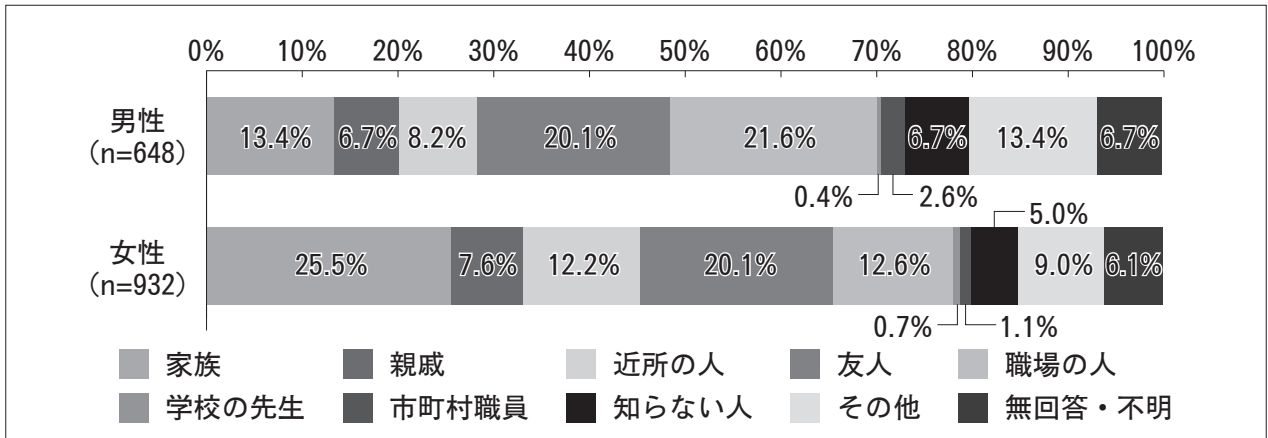
(付問)

(1) それは誰からですか。(○は1つだけ)

表-53

		回答者数	家族	親戚	近所の人	友人	職場の人	学校の先生	市町村職員	知らない人	その他	無回答・不明
市全体		546 100.0%	107 19.6%	39 7.1%	56 10.3%	110 20.1%	93 17.0%	3 0.5%	10 1.8%	32 5.9%	61 11.2%	35 6.4%
性別	男性	268 100.0%	36 13.4%	18 6.7%	22 8.2%	54 20.1%	58 21.6%	1 0.4%	7 2.6%	18 6.7%	36 13.4%	18 6.7%
	女性	278 100.0%	71 25.5%	21 7.6%	34 12.2%	56 20.1%	35 12.6%	2 0.7%	3 1.1%	14 5.0%	25 9.0%	17 6.1%
年齢別	20歳代	22 100.0%	7 31.8%	1 4.5%	1 4.5%	3 13.6%	1 4.5%	2 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	5 22.7%	2 9.1%
	30歳代	77 100.0%	22 28.6%	6 7.8%	4 5.2%	13 16.9%	11 14.3%	0 0.0%	2 2.6%	5 6.5%	6 7.8%	8 10.4%
	40歳代	81 100.0%	14 17.3%	7 8.6%	4 4.9%	20 24.7%	16 19.8%	0 0.0%	1 1.2%	5 6.2%	10 12.3%	4 4.9%
	50歳代	117 100.0%	27 23.1%	7 6.0%	14 12.0%	24 20.5%	13 11.1%	0 0.0%	2 1.7%	9 7.7%	15 12.8%	6 5.1%
	60歳代	134 100.0%	21 15.7%	8 6.0%	18 13.4%	26 19.4%	26 19.4%	1 0.7%	4 3.0%	7 5.2%	13 9.7%	10 7.5%
	70歳以上	115 100.0%	16 13.9%	10 8.7%	15 13.0%	24 20.9%	26 22.6%	0 0.0%	1 0.9%	6 5.2%	12 10.4%	5 4.3%





「友人」「家族」「職場の人」「近所の人」の順に多くそれぞれ10%を超えています。性別では、男性は「職場の人」から、女性は「家族」から聞いたと答えた人の比率が高いことがわかります。

問20 1. ある

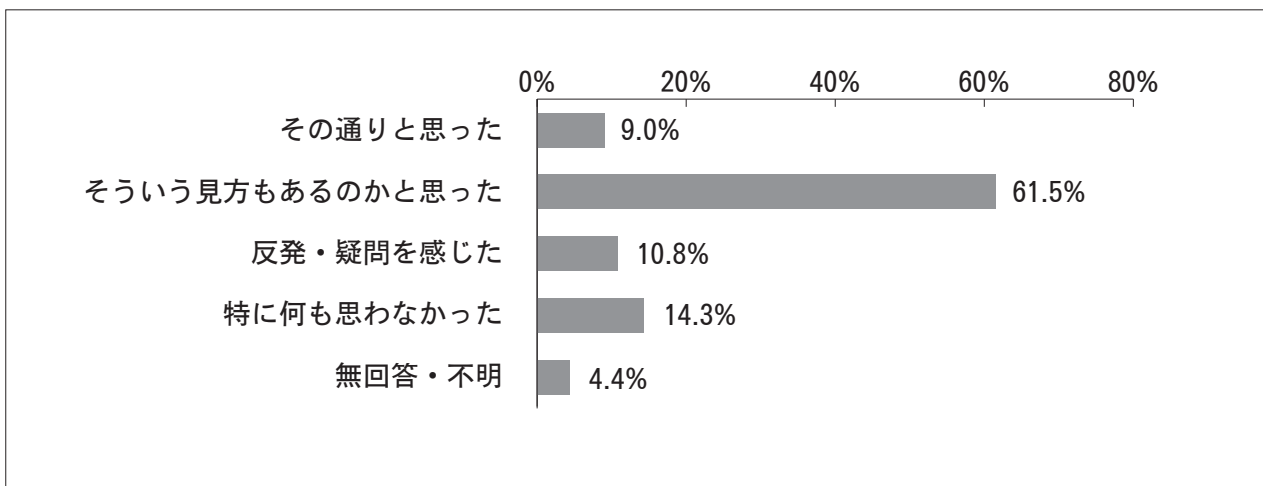


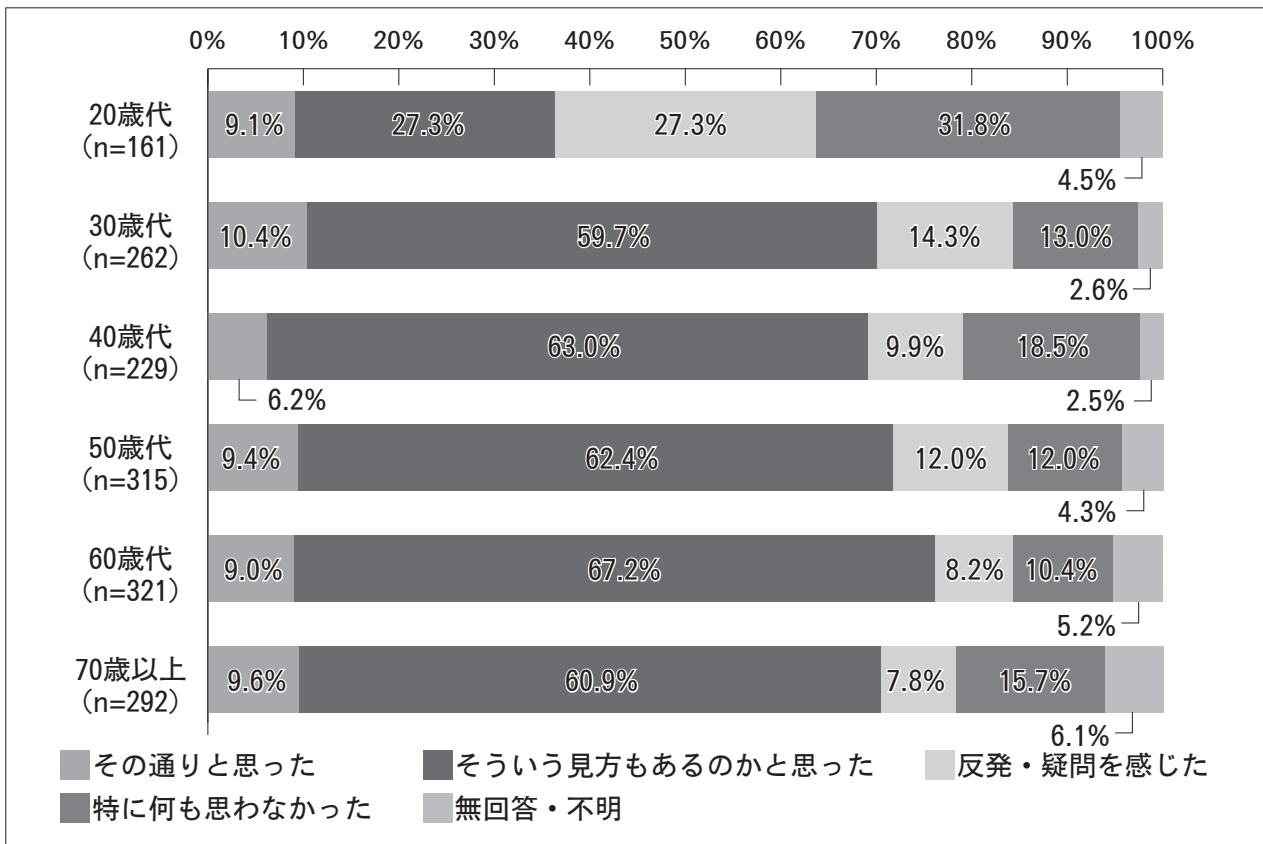
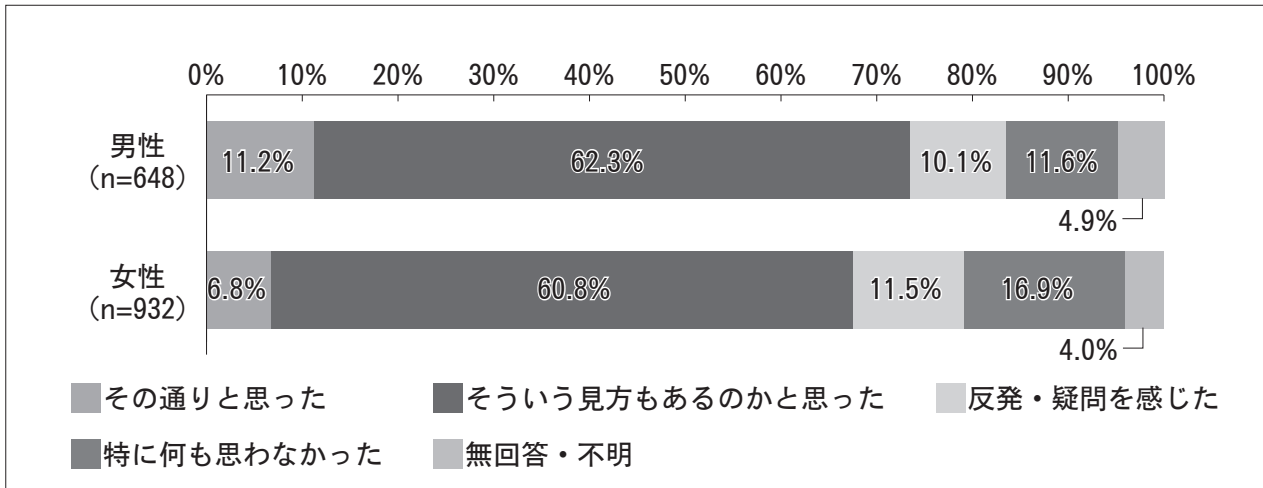
(付問)

(2) その話を聞いた時、どう感じましたか。(○は1つだけ)

表-54

		回答者数	その通りと 思った	そういう見 方もあるの かと思った	反発・疑問 を感じた	特に何も思 わなかった	無回答・ 不明
市 全 体		546 100.0%	49 9.0%	336 61.5%	59 10.8%	78 14.3%	24 4.4%
性 別	男 性	268 100.0%	30 11.2%	167 62.3%	27 10.1%	31 11.6%	13 4.9%
	女 性	278 100.0%	19 6.8%	169 60.8%	32 11.5%	47 16.9%	11 4.0%
年 齢 別	20 歳 代	22 100.0%	2 9.1%	6 27.3%	6 27.3%	7 31.8%	1 4.5%
	30 歳 代	77 100.0%	8 10.4%	46 59.7%	11 14.3%	10 13.0%	2 2.6%
	40 歳 代	81 100.0%	5 6.2%	51 63.0%	8 9.9%	15 18.5%	2 2.5%
	50 歳 代	117 100.0%	11 9.4%	73 62.4%	14 12.0%	14 12.0%	5 4.3%
	60 歳 代	134 100.0%	12 9.0%	90 67.2%	11 8.2%	14 10.4%	7 5.2%
	70歳以上	115 100.0%	11 9.6%	70 60.9%	9 7.8%	18 15.7%	7 6.1%





「その通りと思った」と答えた人は性別・年齢別に関係なく少ない比率で、全体で9%です。また「反発・疑問を感じた」人も全体で10.8%と、少ない比率です。しかし、「反発・疑問を感じた」と答えた人は、性別には差がありませんが、年齢別には大きな差があります。「反発・疑問を感じた」と答えた人の比率は高い順に20歳代、30歳代、50歳代、40歳代、60歳代、70歳以上になります。20歳代で27.3%、70歳以上では7.8%です。20歳代が70歳以上の人よりも3.5倍も反発・疑問を感じていることになります。30歳代以上になると「そういう見方もあるのかと思った」と受け止める人が多くなります。

人権問題は、関心を持ち差別をなくそうとする立場に立たない限り解決には向かいません。したがって、同和地区出身者に対する根拠のない差別発言に対して同調したり、見てみぬふりをしている限り同和問題は解決しないのです。

問21 あなたは、「同和問題には関わらないほうがよい」というような話を聞いたことがありますか。

1. ある

2. ない→→→問22へ



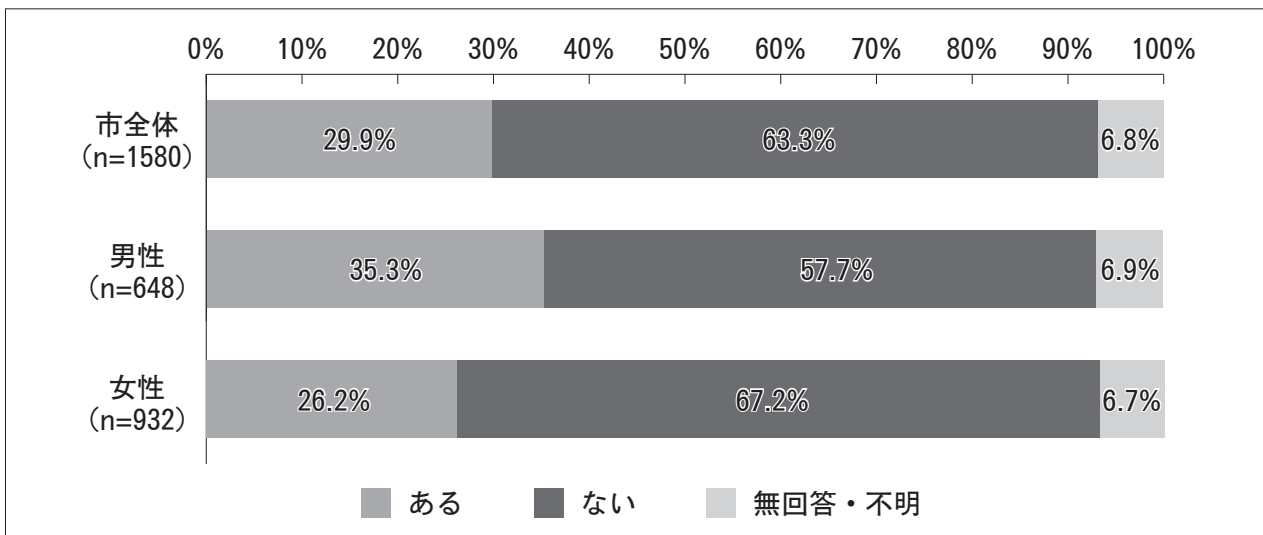
(付問)

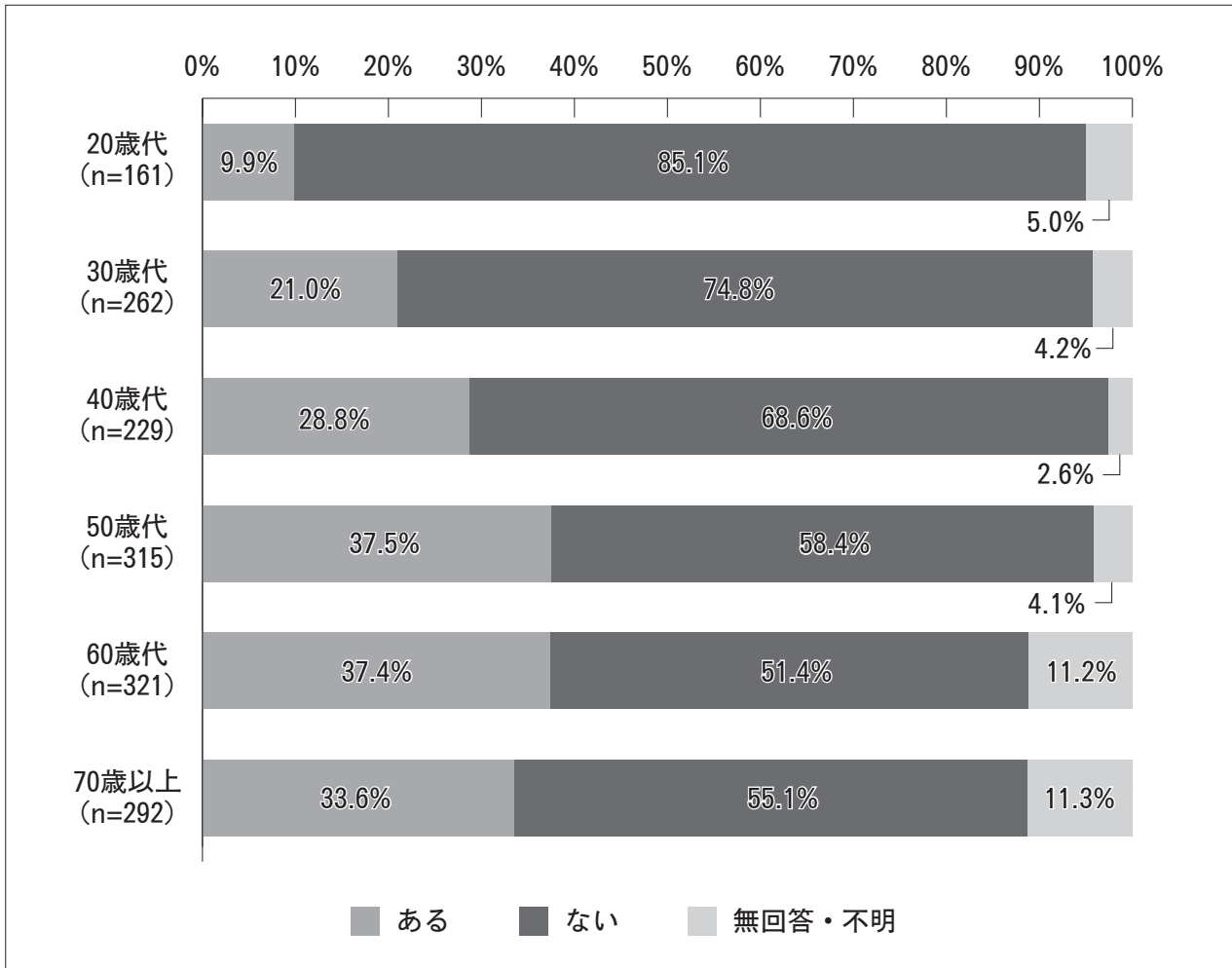
(1) それは誰からですか。(○は1つだけ)

(2) その話を聞いた時、どう感じましたか。(○は1つだけ)

表—55

		回答者数	あ	る	な	い	無回答・不明
市	全	1,580	473	1000	107		
		100.0%	29.9%	63.3%	6.8%		
性	男	648	229	374	45		
	性	100.0%	35.3%	57.7%	6.9%		
別	女	932	244	626	62		
	性	100.0%	26.2%	67.2%	6.7%		
年	20	161	16	137	8		
	歳	100.0%	9.9%	85.1%	5.0%		
	代	262	55	196	11		
	30	100.0%	21.0%	74.8%	4.2%		
	歳	229	66	157	6		
	代	100.0%	28.8%	68.6%	2.6%		
別	50	315	118	184	13		
	歳	100.0%	37.5%	58.4%	4.1%		
	代	321	120	165	36		
	60	100.0%	37.4%	51.4%	11.2%		
歳	292	98	161	33			
代	100.0%	33.6%	55.1%	11.3%			
70							
歳							
以上							





「同和地区出身者はこわい」というような話を聞いた比率より少し下がりますが、29.9%が「ある」と答えています。両方とも聞いたことがあるという人も存在すると思えますが、かなりの人が同和地区出身者に対して根拠のないマイナスイメージの話を聞いていることがうかがえる数字といえます。したがって、同和問題を解決するためには、このような人に対して正確な知識を伝えていくことが必要です。

問21 1. ある

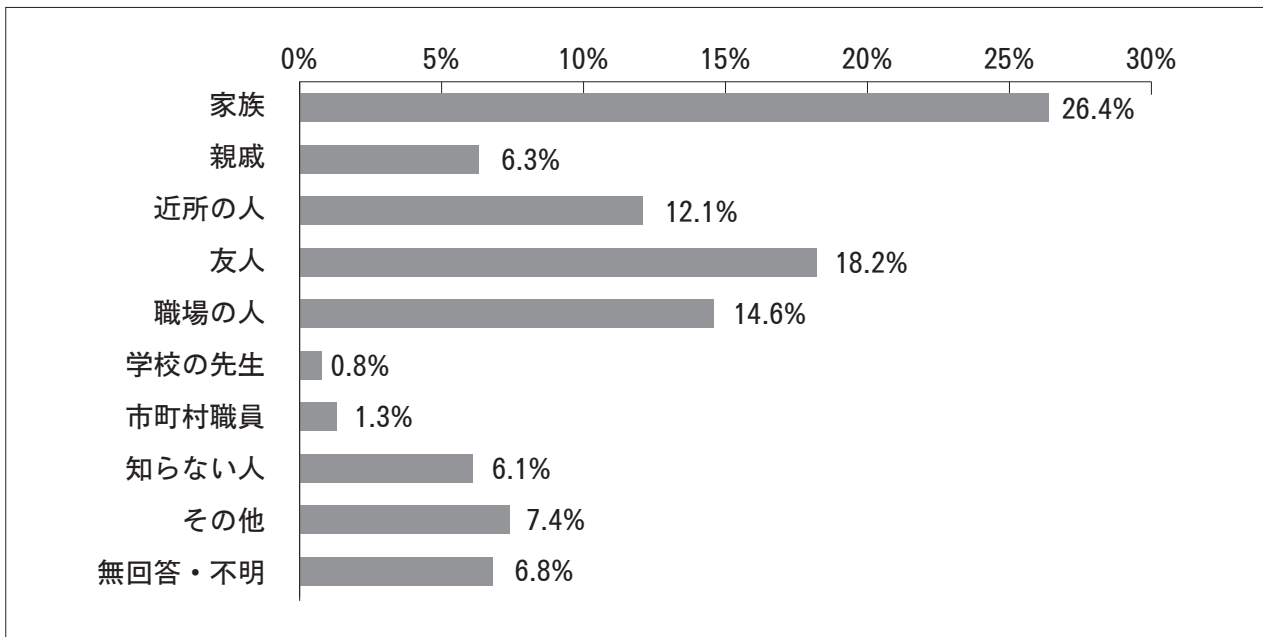


(付問)

(1) それは誰からですか。(○は1つだけ)

表-56

		回答者数	家族	親戚	近所の人	友人	職場の人	学校の先生	市町村職員	知らない人	その他	無回答・不明
市	全体	473	125	30	57	86	69	4	6	29	35	32
		100.0%	26.4%	6.3%	12.1%	18.2%	14.6%	0.8%	1.3%	6.1%	7.4%	6.8%
性別	男性	229	45	15	18	46	43	2	3	18	21	18
		100.0%	19.7%	6.6%	7.9%	20.1%	18.8%	0.9%	1.3%	7.9%	9.2%	7.9%
性別	女性	244	80	15	39	40	26	2	3	11	14	14
		100.0%	32.8%	6.1%	16.0%	16.4%	10.7%	0.8%	1.2%	4.5%	5.7%	5.7%
年齢別	20歳代	16	5	0	1	3	1	2	0	0	2	2
		100.0%	31.3%	0.0%	6.3%	18.8%	6.3%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%
	30歳代	55	22	5	3	9	2	0	2	2	5	5
		100.0%	40.0%	9.1%	5.5%	16.4%	3.6%	0.0%	3.6%	3.6%	9.1%	9.1%
	40歳代	66	21	6	2	12	13	0	0	6	2	4
		100.0%	31.8%	9.1%	3.0%	18.2%	19.7%	0.0%	0.0%	9.1%	3.0%	6.1%
年齢別	50歳代	118	37	8	18	17	15	1	1	8	6	7
		100.0%	31.4%	6.8%	15.3%	14.4%	12.7%	0.8%	0.8%	6.8%	5.1%	5.9%
	60歳代	120	22	8	18	28	17	1	3	4	13	6
	100.0%	18.3%	6.7%	15.0%	23.3%	14.2%	0.8%	2.5%	3.3%	10.8%	5.0%	
年齢別	70歳以上	98	18	3	15	17	21	0	0	9	7	8
	100.0%	18.4%	3.1%	15.3%	17.3%	21.4%	0.0%	0.0%	9.2%	7.1%	8.2%	



「同和地区出身者はこわい」というような話を聞いたときの回答とほぼ類似の傾向が表われています。

問21 1. ある

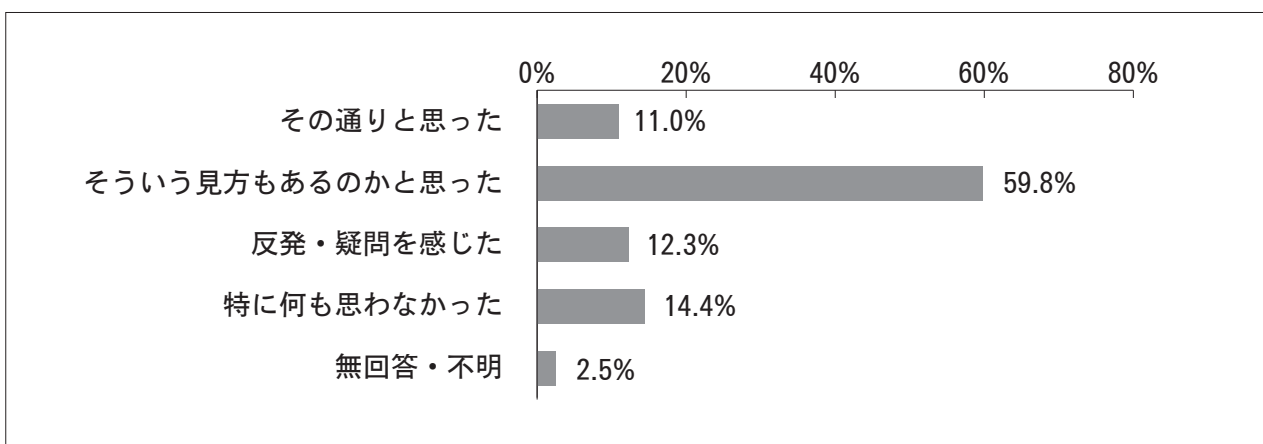


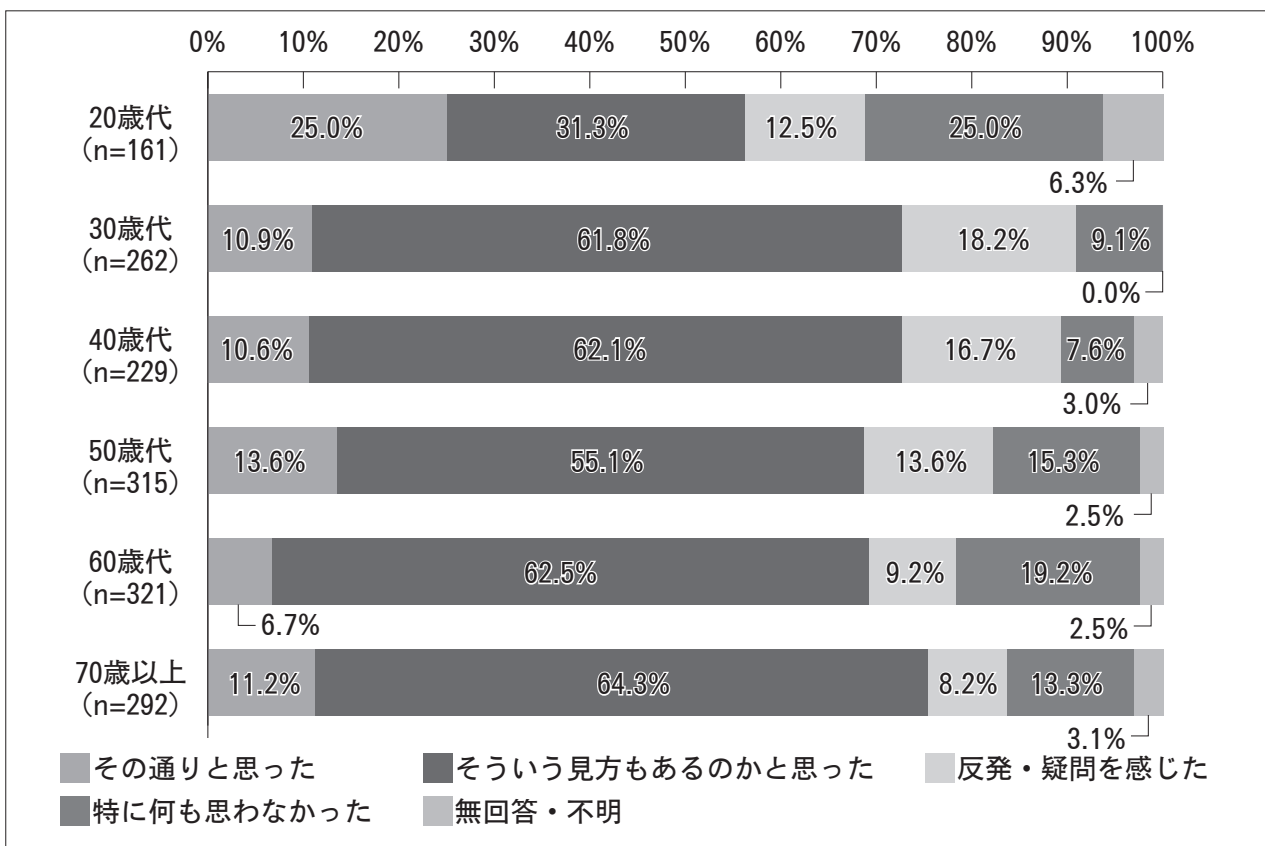
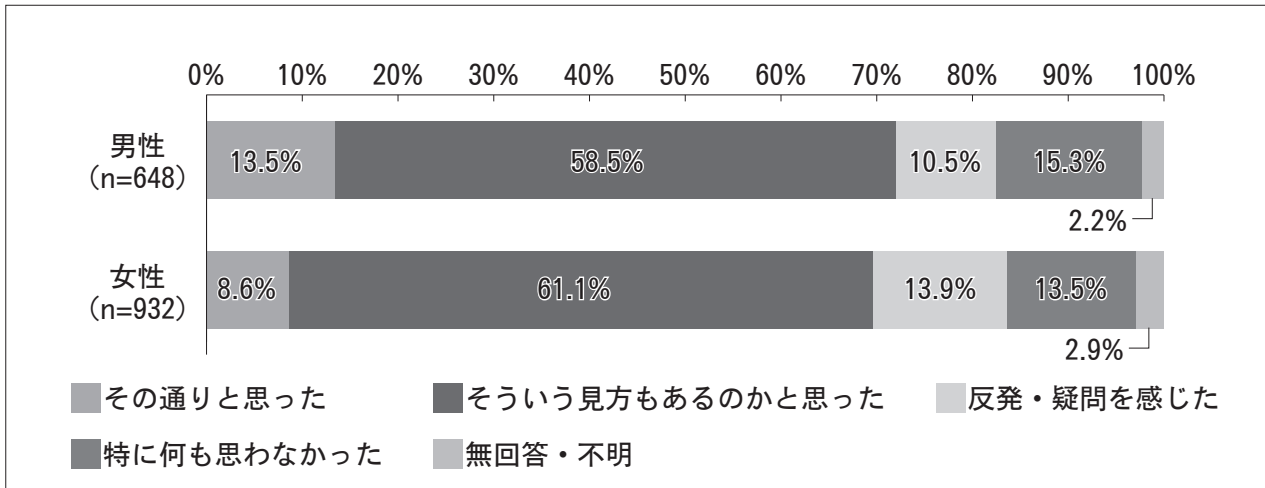
(付問)

(2) その話を聞いた時、どう感じましたか。(○は1つだけ)

表-57

		回答者数	その通りと思った	そういう見方もあるのかと思った	反発・疑問を感じた	特に何も思わなかった	無回答・不明
市	全 体	473 100.0%	52 11.0%	283 59.8%	58 12.3%	68 14.4%	12 2.5%
性 別	男 性	229 100.0%	31 13.5%	134 58.5%	24 10.5%	35 15.3%	5 2.2%
	女 性	244 100.0%	21 8.6%	149 61.1%	34 13.9%	33 13.5%	7 2.9%
年 齢 別	20 歳 代	16 100.0%	4 25.0%	5 31.3%	2 12.5%	4 25.0%	1 6.3%
	30 歳 代	55 100.0%	6 10.9%	34 61.8%	10 18.2%	5 9.1%	0 0.0%
	40 歳 代	66 100.0%	7 10.6%	41 62.1%	11 16.7%	5 7.6%	2 3.0%
	50 歳 代	118 100.0%	16 13.6%	65 55.1%	16 13.6%	18 15.3%	3 2.5%
	60 歳 代	120 100.0%	8 6.7%	75 62.5%	11 9.2%	23 19.2%	3 2.5%
	70歳以上	98 100.0%	11 11.2%	63 64.3%	8 8.2%	13 13.3%	3 3.1%





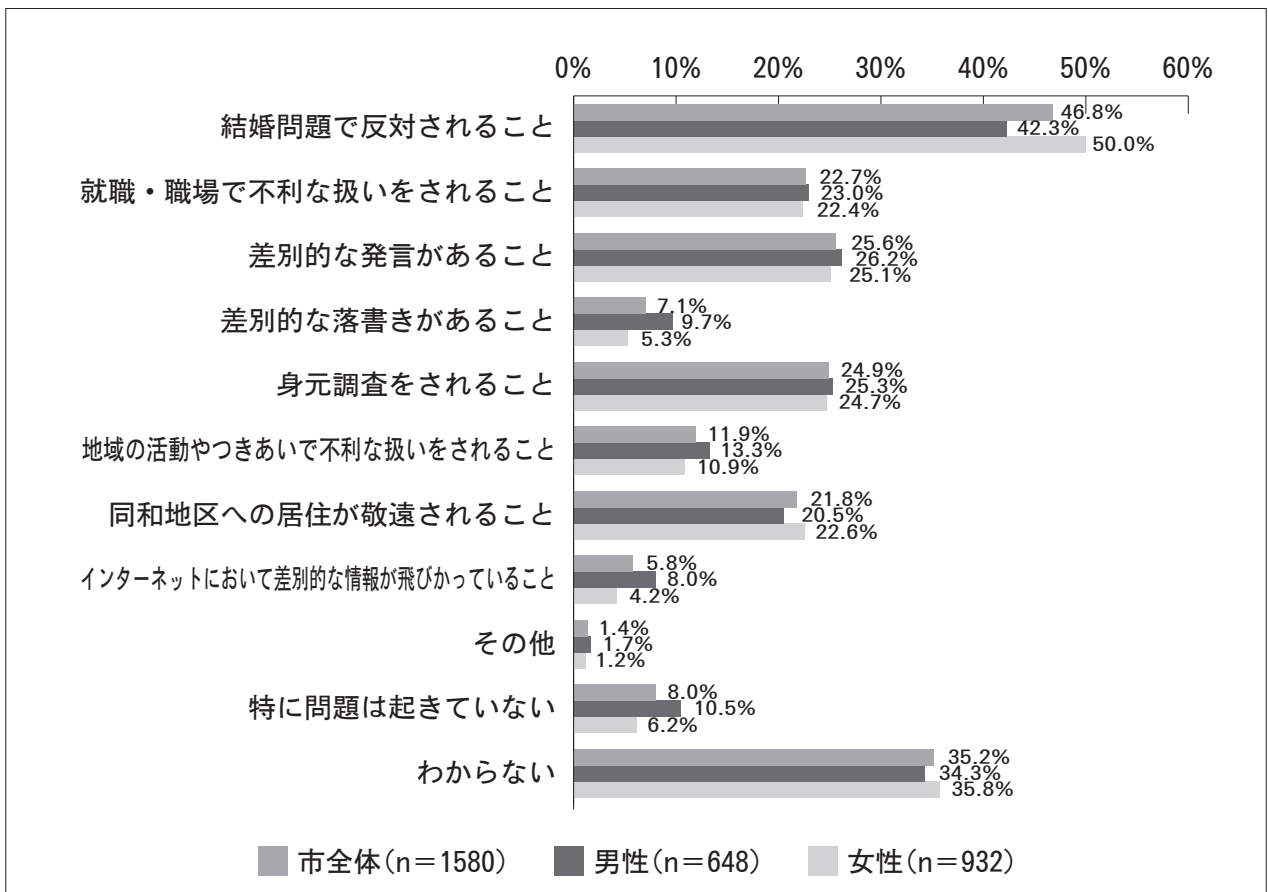
「同和地区出身者はこわい」というような話を聞いて感じたのとは異なる結果が現れています。性別では、女性よりも男性に「その通りと思った」という傾向が強く、年齢別では20歳代が他の年代のおよそ2～4倍の比率でその通りと思っています。20歳代は、「特に何も思わなかった」と答えた人の比率も25%で、他の年代を大きく超えています。「こわい」と聞いて反発・疑問を感知した20歳代ですが、関わり方については消極的な態度が示されています。

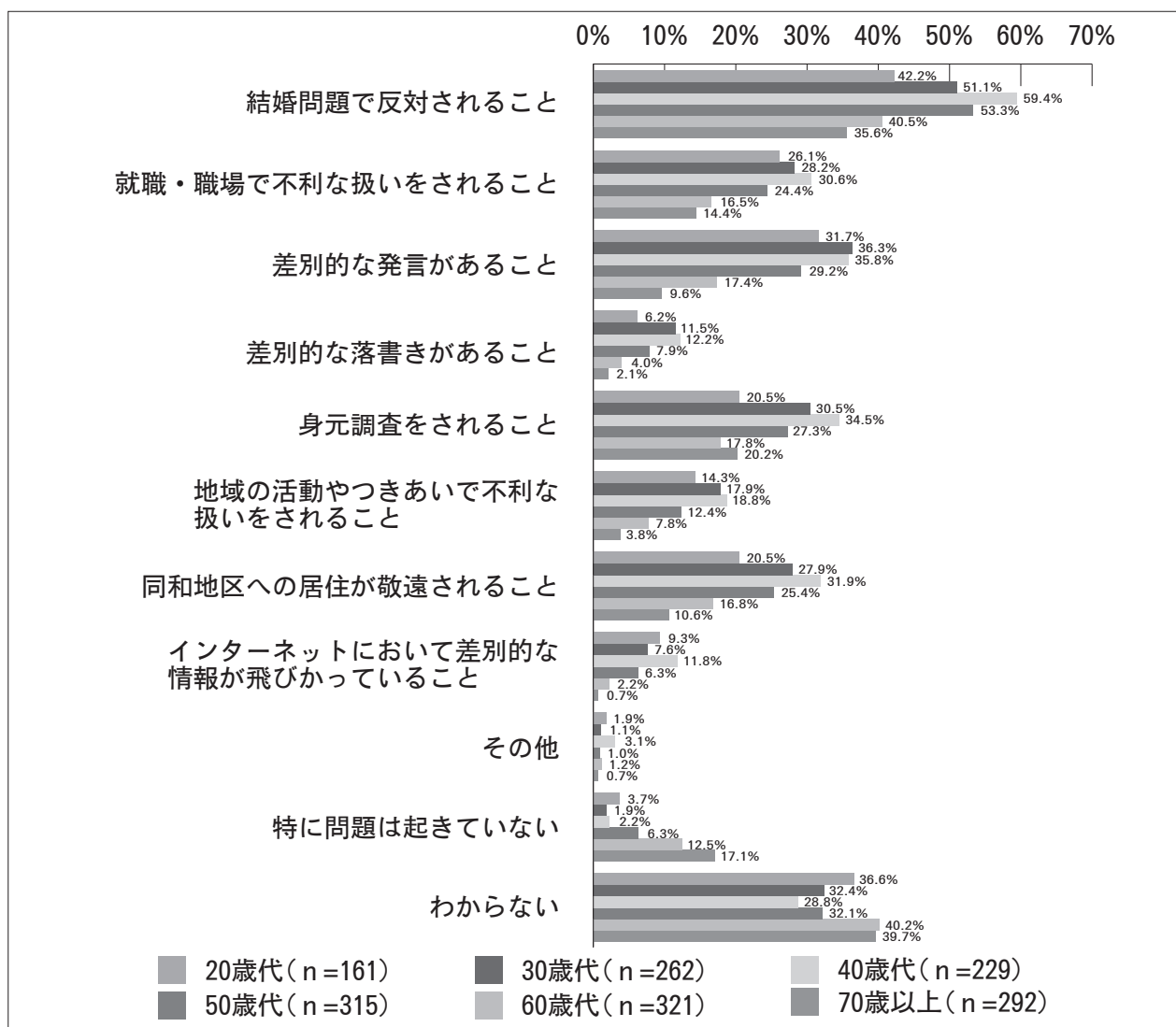
3 同和問題への関心度

問23 あなたは、同和問題に関して、現在、どのような問題が起きていると思いますか。
(○はいくつでも)

表-58

	回 答 者 数	結 婚 問 題 で 反 対 さ れ る こ と	就 職 ・ 職 場 で 不 利 な 扱 い を さ れ る こ と	差 別 的 な 発 言 が あ る こ と	差 別 的 な 落 書 き が あ る こ と	身 元 調 査 を さ れ る こ と	地 域 の 活 動 や つ き あ い で 不 利 な 扱 い を さ れ る こ と	同 和 地 区 へ の 居 住 が 敬 遠 さ れ る こ と	フ リ ー に お い て 差 別 的 な 情 報 が 飛 び か っ て い る こ と	そ の 他	特 に 問 題 は 起 き て い な い	わ か ら な い	
市 全 体	1,580 100.0%	740 46.8%	358 22.7%	404 25.6%	112 7.1%	394 24.9%	188 11.9%	344 21.8%	91 5.8%	22 1.4%	126 8.0%	556 35.2%	
性 別	男 性	648 100.0%	274 42.3%	149 23.0%	170 26.2%	63 9.7%	164 25.3%	86 13.3%	133 20.5%	52 8.0%	11 1.7%	68 10.5%	222 34.3%
	女 性	932 100.0%	466 50.0%	209 22.4%	234 25.1%	49 5.3%	230 24.7%	102 10.9%	211 22.6%	39 4.2%	11 1.2%	58 6.2%	334 35.8%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	68 42.2%	42 26.1%	51 31.7%	10 6.2%	33 20.5%	23 14.3%	33 20.5%	15 9.3%	3 1.9%	6 3.7%	59 36.6%
	30 歳 代	262 100.0%	134 51.1%	74 28.2%	95 36.3%	30 11.5%	80 30.5%	47 17.9%	73 27.9%	20 7.6%	3 1.1%	5 1.9%	85 32.4%
	40 歳 代	229 100.0%	136 59.4%	70 30.6%	82 35.8%	28 12.2%	79 34.5%	43 18.8%	73 31.9%	27 11.8%	7 3.1%	5 2.2%	66 28.8%
	50 歳 代	315 100.0%	168 53.3%	77 24.4%	92 29.2%	25 7.9%	86 27.3%	39 12.4%	80 25.4%	20 6.3%	3 1.0%	20 6.3%	101 32.1%
	60 歳 代	321 100.0%	130 40.5%	53 16.5%	56 17.4%	13 4.0%	57 17.8%	25 7.8%	54 16.8%	7 2.2%	4 1.2%	40 12.5%	129 40.2%
	70歳以上	292 100.0%	104 35.6%	42 14.4%	28 9.6%	6 2.1%	59 20.2%	11 3.8%	31 10.6%	2 0.7%	2 0.7%	50 17.1%	116 39.7%





「特に問題は起きていない」と答えた人は全体で8%です。また、「わからない」と答えた人は全体の35.2%です。4割強の人に、問題は感じられないことがわかります。では、残りの6割弱の人はどうな問題が起きていると思っているのでしょうか。

特に高い比率の回答は「結婚問題で反対されること」で48%、回答者の半数近くに達します。「差別的な発言があること」「身元調査をされること」「就職・職場で不利な扱いをされること」「同和地区への居住が敬遠されること」も20%を超える比率で、問題が起きているのではないかと思います。

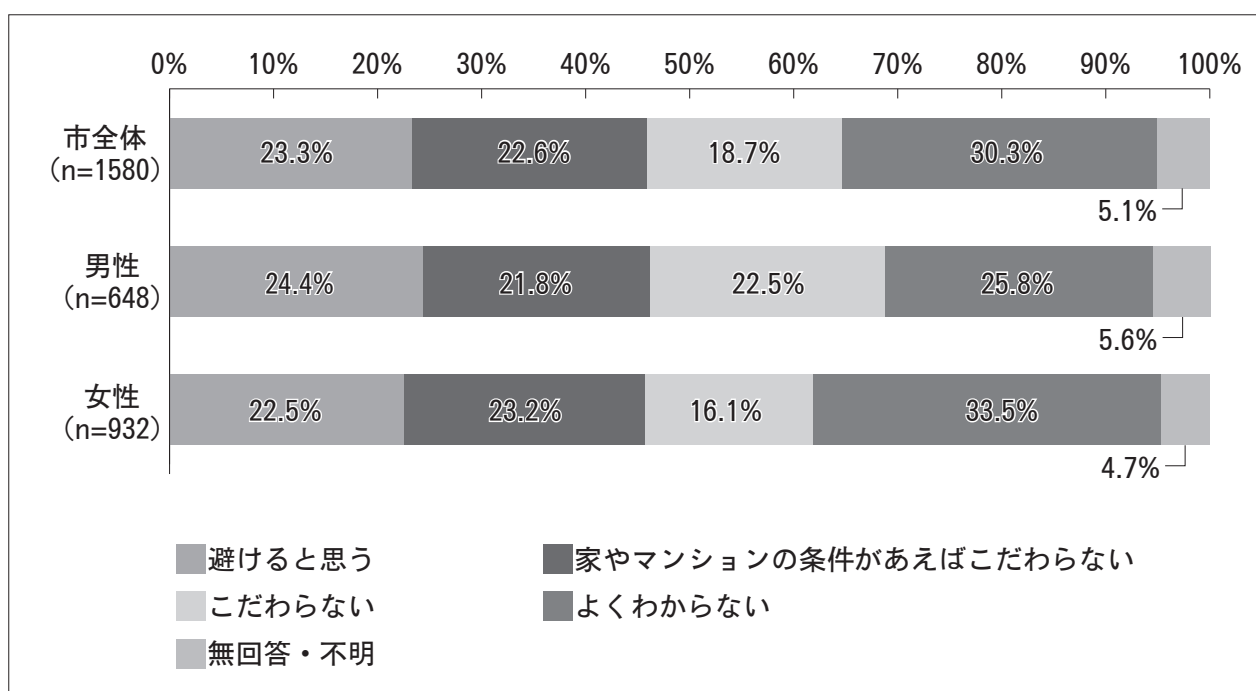
では、性別、年齢別に違いがあるのでしょうか。性別に見られる違いは、「結婚問題で反対されること」と答えた人が男性よりも女性の方が多くことです。他の項目については性別に特に違いはありません。年齢別では、40歳代が同和問題についてより高い比率で関心をもっています。それより若い年代、それより高い年代共に同和問題の関心度は下がる傾向にあります。特に60歳代以上になると、問題について関心のある人が20%を超えたのは僅か1項目になります。近時、職場における人権・同和教育が少しずつ浸透していますが、その効果が現れていることも考えられます。

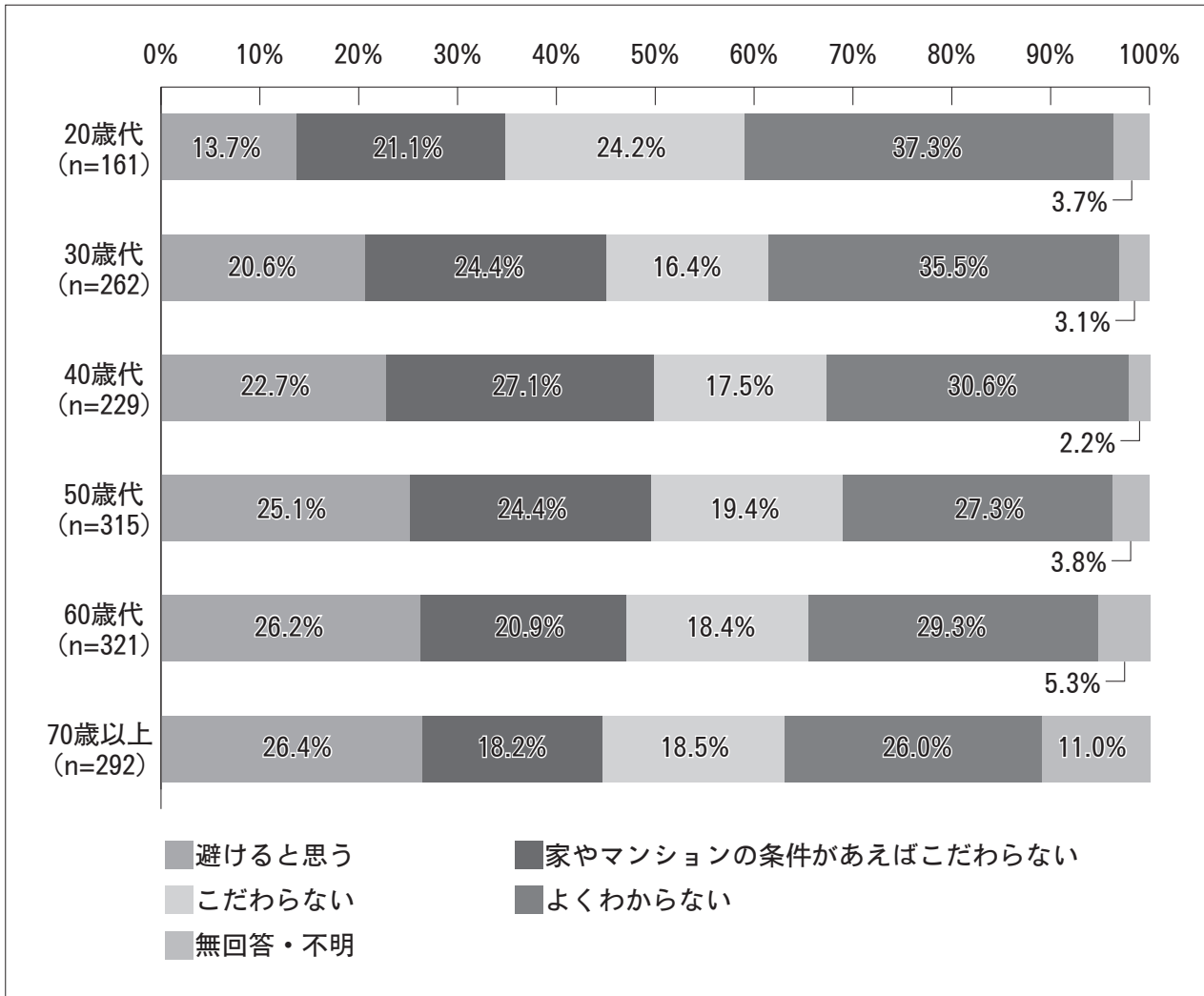
4 同和地区・同和地区出身者に対する受け止め方

問27 あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区を避けることがありますか。(〇は1つだけ)

表-59

		回答者数	避けると思う	家やマンションの条件があえばこだわらない	こだわらない	よくわからない	無回答・不明
市全体		1,580 100.0%	368 23.3%	357 22.6%	296 18.7%	479 30.3%	80 5.1%
性別	男性	648 100.0%	158 24.4%	141 21.8%	146 22.5%	167 25.8%	36 5.6%
	女性	932 100.0%	210 22.5%	216 23.2%	150 16.1%	312 33.5%	44 4.7%
年齢別	20歳代	161 100.0%	22 13.7%	34 21.1%	39 24.2%	60 37.3%	6 3.7%
	30歳代	262 100.0%	54 20.6%	64 24.4%	43 16.4%	93 35.5%	8 3.1%
	40歳代	229 100.0%	52 22.7%	62 27.1%	40 17.5%	70 30.6%	5 2.2%
	50歳代	315 100.0%	79 25.1%	77 24.4%	61 19.4%	86 27.3%	12 3.8%
	60歳代	321 100.0%	84 26.2%	67 20.9%	59 18.4%	94 29.3%	17 5.3%
	70歳以上	292 100.0%	77 26.4%	53 18.2%	54 18.5%	76 26.0%	32 11.0%





「よくわからない」と答えた人が全体の30.3%で、「こだわらない」と答えた人は18.7%です。「家やマンションの条件があればこだわらない」と答えた人は22.6%で、「避けると思う」人は23.3%です。

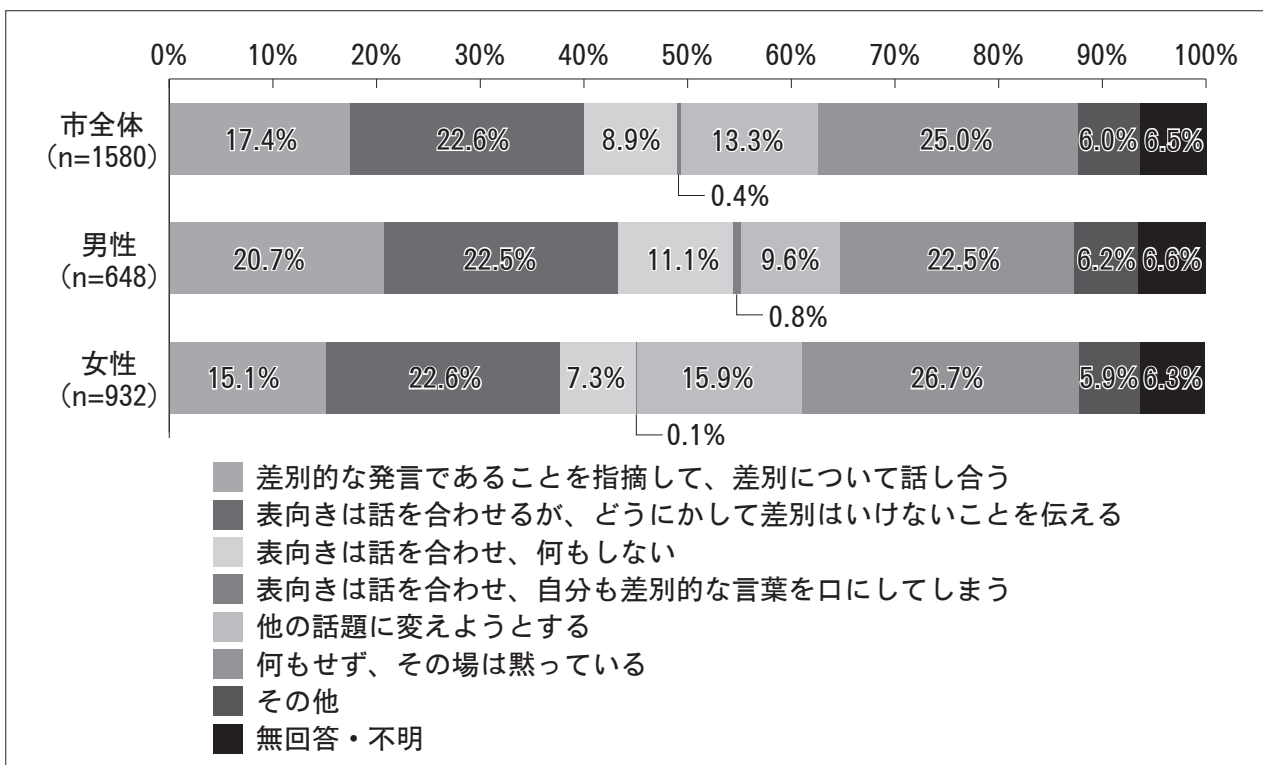
「こだわらない」と答えた人は性別ではやや男性に多く、年齢別では20歳代に多いことがわかります。また、20歳代は「避けると思う」と答えた人も年齢別で最も少なく、あまりこだわりを感じなくなっていることが読みとれます。

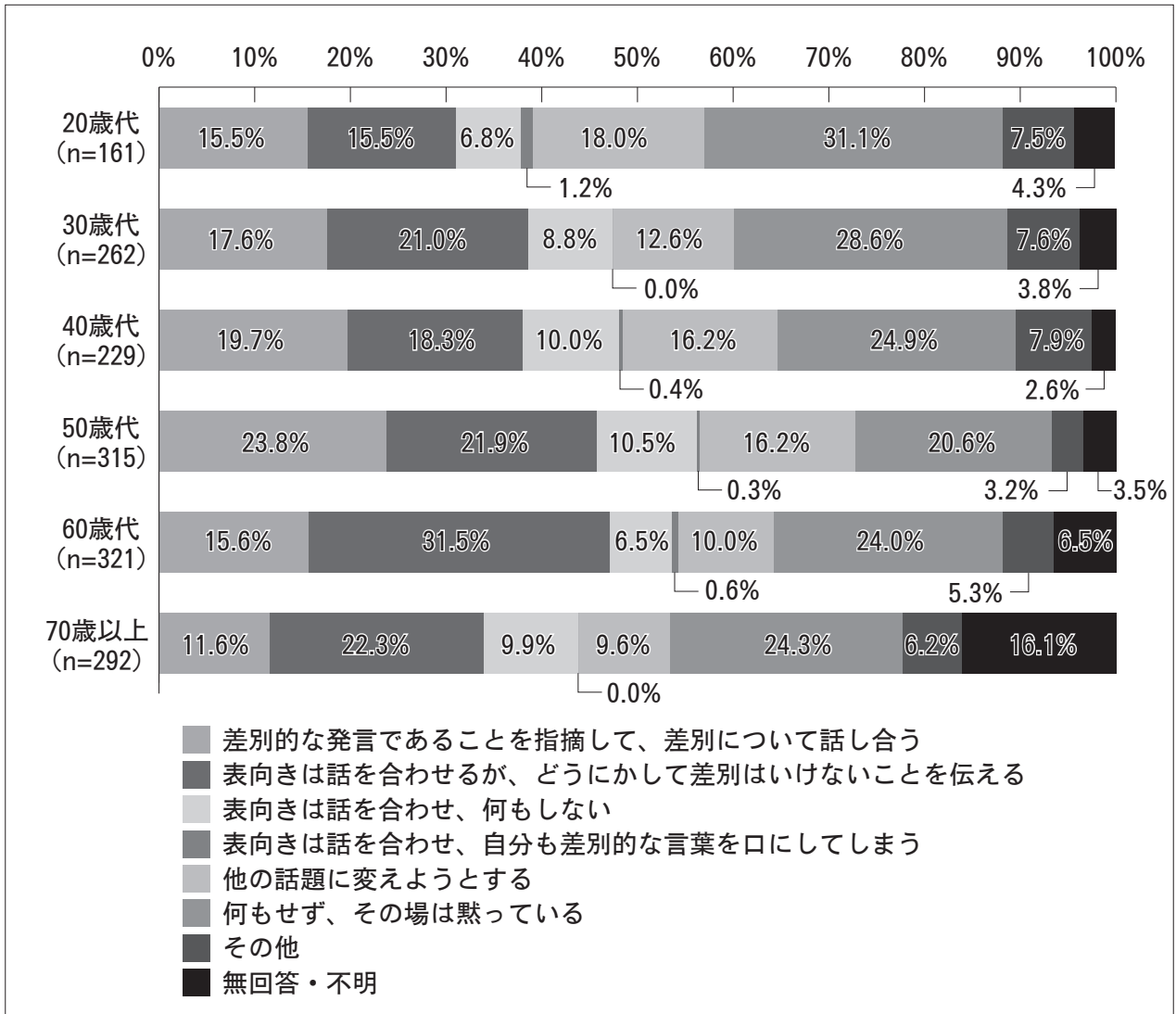
ただ、住宅選択時に同和地区を「避けると思う」と答えた人が23.3%、「家やマンションの条件があればこだわらない」と答えた人が22.6%いる点にこの問題の根深さがあります。

問28 学校や職場、日常生活の中で、誰かが同和地区出身者に対する差別的な発言をした時、あなたはこういった態度を取るとお思いますか。(○は1つだけ)

表-60

	回答者数	差別的な発言であることを指摘して、差別について話し合う	表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える	表向きは話を合わせ、何もしない	表向きは話を合わせ、自分も差別的な言葉を口にしてしまう	他の話題に変えようとする	何もせず、その場は黙っている	その他	無回答・不明	
市全体	1,580 100.0%	275 17.4%	357 22.6%	140 8.9%	6 0.4%	210 13.3%	395 25.0%	95 6.0%	102 6.5%	
性別	男性	648 100.0%	134 20.7%	146 22.5%	72 11.1%	5 0.8%	62 9.6%	146 22.5%	40 6.2%	43 6.6%
	女性	932 100.0%	141 15.1%	211 22.6%	68 7.3%	1 0.1%	148 15.9%	249 26.7%	55 5.9%	59 6.3%
年齢別	20歳代	161 100.0%	25 15.5%	25 15.5%	11 6.8%	2 1.2%	29 18.0%	50 31.1%	12 7.5%	7 4.3%
	30歳代	262 100.0%	46 17.6%	55 21.0%	23 8.8%	0 0.0%	33 12.6%	75 28.6%	20 7.6%	10 3.8%
	40歳代	229 100.0%	45 19.7%	42 18.3%	23 10.0%	1 0.4%	37 16.2%	57 24.9%	18 7.9%	6 2.6%
	50歳代	315 100.0%	75 23.8%	69 21.9%	33 10.5%	1 0.3%	51 16.2%	65 20.6%	10 3.2%	11 3.5%
	60歳代	321 100.0%	50 15.6%	101 31.5%	21 6.5%	2 0.6%	32 10.0%	77 24.0%	17 5.3%	21 6.5%
	70歳以上	292 100.0%	34 11.6%	65 22.3%	29 9.9%	0 0.0%	28 9.6%	71 24.3%	18 6.2%	47 16.1%



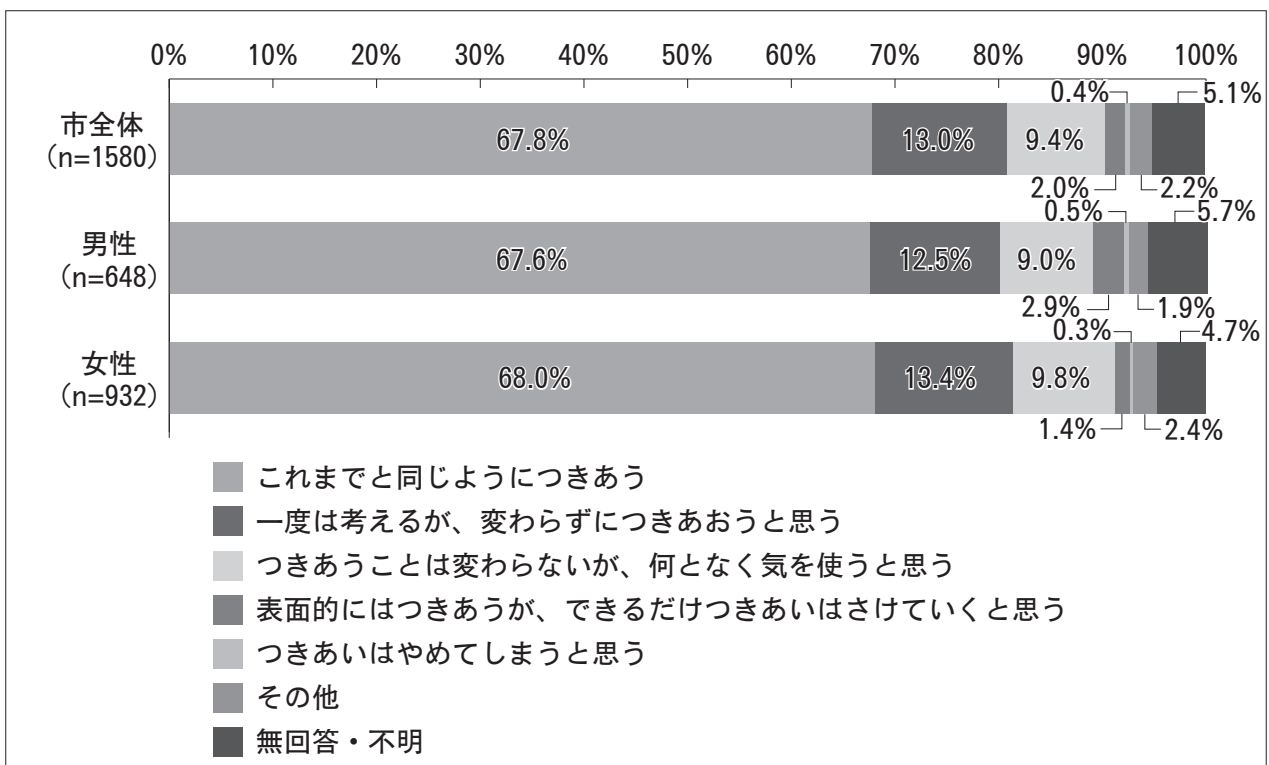


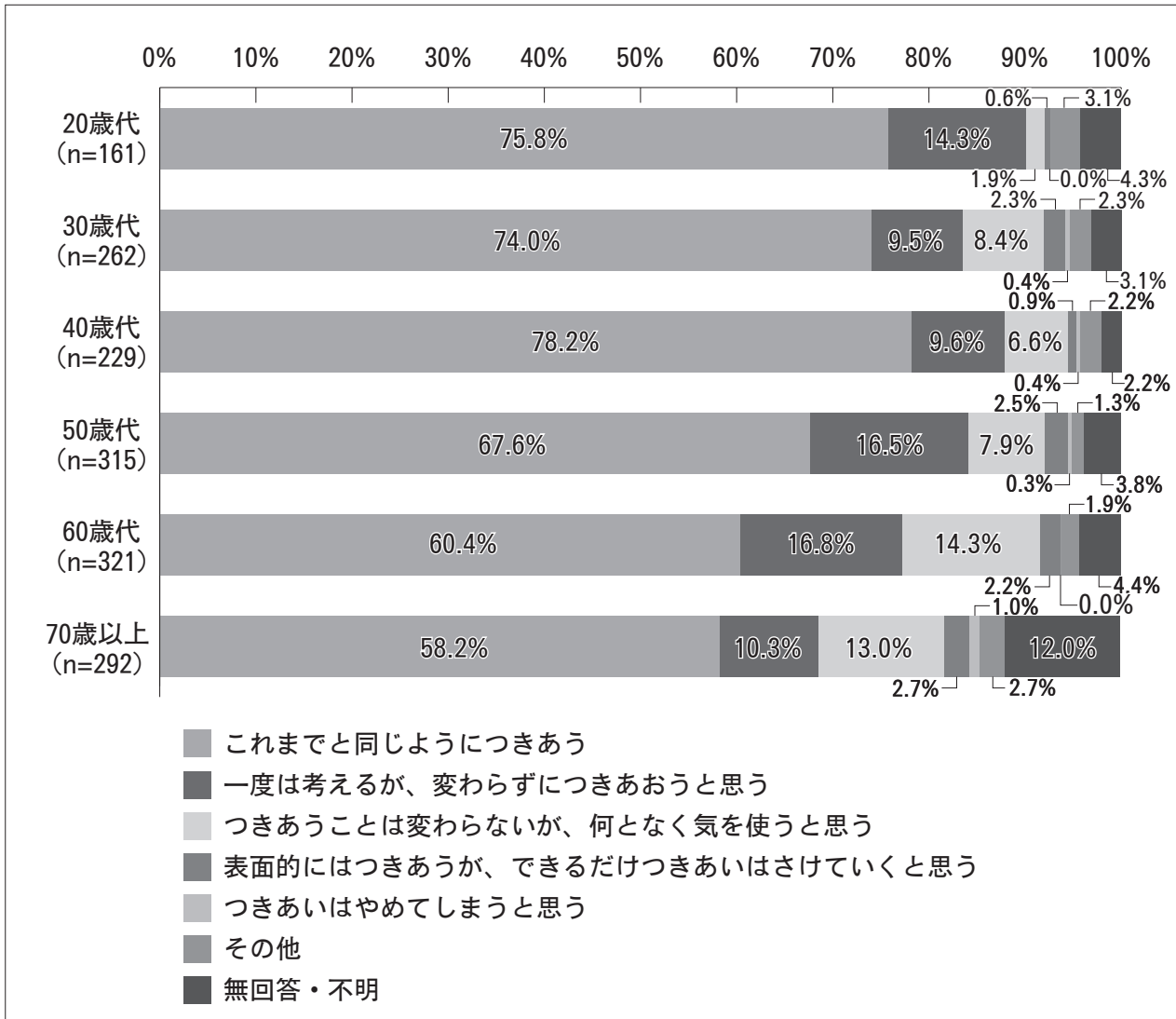
「差別的な発言であることを指摘して、差別について話し合う」と答えた人が17.4%で、「表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える」と答えた人が22.6%となっています。続いて「何もせず、その場は黙っている」と答えた人が25%、「他の話題に変えようとする」と答えた人が13.3%、「表向きは話を合わせ、何もしない」と答えた人が8.9%と続きます。性別で見ると、男性に制止行動が、女性に話題変更行動が、より高く現われています。また、年齢別では20歳代が他の年代と比較して「他の話題に変えようとする」「何もせず、その場は黙っている」と答えた人の比率が高くなっています。

問29 日頃親しくつきあっている職場の友人や近所の人が同和地区出身者だとわかった場合、あなたはどのようにしますか。(○は1つだけ)

表-61

		回 答 者 数	こ れ ま で と 同 じ よ う に つ き あ う	一 度 は 考 え る が 、 変 わ ら ず に つ き あ お う と 思 う	つ き あ う こ と は 変 わ ら な い が 、 何 と な く 気 を 使 う と 思 う	表 面 的 に は つ き あ う が 、 で き る だ け つ き あ い は さ け て い く と 思 う	つ き あ い は や め て し ま う と 思 う	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,580 100.0%	1,072 67.8%	206 13.0%	149 9.4%	32 2.0%	6 0.4%	34 2.2%	81 5.1%
性 別	男 性	648 100.0%	438 67.6%	81 12.5%	58 9.0%	19 2.9%	3 0.5%	12 1.9%	37 5.7%
	女 性	932 100.0%	634 68.0%	125 13.4%	91 9.8%	13 1.4%	3 0.3%	22 2.4%	44 4.7%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	122 75.8%	23 14.3%	3 1.9%	1 0.6%	0 0.0%	5 3.1%	7 4.3%
	30 歳 代	262 100.0%	194 74.0%	25 9.5%	22 8.4%	6 2.3%	1 0.4%	6 2.3%	8 3.1%
	40 歳 代	229 100.0%	179 78.2%	22 9.6%	15 6.6%	2 0.9%	1 0.4%	5 2.2%	5 2.2%
	50 歳 代	315 100.0%	213 67.6%	52 16.5%	25 7.9%	8 2.5%	1 0.3%	4 1.3%	12 3.8%
	60 歳 代	321 100.0%	194 60.4%	54 16.8%	46 14.3%	7 2.2%	0 0.0%	6 1.9%	14 4.4%
	70歳以上	292 100.0%	170 58.2%	30 10.3%	38 13.0%	8 2.7%	3 1.0%	8 2.7%	35 12.0%





全体では、67.8%の人が、「これまでと同じようにつきあう」と答えています。「一度は考えるが、変わらずにつきあおうと思う」と答えた13%の人を加えると、80.8%の人が、これまでも変わらずにつきあう態度であることがわかります。「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいはさけていくと思う」「つきあいはやめてしまうと思う」と答えた人の合計は全体で2.4%と低い比率です。年齢別で見ると、「これまでと同じようにつきあう」「一度は考えるが、変わらずにつきあおうと思う」と答えた人の合計は、20歳代で最も高い比率です。

問30 仮に、あなたのお子さんが、恋愛をし、結婚したいといっている相手が同和地区出身者だとわかった場合、

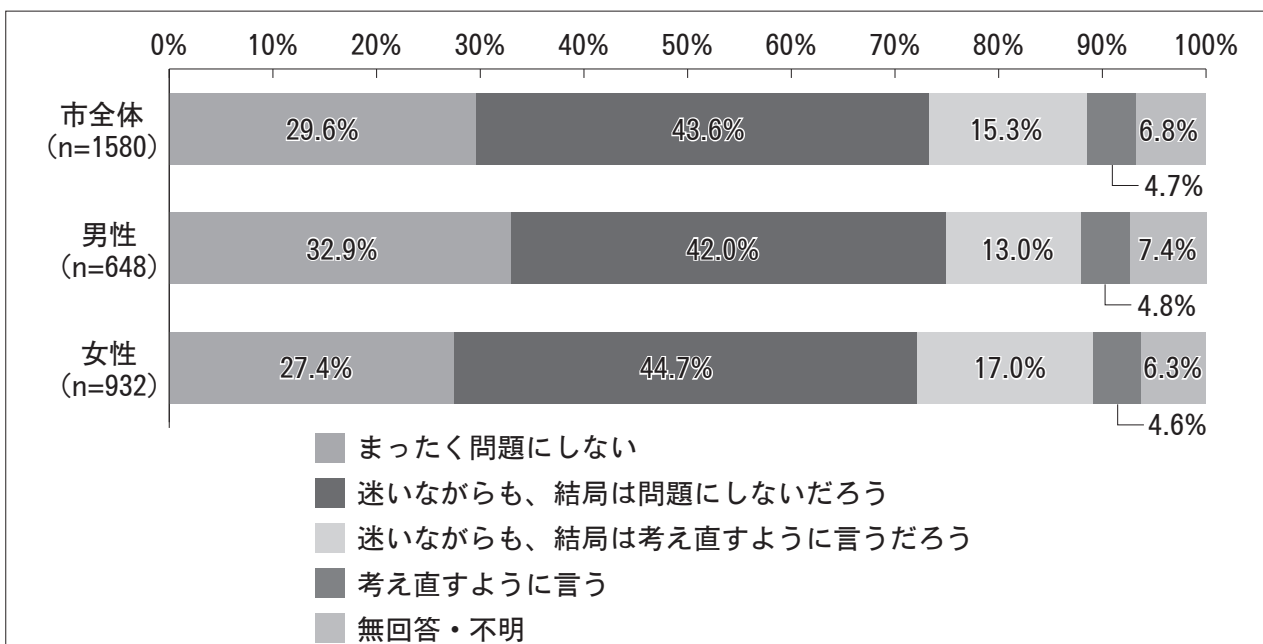
※〈お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。〉

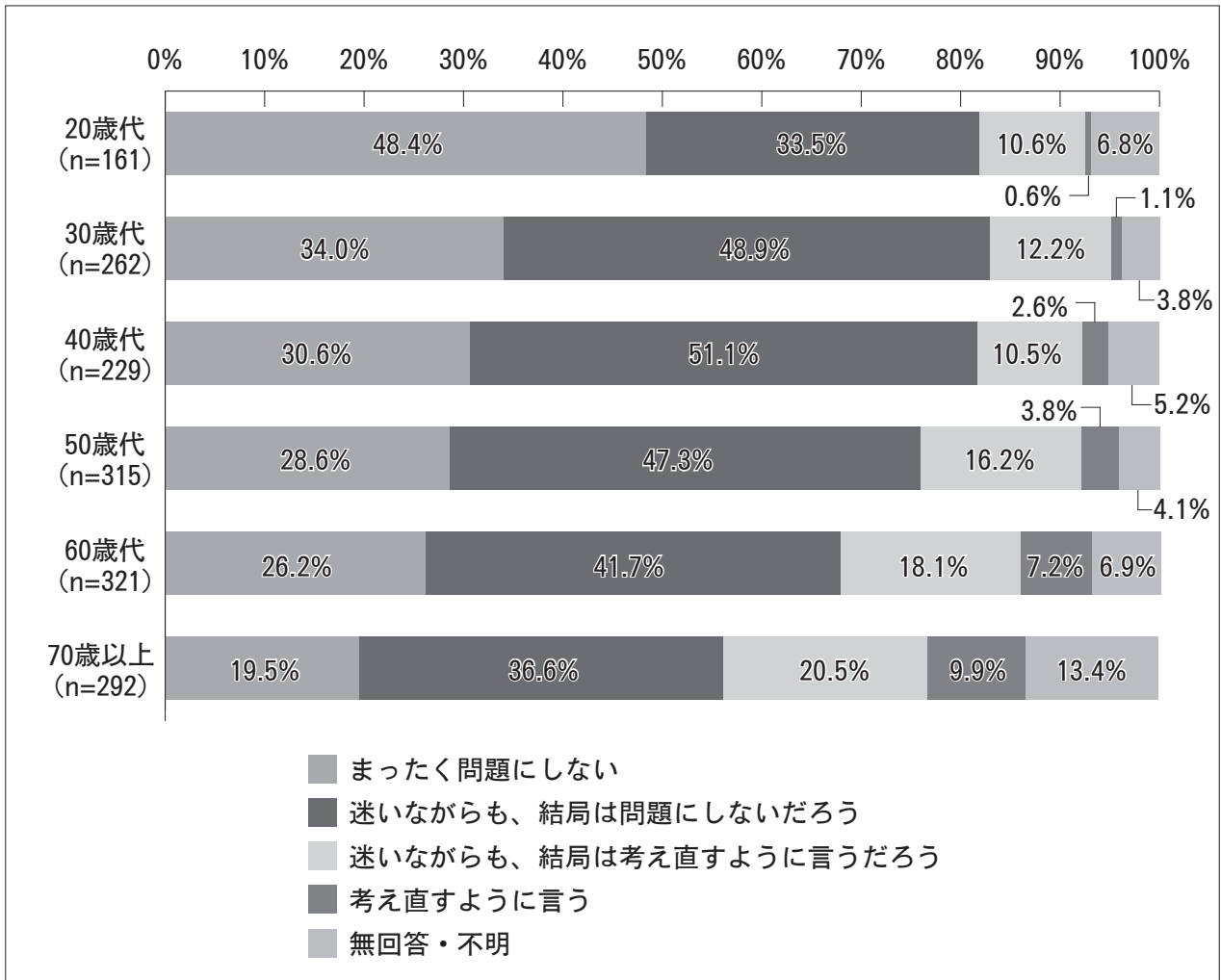
(1) あなたはどんな態度を取ると思いますか。(○は1つだけ)

(1) どのような態度をとるか

表-62

		回 答 者 数	ま った く 問 題 に し な い	迷 い な が ら も 、 結 局 は 問 題 に し な い だ ら う	迷 い な が ら も 、 結 局 は 考 え 直 す よ う に 言 う だ ら う	考 え 直 す よ う に 言 う	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,580 100.0%	468 29.6%	689 43.6%	242 15.3%	74 4.7%	107 6.8%
性 別	男 性	648 100.0%	213 32.9%	272 42.0%	84 13.0%	31 4.8%	48 7.4%
	女 性	932 100.0%	255 27.4%	417 44.7%	158 17.0%	43 4.6%	59 6.3%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	78 48.4%	54 33.5%	17 10.6%	1 0.6%	11 6.8%
	30 歳 代	262 100.0%	89 34.0%	128 48.9%	32 12.2%	3 1.1%	10 3.8%
	40 歳 代	229 100.0%	70 30.6%	117 51.1%	24 10.5%	6 2.6%	12 5.2%
	50 歳 代	315 100.0%	90 28.6%	149 47.3%	51 16.2%	12 3.8%	13 4.1%
	60 歳 代	321 100.0%	84 26.2%	134 41.7%	58 18.1%	23 7.2%	22 6.9%
	70歳以上	292 100.0%	57 19.5%	107 36.6%	60 20.5%	29 9.9%	39 13.4%





全体では、「まったく問題にしない」と答えた人が29.6%います。「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」と答えた43.6%を加えると、73.2%は問題にしないと答えています。他方、「迷いながらも、結局は考え直すように言うだろう」「考え直すように言う」と答えた人は合わせて20%になります。この傾向は性別でもほぼ同じです。年齢別に見ると、「まったく問題にしない」と答えた人の比率は20歳代が最も高く、年代が上がるほど後退します。逆に「考え直すように言う」と答えた人の比率は20歳代が最も低く、年代が上がるほど増加することがわかります。

問30 仮に、あなたのお子さんが、恋愛をし、結婚したいといっている相手が同和地区出身者だとわかった場合、

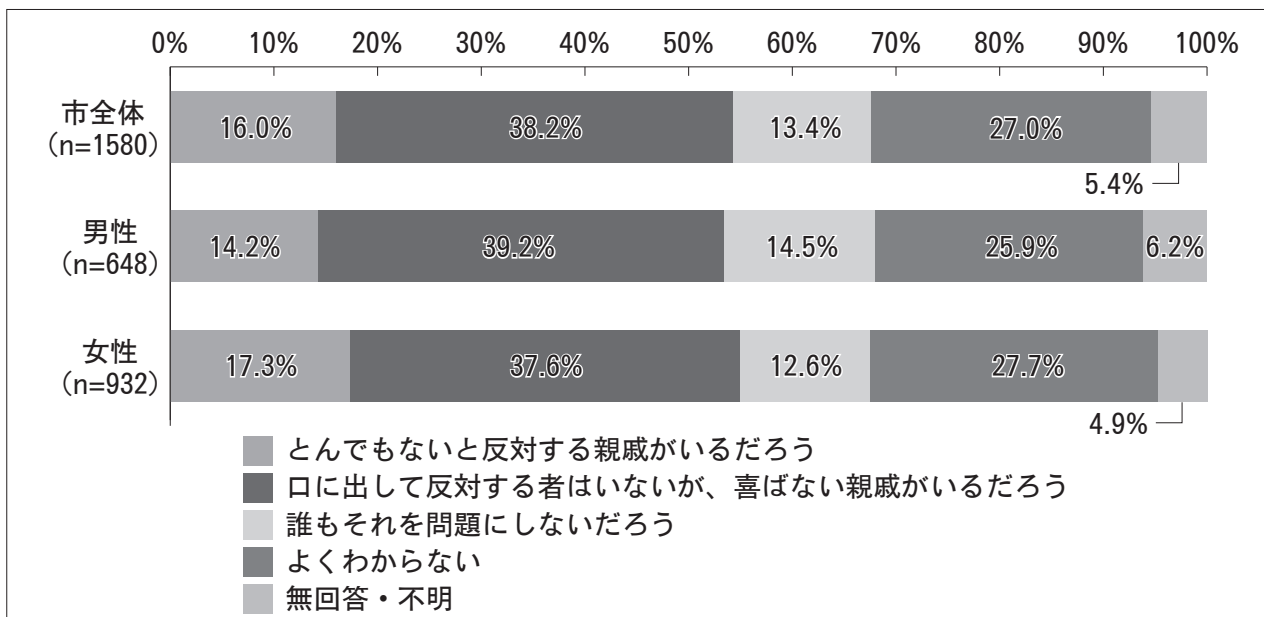
※ 〈お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。〉

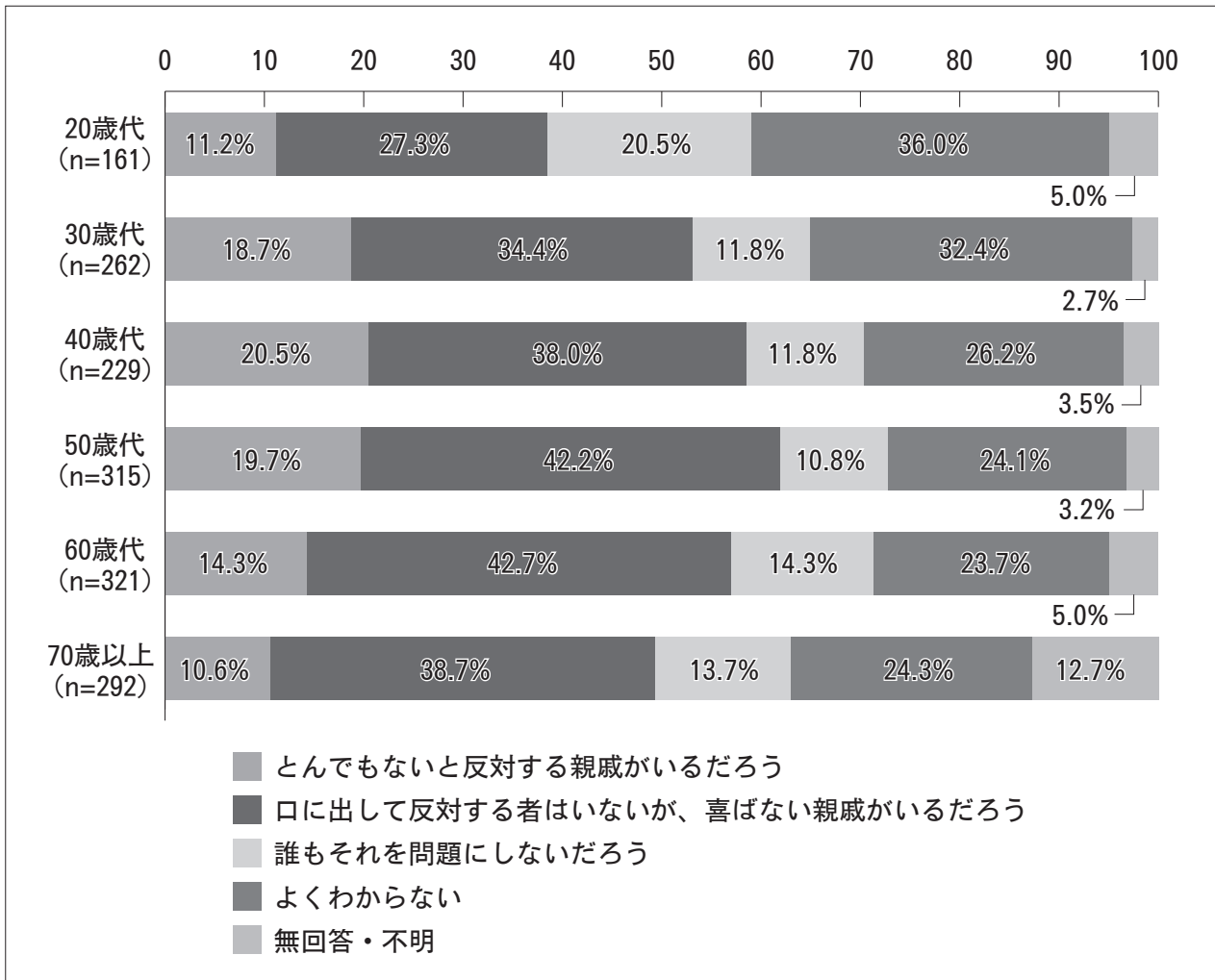
(2) あなたの親戚はどんな態度を取るとおもいますか。(〇は1つだけ)

(2) 親戚はどのような態度をとるか

表-63

		回 答 者 数	と ん で も な い と 反 対 す る 親 戚 が い る だ ら う	口 に 出 し て 反 対 す る 者 は い な い が 、 喜 ば な い 親 戚 が い る だ ら う	誰 し も な い れ だ を ろ 問 う 題	よ く わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市	全 体	1,580 100.0%	253 16.0%	604 38.2%	211 13.4%	426 27.0%	86 5.4%
性 別	男 性	648 100.0%	92 14.2%	254 39.2%	94 14.5%	168 25.9%	40 6.2%
	女 性	932 100.0%	161 17.3%	350 37.6%	117 12.6%	258 27.7%	46 4.9%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	18 11.2%	44 27.3%	33 20.5%	58 36.0%	8 5.0%
	30 歳 代	262 100.0%	49 18.7%	90 34.4%	31 11.8%	85 32.4%	7 2.7%
	40 歳 代	229 100.0%	47 20.5%	87 38.0%	27 11.8%	60 26.2%	8 3.5%
	50 歳 代	315 100.0%	62 19.7%	133 42.2%	34 10.8%	76 24.1%	10 3.2%
	60 歳 代	321 100.0%	46 14.3%	137 42.7%	46 14.3%	76 23.7%	16 5.0%
	70歳以上	292 100.0%	31 10.6%	113 38.7%	40 13.7%	71 24.3%	37 12.7%





「誰もそれを問題にしないだろう」と答えた人は全体で13.4%と、あまり高い比率ではありません。「よくわからない」と答えた人が27%います。親戚の中には反対する人がいるかもしれないという不安が多くの人にあることがわかります。「とんでもないと反対する親戚がいるだろう」と答えたのは16%ですが、「口に出して反対する者はいないが、喜ばない親戚がいるだろう」と答えた人は38.2%になります。本人同士の絆は固いのに親戚が反対して結婚がうまくいかないことがあるということがそのまま表現された数値だといえます。

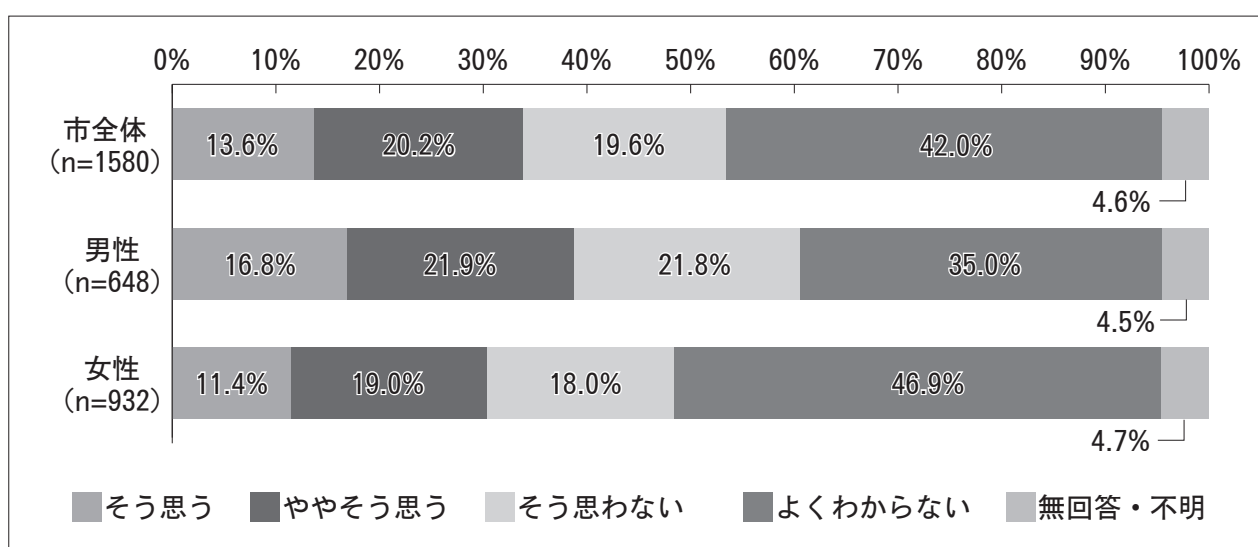
全体的傾向は性別で見ても大きくは変わりません。ただ、年齢別で見ると、20歳代は「よくわからない」「だれもそれを問題にしないだろう」の2項目が他の年代より高くなり、「とんでもないと反対する親戚がいるだろう」と答える比率が下がります。

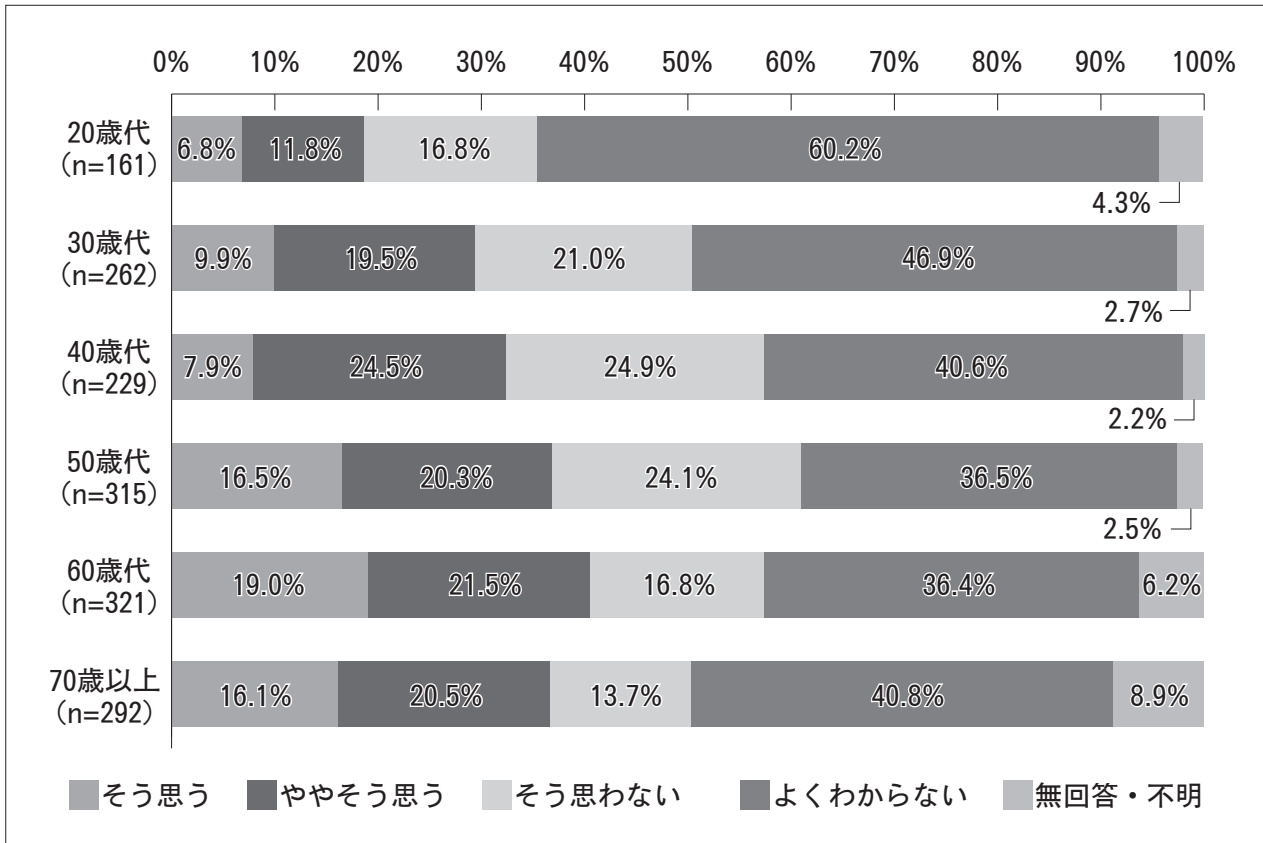
5 同和対策の受け止め方

問22 あなたは、同和対策はやりすぎであると思いますか。(○は1つだけ)

表-64

		回答者数	そう思う	ややそう 思う	そう思わ ない	よくわか らない	無回答・ 不明
市 全 体		1,580 100.0%	215 13.6%	319 20.2%	309 19.6%	664 42.0%	73 4.6%
性 別	男 性	648 100.0%	109 16.8%	142 21.9%	141 21.8%	227 35.0%	29 4.5%
	女 性	932 100.0%	106 11.4%	177 19.0%	168 18.0%	437 46.9%	44 4.7%
年 齢 別	20 歳 代	161 100.0%	11 6.8%	19 11.8%	27 16.8%	97 60.2%	7 4.3%
	30 歳 代	262 100.0%	26 9.9%	51 19.5%	55 21.0%	123 46.9%	7 2.7%
	40 歳 代	229 100.0%	18 7.9%	56 24.5%	57 24.9%	93 40.6%	5 2.2%
	50 歳 代	315 100.0%	52 16.5%	64 20.3%	76 24.1%	115 36.5%	8 2.5%
	60 歳 代	321 100.0%	61 19.0%	69 21.5%	54 16.8%	117 36.4%	20 6.2%
	70歳以上	292 100.0%	47 16.1%	60 20.5%	40 13.7%	119 40.8%	26 8.9%





同和問題についていろいろな角度から市民意識の現状を見てきました。では、問題解決を目的・目標に対策を講じてきている行政施策に対して、市民はどのように受け止めているのでしょうか。

全体を見た場合、「よくわからない」と答えた人が42%で、「無回答・不明」の4.6%を加えると、46.6%の人が、対策の適否についてはコメントできそうにないことが示されています。

では、一定の意見を持って答えた人の場合、やりすぎだと「そう思う」「ややそう思う」を合わせると33.8%で、「そう思わない」と答えた人は19.6%です。

性別で見ると、「よくわからない」と答えた人の比率は女性の方が高く、「そう思う」「ややそう思う」「そう思わない」意見はどれも男性の方が高い比率になっています。

年齢別に見た場合、20歳代と30歳代は、「よくわからない」と答える比率が他の年代より高くなります。40歳代と50歳代は、「そう思わない」比率が高くなります。「そう思う」「ややそう思う」と答えた比率の合計が最も高いのは60歳代です。こうした年齢別の意識差の背景には、歴史的・社会的経験の違いが底流にあると考えられます。

第6節 同和問題を解決する方法に関する意識

前節では同和問題に焦点を当て、市民が同和問題に対してどんな意識にあるかを分析しました。これを受け、この節では同和問題の解決に向けてどんな態度や意見を持っているかについて、調査結果をもとに現状を分析します。

1 同和地区出身者に対する差別について

問31 同和地区出身者に対する差別について、A、B二人の意見が次のように分かれました。

Aの意見：今日では差別は許されない状況にあり、差別をする人がやがて孤立してしまう。

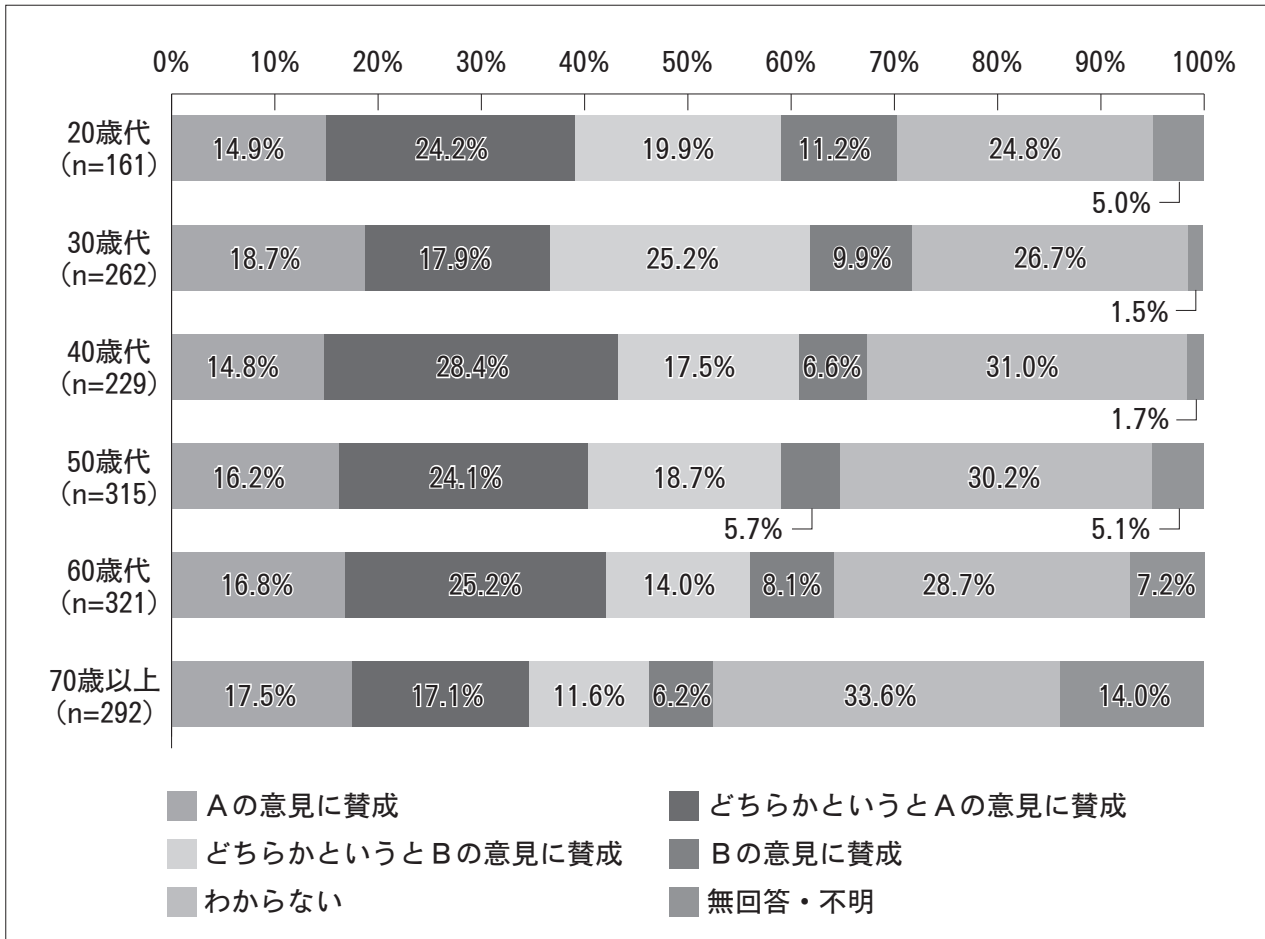
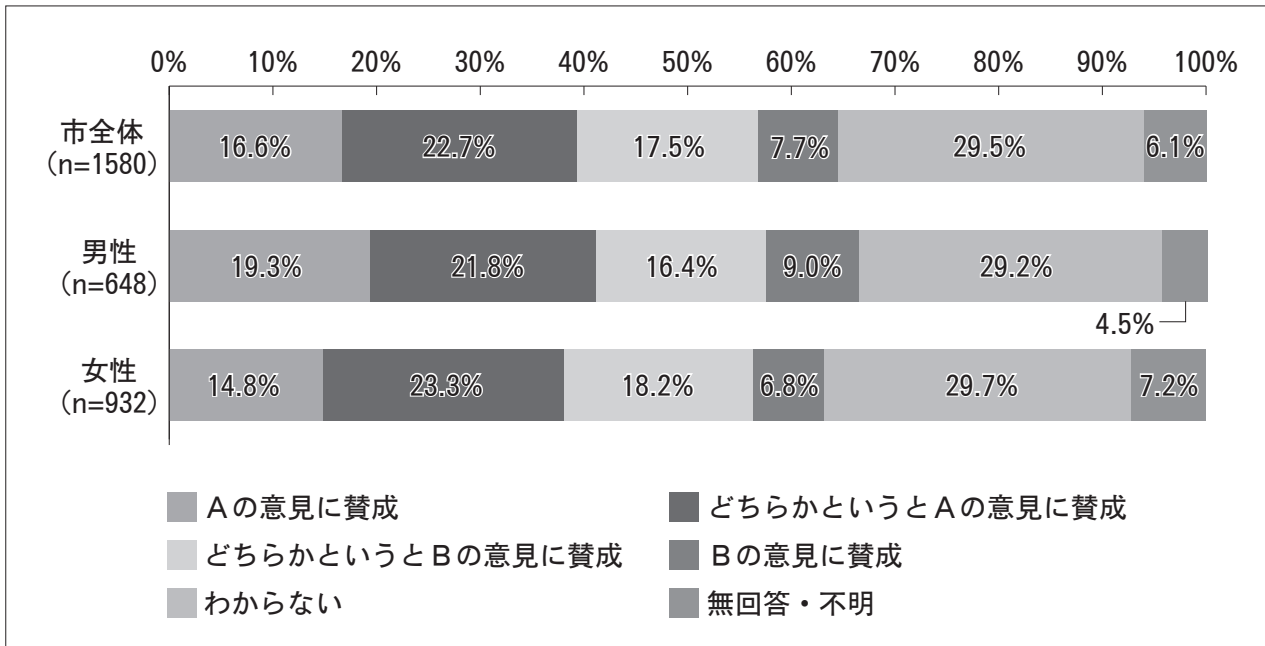
Bの意見：世間では、まだまだ差別が残っており、差別をなくそうとする人が孤立してしまう。

あなたは、A、Bどちらの意見に近いですか。(○は1つだけ)

A：差別する人がやがて孤立する、B：差別を無くそうとする人が孤立してしまう

表一65

		回答者数	Aの意見に賛成	どちらかというかとAの意見に賛成	どちらかというかとBの意見に賛成	Bの意見に賛成	わからない	無回答・不明
市全体		1,580 100.0%	263 16.6%	358 22.7%	276 17.5%	121 7.7%	466 29.5%	96 6.1%
性別	男性	648 100.0%	125 19.3%	141 21.8%	106 16.4%	58 9.0%	189 29.2%	29 4.5%
	女性	932 100.0%	138 14.8%	217 23.3%	170 18.2%	63 6.8%	277 29.7%	67 7.2%
年齢別	20歳代	161 100.0%	24 14.9%	39 24.2%	32 19.9%	18 11.2%	40 24.8%	8 5.0%
	30歳代	262 100.0%	49 18.7%	47 17.9%	66 25.2%	26 9.9%	70 26.7%	4 1.5%
	40歳代	229 100.0%	34 14.8%	65 28.4%	40 17.5%	15 6.6%	71 31.0%	4 1.7%
	50歳代	315 100.0%	51 16.2%	76 24.1%	59 18.7%	18 5.7%	95 30.2%	16 5.1%
	60歳代	321 100.0%	54 16.8%	81 25.2%	45 14.0%	26 8.1%	92 28.7%	23 7.2%
	70歳以上	292 100.0%	51 17.5%	50 17.1%	34 11.6%	18 6.2%	98 33.6%	41 14.0%



第5節に示した調査結果から、多くの人に、同和問題はまだ完全解決されていないと認識されていることがわかりますが、また一方、若い年代では結婚の場合もあまり気にしないという考えもだいぶ定着していることがうかがえます。

ところが、この間で最も高い比率だったのは「わからない」という回答です。「どちらかというところ」という意見も含めて、「差別する人がやがて孤立してしまう」と答えた人は39.3%、「差別をなくそうとする人が孤立する」と答えた人が25.2%です。

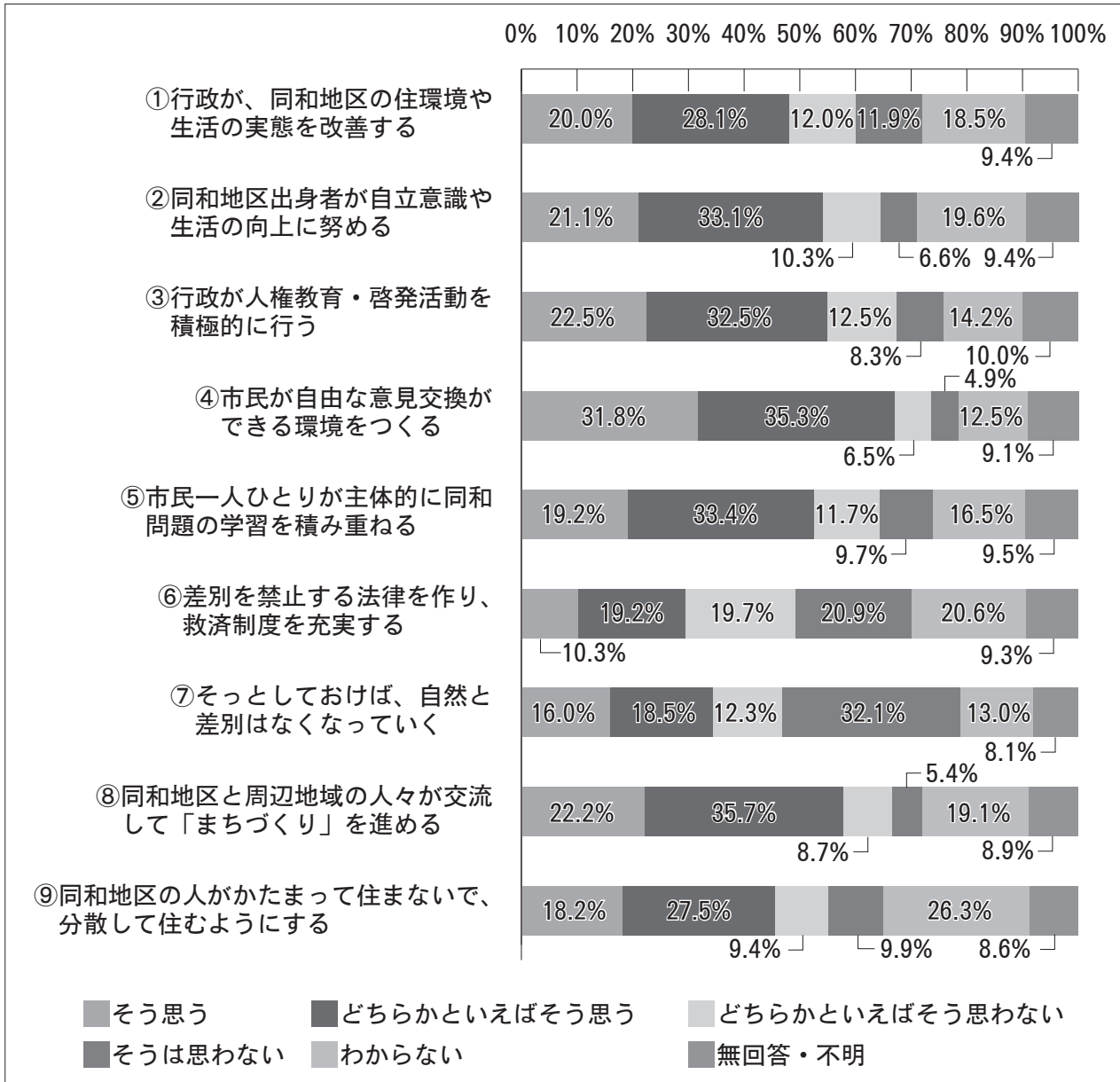
性別に大きな違いは現れません。年齢別に見ると、20歳代と30歳代は「差別をなくそうとする人が孤立してしまう」と答えた人の比率が他の年代より多く、40歳～60歳代ではむしろ「差別する人がやがて孤立してしまう」と答えた人の比率が増加します。

2 同和問題を解決する方法に関する意識

問32 あなたは、同和問題の解決に向けて、次の意見に対してどう思いますか。①～⑨のすべてについてお答えください。(○は1つだけ)

表—66

	回答者数	そう思う	思いません	どちらか	どちらか	わからない	不明回答
①行政が、同和地区の住環境や生活の実態を改善する	1,580 100.0%	316 20.0%	444 28.1%	190 12.0%	188 11.9%	293 18.5%	149 9.4%
②同和地区出身者が自立意識や生活の向上に努める	1,580 100.0%	333 21.1%	523 33.1%	162 10.3%	104 6.6%	310 19.6%	148 9.4%
③行政が人権教育・啓発活動を積極的に行う	1,580 100.0%	355 22.5%	514 32.5%	198 12.5%	131 8.3%	224 14.2%	158 10.0%
④市民が自由な意見交換ができる環境をつくる	1,580 100.0%	502 31.8%	557 35.3%	103 6.5%	78 4.9%	197 12.5%	143 9.1%
⑤市民一人ひとりが主体的に同和問題の学習を積み重ねる	1,580 100.0%	304 19.2%	527 33.4%	185 11.7%	153 9.7%	261 16.5%	150 9.5%
⑥差別を禁止する法律を作り、救済制度を充実する	1,580 100.0%	163 10.3%	303 19.2%	311 19.7%	330 20.9%	326 20.6%	147 9.3%
⑦そっとしておけば、自然と差別はなくなっていく	1,580 100.0%	253 16.0%	293 18.5%	194 12.3%	507 32.1%	205 13.0%	128 8.1%
⑧同和地区と周辺地域の人々が交流して「まちづくり」を進める	1,580 100.0%	350 22.2%	564 35.7%	138 8.7%	86 5.4%	302 19.1%	140 8.9%
⑨同和地区の人がかたまって住まないで、分散して住むようにする	1,580 100.0%	288 18.2%	435 27.5%	148 9.4%	157 9.9%	416 26.3%	136 8.6%



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を賛成意見、「そうは思わない」「どちらかといえばそう思わない」を反対意見とみて、取りあげた9つの項目を検討しましょう。

	賛 成	反 対
市民が自由な意見交換ができる環境をつくる	67.1%	11.4%
同和地区と周辺地域の人々が交流して『まちづくり』を進める	57.9%	14.1%
行政が人権教育・啓発活動を積極的に行う	55.0%	20.8%
同和地区出身者が自立意識や生活の向上に努める	54.2%	16.9%
市民一人ひとりが主体的に同和問題の学習を積み重ねる	52.6%	21.4%
行政が、同和地区の住環境や生活の実態を改善する	48.1%	23.9%
同和地区の人がかたまって住まないで、分散して住むようにする	45.7%	19.3%
そっとしておけば、自然と差別はなくなっていく	34.5%	44.4%
差別を禁止する法律を作り、救済制度を充実する	29.5%	40.6%

同和問題については、身近な人などから聞いた負のイメージをそのままの形で持っている人がいます。このような人に、正確な知識を伝えなければ差別はなくなりません。

さらに、この意見のもとでは、現在差別されている人は、差別がなくなるまで耐え続けなければならないこととなります。したがって「そっとしておけば、自然と差別はなくなっていく」という考えは間違っているといわざるをえません。また、「同和地区の人がかたまって住まないで、分散して住むようにする」についての考えも「そっとしておけば、自然と差別はなくなっていく」と同様といえるでしょう。

意見は様々ですが、同和問題は自分自身に関わる問題なのだという受け止め方が出来ているかどうか問われていると思われます。